

2003年3月

女性の人権に関する大学生の意識調査

- 韓国・台湾・中国・日本 -

はじめに

財団法人女性のためのアジア平和国民基金(アジア女性基金)は、いわゆる従軍慰安婦問題に関して、政府と国民が協力し、元「慰安婦」の方々に対する国民的な償いを行う事業と、女性をめぐる今日的な問題の解決のための事業を推進するとの趣旨で発足しました。1995年の設立以来、過去の反省にたち、女性の人権が尊重される平和で自由な社会をめざして、さまざまな事業を実施しています。

本調査の目的は、アジアの留学生と日本の学生を対象にして、(1)アジアの大学生が自国・地域での「女性の人権」をどのようにとらえているか、(2)日本の「女性の人権」意識や実態をどのように見ているかについて探り、(3)その比較対照と大学生がみたアジアの「女性の人権」の現状と課題を明らかにすることです。そのため、家族・社会の状態と本人の意識を、「性別役割分業」「男性・女性優遇」「これからの課題」などに関して尋ねました。

本調査を通して、大学生のみなさんが、男女のあり方について実にいろいろな思いや考えを日常生活の中でもっていることがわかりました。それぞれ歴史と文化の背景をもちながら、「女性の人権」を重視する気持ちは共有していることがはっきり表れました。これは、アジアの人びとと社会の将来にとっても非常に重要な視点になるのではないのでしょうか。自由回答で見られた「女性の人権」に対する大学生のみなさんの意識や関心が、それぞれの地域でこれからの男女関係に反映されていくと思われまます。各国(地域)の特徴や共通点が、今後のさまざまな活動にとって参考資料として役立つことを期待します。

調査の対象と規模などについては、首都圏中心であり、私立大学が主である等々、限られた範囲での実施となりました。調査結果についてはそのようにご理解をいただきたいと考えます。

調査の実施にあたって、調査票の配布などは、以下の方々にご協力いただきました。

(韓国) 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の羅京珠さん

(台湾) 早稲田大学政治経済学部の高雅琳さん

(中国) 上智大学法学部の李欣立さん

(日本) 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授の後藤乾一さん 東海大学外国語教育センター助教授の小倉紀蔵さん 東京学芸大学教育学部助教授の田村毅さん 明治学院大学国際学部助教授の原武史さん 立教大学ジェンダーフォーラム (国・地域名は五十音順)

ご協力いただいたみなさん、あわせて調査の回答にご協力くださった大学生のみなさんに、心より御礼申し上げます。

この調査の実施、整理・分析は、株式会社生活構造研究所に委託しました。

財団法人女性のためのアジア平和国民基金

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査の結果	5
1 基本属性	7
(1) 男女比	
(2) 年齢	
(3) 出身国(地域)	
(4) 大学	
(5) 留学している理由	
(6) 学費を出している人	
(7) 滞在期間	
(8) 家庭の状況	
2 性別役割分業に関する意識と実態	17
(1) 家庭内における父親と母親の決定権	
(2) 夫婦の役割分業に関する意識	
(3) 母親の就労状況	
(4) 女性が働くことに対する意識	
(5) 困ったときの相談相手	
(6) 最も理想的な結婚相手	
(7) 男女どちらに生まれ変わりたいか	
(8) 「女らしさ」「男らしさ」の規範	
(9) 学生生活に満足しているか	
3 男性優遇・女性優遇に関する意識	32
(1) 男性もしくは女性が優遇されていると感じるか	
(2) 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点	
(3) 日本の社会はどのような社会か	
(4) 社会像に対する賛否	
4 ドメスティック・バイオレンスに対する意識	39
(1) ドメスティック・バイオレンスの認知度	
(2) ドメスティック・バイオレンスを知った年齢	
(3) ドメスティック・バイオレンスを知ったきっかけ	
(4) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方	
5 「従軍慰安婦」問題に対する意識	44
(1) 「従軍慰安婦」問題の認知度	
(2) 「従軍慰安婦」問題を知った年齢	
(3) 「従軍慰安婦」問題を知ったきっかけ	

6	女性の人権に関する現状と改善策のあり方	48
(1)	自国(地域)における女性の地位	
(2)	日本における女性の地位	
(3)	女性の地位が向上しない理由	
(4)	男女の関係が最も理想的だと思う国とその理由	
(5)	女性の人権や女性の地位向上のために必要なこと	
7	自由回答	64
第3章	調査のまとめ	77
1	全体結果	79
2	出身国(地域)別の傾向	82
第4章	これからの課題	87
資料編		91
	調査票及び集計結果	93

第 1 章 調査の概要

1 調査概要

(1) 調査対象

首都圏の大学に通う韓国、台湾、中国（*）出身の留学生 300 人及び日本人大学生 200 人の計 500 人を対象としました。

* 留学生は日本への留学生数の最も多い国（地域）から、韓国、台湾、中国を対象としました。

図表 留学生及び日本人大学生のサンプル数

	サンプル数
韓国出身の留学生	100
台湾出身の留学生	100
中国出身の留学生	100
日本人大学生	200
全 体	500

(2) 調査方法

アジア女性基金から大学や留学生会などに、下記のとおり調査票の配布を依頼し、回収は回答者から直接、または、協力者が一括して取りまとめ、郵送により行いました。

留学生・日本人大学生ともに、調査票の配布にあたっては、男女・年齢構成比について、できるだけ偏りがないように配布を依頼しました。

なお、調査は日本語で実施しました。

韓国、台湾、中国出身の留学生

韓国については、早稲田大学の韓国留学生会、台湾は、早稲田大学の台湾留学生会、中国は、上智大学の中国留学生会に所属する大学生の協力を得、各人に調査票を送りました。各留学生会は、他大学の留学生会とネットワークをもっており、これらの協力者を通じ、上記留学生会だけでなく、各大学に所属する韓国、台湾、中国留学生会にも調査票の配布をお願いしました。

日本人大学生

早稲田大学大学院、東海大学、東京学芸大学、明治学院大学、立教大学の先生を通じ、ゼミや授業での調査票の配布をお願いしました。

(3) 調査時期

平成 14（2002）年 12 月 12 日～平成 15（2003）年 1 月 7 日

(4) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
韓国出身の留学生	100	58	58.0%
台湾出身の留学生	100	62	62.0%
中国出身の留学生	100	54	54.0%
日本人大学生	200	126	63.0%
全 体	500	300	60.0%

全体で 37 大学の学生<自国(地域)の大学や不詳を除く>から回答があり、そのうち私立大学は 29 大学と 8 割近くを占め、私立大学に通う回答者は 9 割を超えています。

(5) 調査項目

調査項目は以下の通りです。

大項目	調査項目
A) 基本属性	問 1 男女比 問 2 年齢 問 3 出身国(地域) 問 4~問 6 大学・学年・専攻 問 7 留学している理由(留学生のみ) 問 8 学費を出している人 問 9~問 10 日本に来た時期・滞在予定期間(留学生のみ) 問 11~問 13 兄弟姉妹・両親の職業・家庭の経済状況
B) 性別役割分業に関する意識と実態	問 14 家庭内における父親と母親の決定権 問 15 夫婦の役割分業に関する意識 問 16 母親の就労状況 問 17 女性が働くことに対する意識 問 18 困ったときの相談相手 問 19 最も理想的な結婚相手 問 20 男女どちらに生まれ変わりたいか 問 22~問 23 「女らしさ」「男らしさ」という表現の有無・規範の強さ 問 24 学生生活に満足しているか
C) 男性優遇・女性優遇に関する意識	問 25 男性もしくは女性が優遇されていると感じるか 問 26 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点 問 27 日本の社会はどのような社会か 問 28 社会像に対する賛否
D) ドメスティック・バイオレンスに対する意識	問 29 ドメスティック・バイオレンスの認知度 問 30 ドメスティック・バイオレンスを知った年齢 問 31 ドメスティック・バイオレンスを知ったきっかけ 問 32 ドメスティック・バイオレンスに対する考え方
E) 「従軍慰安婦」問題に対する意識	問 33 「従軍慰安婦」問題の認知度 問 34 「従軍慰安婦」問題を知った年齢 問 35 「従軍慰安婦」問題を知ったきっかけ
F) 女性の人権に関する現状と改善策のあり方	問 36 自国(地域)における女性の地位(留学生のみ) 問 37 日本における女性の地位 問 38 女性の地位が向上しない理由 問 39~問 40 男女の関係が最も理想的だと思う国とその理由 問 41 女性の人権や女性の地位向上のために必要なこと 問 42 自由記入

第 2 章 調査の結果

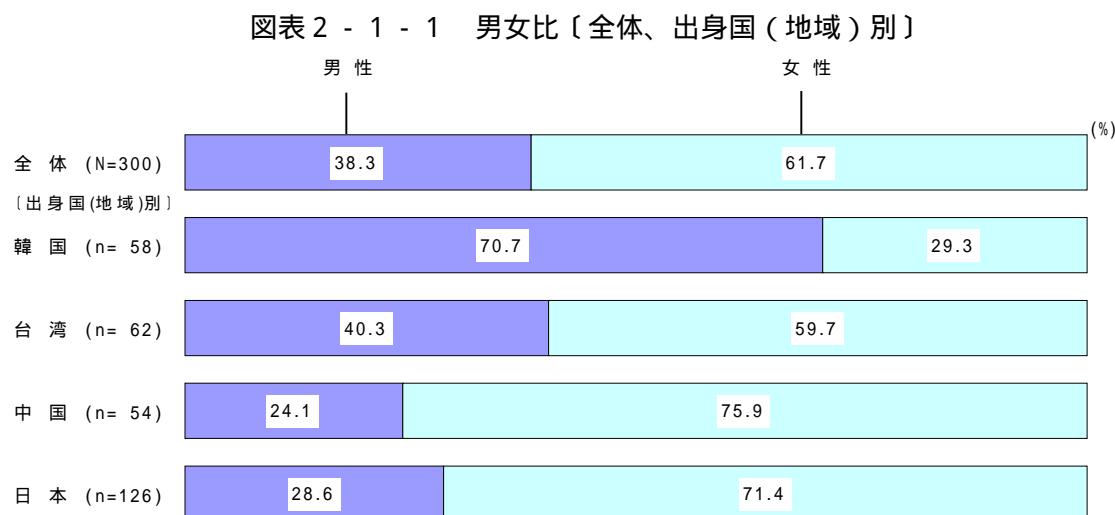
< 図表のみかた >

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体（300）の場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合（例えば99.9%、100.1%）があります。
- 3 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%にならないことがあります。
- 4 帯グラフの数字については、すべての選択肢の順に、左から並んでいます。
- 5 国（地域）の順序は五十音順とし、韓国、台湾、中国、日本の順となっています。
- 6 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。調査票を巻末の資料編に掲載しましたので、ご参照ください。

1 基本属性

(1) 男女比(問1)

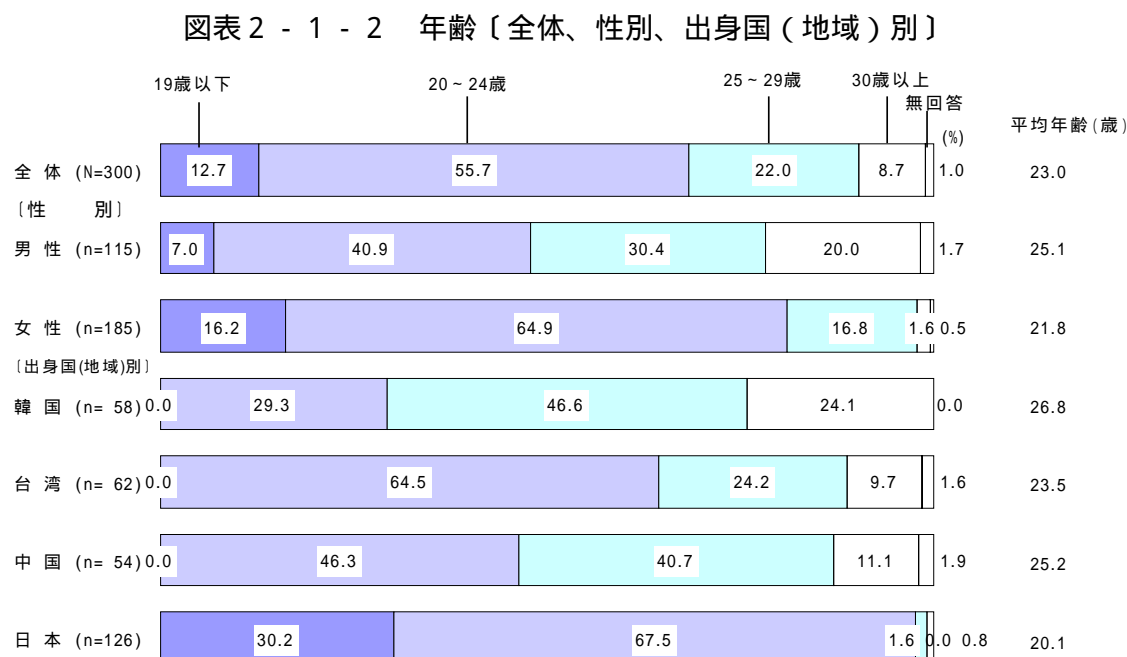
調査票は、男女比の偏りが極力ないよう配慮して配布しましたが、回答者は男性が115人(38.3%)、女性が185人(61.7%)となりました(図表2-1-1)。



(2) 年齢(問2)

年齢は、「20～24歳」が半数、「25～29歳」が2割と、20代が全体の4分の3を占めています。平均年齢は23.0歳となっています。

出身国(地域)別の平均年齢をみると、韓国が26.8歳と最も高く、日本は20.1歳と最も低くなっています(図表2-1-2)。



(3) 出身国(地域)(問3)

出身国(地域)は、「韓国」19.3%、「台湾」20.7%、「中国」18.0%、「日本」42.0%で「日本」が最も多くなっています。これは、調査の対象数を韓国、台湾、中国の留学生100人ずつ、日本の大学生200人としているためです。

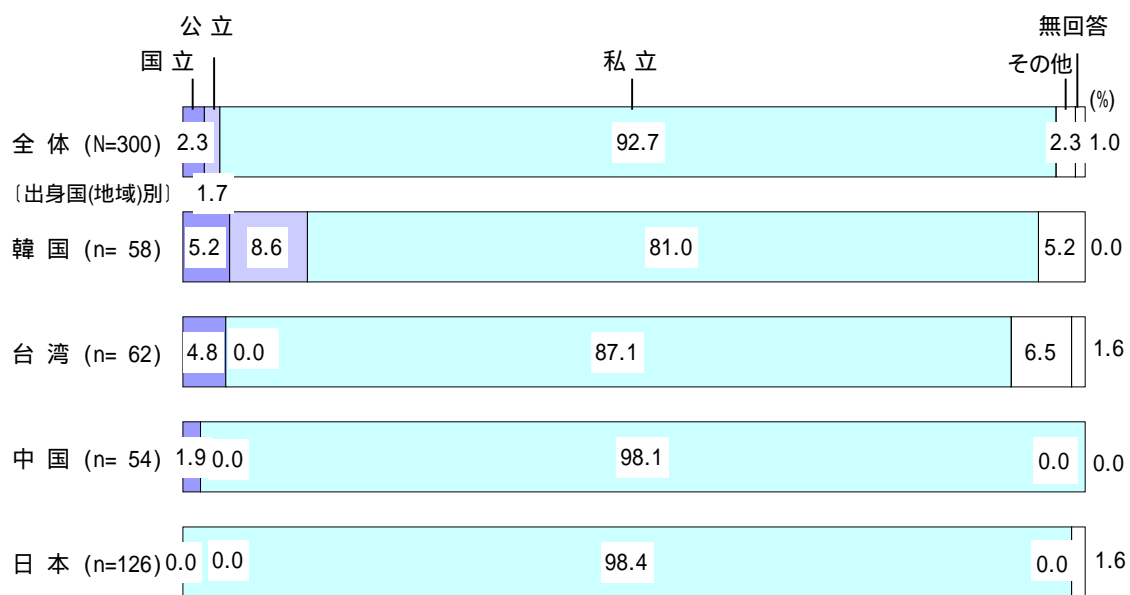
(4) 大学(問4～6)

通っている大学(問4)

通っている大学は、「私立」が9割を超えています。

出身国(地域)別にみると、日本では「国立」や「公立」の回答はありませんが、韓国、台湾、中国では「国立」が僅かにあり、韓国では「公立」も8.6%となっています(図表2-1-3)。

図表2-1-3 通っている大学〔全体、出身国(地域)別〕

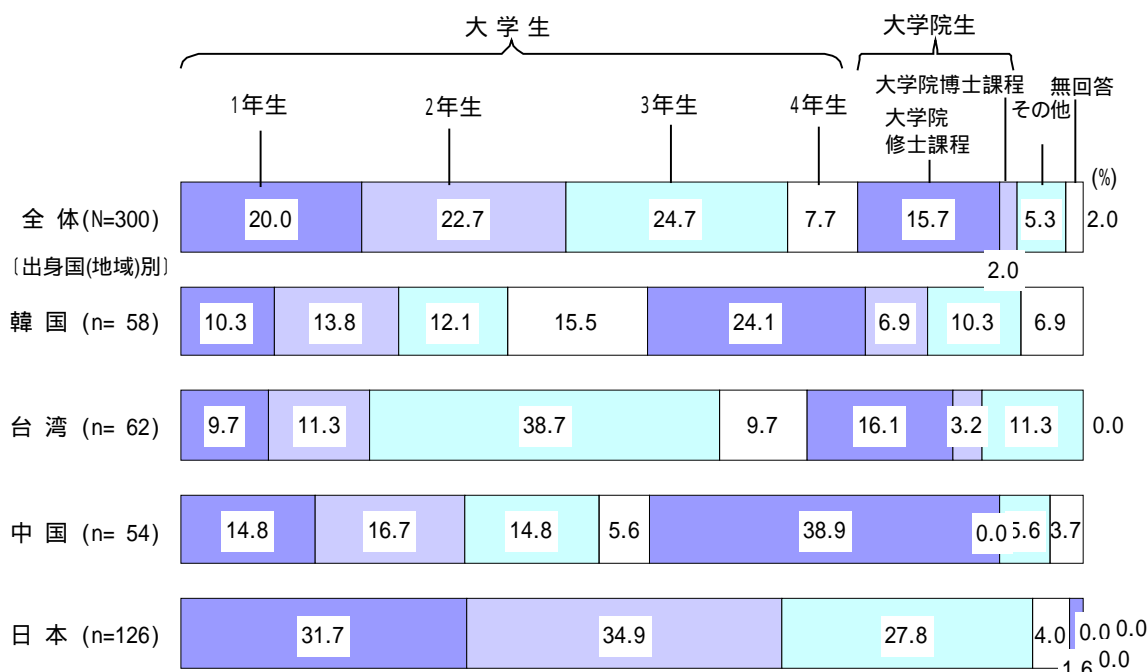


学年(問5)

学年は、「1年生」、「2年生」、「3年生」がそれぞれ2割台で、「1年生」から「4年生」までの《大学生》は合わせて75.1%となっています。「大学院修士課程」と「大学院博士課程」を合わせた《大学院生》は17.7%となっています。

出身国(地域)別にみると、日本は《大学生》が98.4%とほとんどを占め、《大学院生》はわずか1.6%となっています。日本に比べると、それ以外の国(地域)では《大学院生》の割合が増え、中国38.9%、韓国31.0%となっています。台湾の《大学院生》はやや少なく19.3%です。(図表2-1-4)

図表2 - 1 - 4 学年〔全体、出身国（地域）別〕



専攻（問6）

専攻は、「社会科学」が 53.3%と最も多く、「人文科学」の 22.0%が続いています。以下、「教育（6.7%）」、「芸術（4.3%）」が続いています。

出身国（地域）別にみると、いずれの国（地域）でも「社会科学」が最も多く4～6割台を占めています。第2位は、中国では「教育」、それ以外の国（地域）では「人文科学」となっています（図表2 - 1 - 5）。

図表2 - 1 - 5 専攻〔全体、出身国（地域）別〕

		人文科学	教育	社会科学	家政	医療保健	理学	工学	芸術	無回答
全	体 N=300	22.0	6.7	53.3	2.7	1.7	2.0	2.7	4.3	4.7
出身国(地域)別	韓国 n=58	19.0	8.6	60.3	0.0	0.0	0.0	5.2	1.7	5.2
	台湾 n=62	37.1	3.2	45.2	0.0	1.6	0.0	1.6	8.1	3.2
	中国 n=54	9.3	22.2	48.1	1.9	0.0	1.9	1.9	9.3	5.6
	日本 n=126	21.4	0.8	56.3	5.6	3.2	4.0	2.4	1.6	4.8

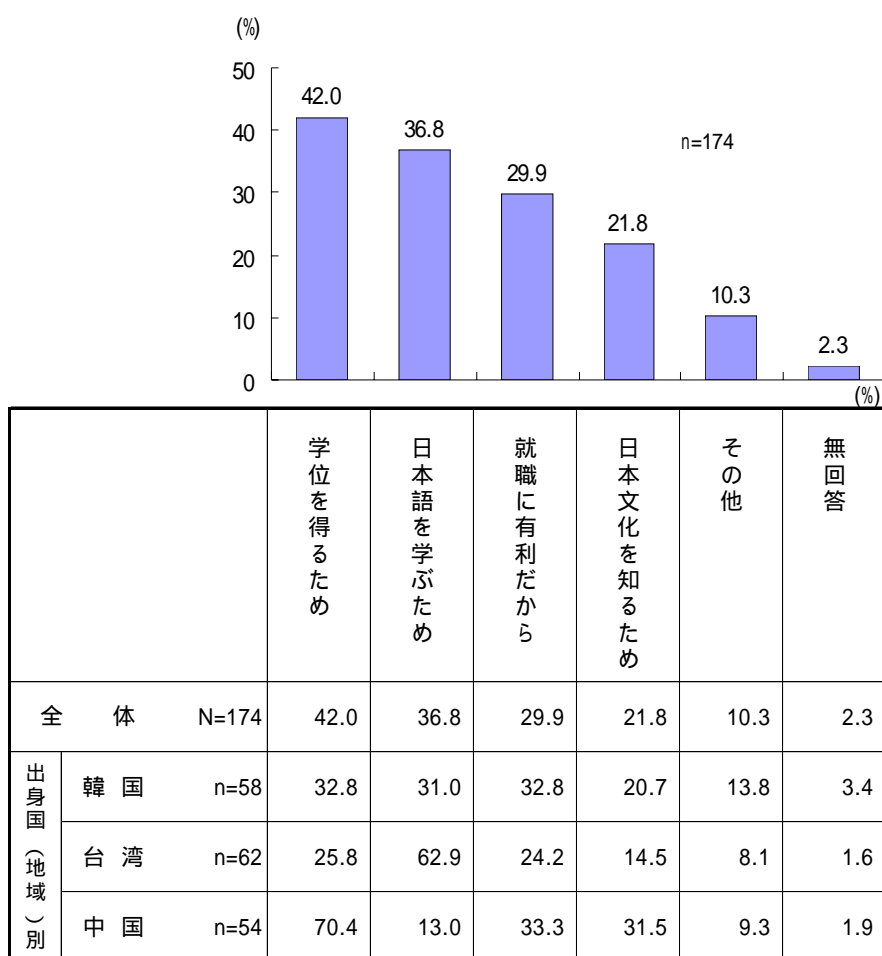
(5) 留学している理由(問7)

留学生に対して、留学している理由をたずねました。

全体結果では、「学位を得るため」が最も多く 42.0%、「日本語を学ぶため(36.8%)」、「就職に有利だから(29.9%)」、「日本文化を知るため(21.8%)」が続いています。

出身国(地域)別にみると、台湾は「日本語を学ぶため」が62.9%、中国は「学位を得るため」が70.4%と非常に高く、韓国では、全体結果の上位3位がそれぞれ3割となっています(図表2-1-6)。

図表2-1-6 留学している理由〔留学生/全体、出身国(地域)別/複数回答〕



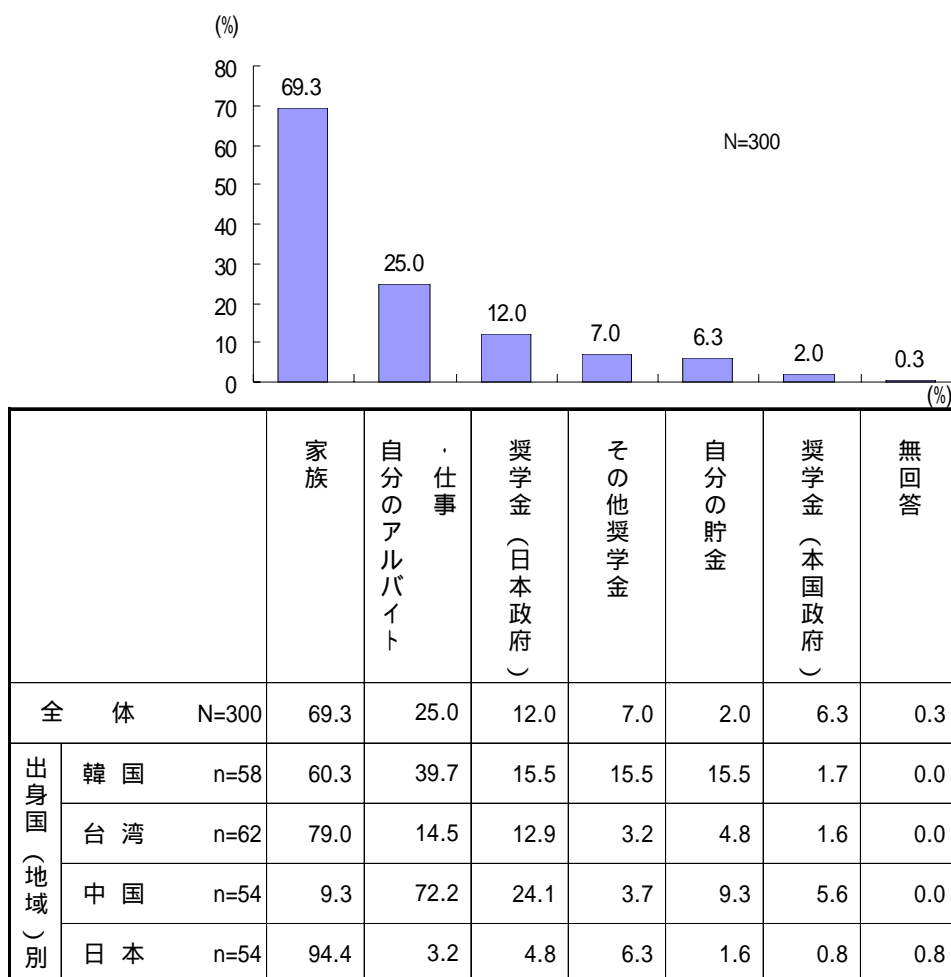
(6) 学費を出している人(問8)

全員に学費は誰が出しているのかについてたずねました。

全体結果では、「家族」が最も多く69.3%、「自分のアルバイト・仕事」が25.0%、「奨学金(日本政府)」が12.0%と続いています。

出身国(地域)別に見ると、韓国、台湾、日本では「家族」が最も多く、中でも日本はその割合が94.4%にのぼります。韓国は「家族」が6割、「自分のアルバイト・仕事」が4割となっています。中国では傾向が全く異なり、「自分のアルバイト・仕事」が72.2%、次いで「奨学金(日本政府)」が24.1%となっています(図表2-1-7)。

図表2-1-7 学費を出している人〔全体、出身国(地域)別/複数回答〕

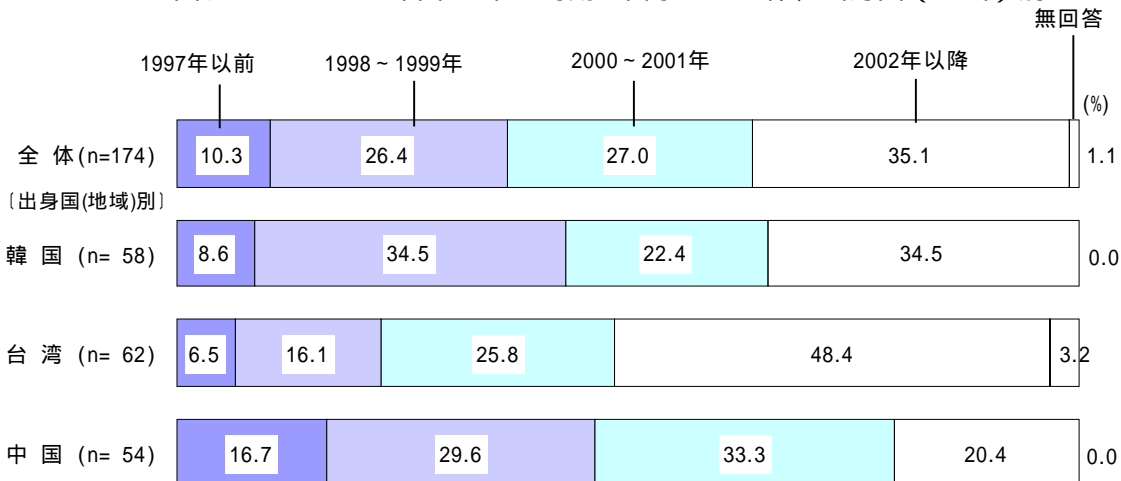


(7) 滞在期間 (問9・問10)

留学生として日本に来た時期 (問9)

日本に来た時期は、全体結果では、「2002年以降」が最も多く35.1%、「2000～2001年」が27.0%、「1998～1999年」が26.4%、1997年以前が10.3%で2000年以降に来日した人が6割を越えています (図表2-1-8)。

図表2-1-8 日本に来た時期〔留学生/全体、出身国(地域)別〕

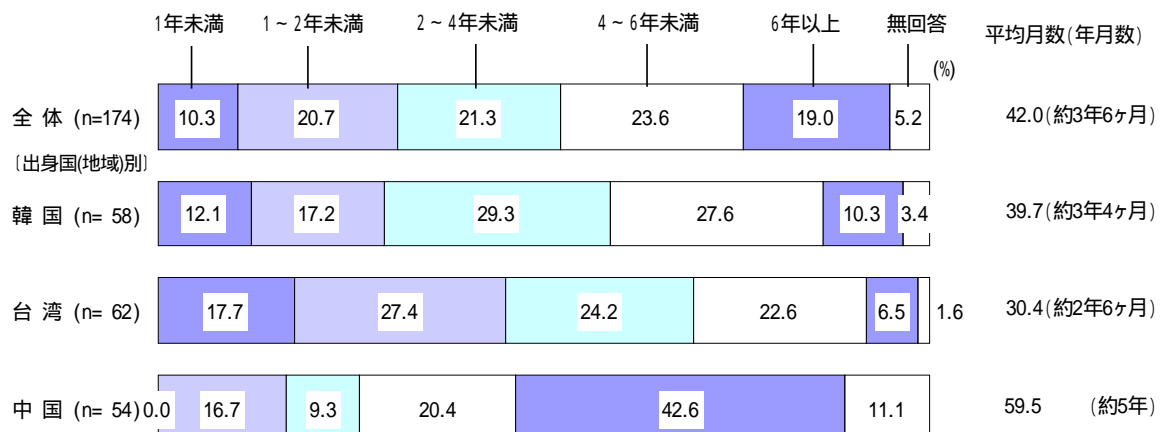


滞在予定期間 (問10)

日本での滞在予定期間は、全体結果では、「4～6年未満 (23.6%)」、「2～4年未満 (21.3%)」、「1～2年未満 (20.7%)」がいずれも2割台となっています。平均滞在予定期間は、42.0ヶ月 (約3年6ヶ月) です。

出身国(地域)別にみると、平均滞在予定期間が最も短いのは台湾の30.4ヶ月 (約2年6ヶ月) で、半数近くが「2年未満」となっています。平均滞在予定期間が最も長いのは中国の59.5ヶ月 (約5年) で、「6年以上」が42.6%を占めています。韓国の平均滞在予定期間は、39.7ヶ月 (約3年4ヶ月) です (図表2-1-9)。

図表2-1-9 滞在予定期間〔留学生/全体、出身国(地域)別〕



(8) 家庭の状況 (問 11~13)

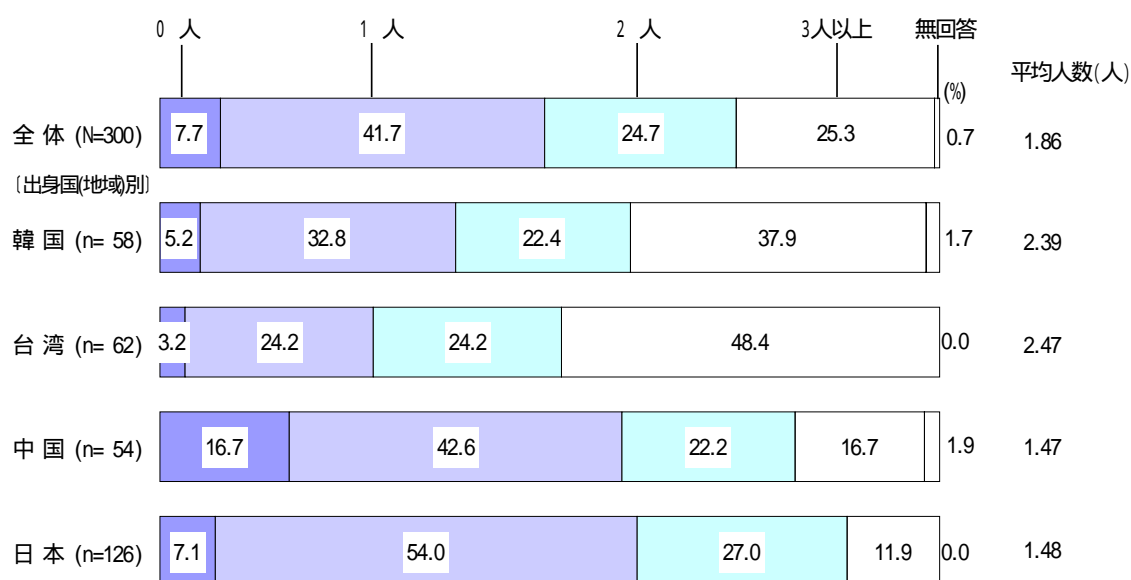
兄弟姉妹の人数 (問 11)

全員に兄弟姉妹の人数をたずねました。

全体結果では、「1人」が41.7%と最も多く、「2人」が24.7%、「3人以上」が25.3%となっています。平均すると1.86人です。

出身国(地域)別にみると、中国は韓国、台湾、日本と比べて兄弟姉妹のいない人が16.7%と最も多くなっています。平均人数も中国が最も少なく1.47人ですが、日本でもその数は1.48人となっています。最も兄弟姉妹の数が多いのは台湾(平均2.47人)で、「3人以上」が半数近くを占めています。韓国の平均人数は2.39人です(図表2-1-10)。

図表2-1-10 兄弟姉妹の人数〔全体、出身国(地域)別〕



両親の職業（問 12）

両親の現在の職業をたずねました。

まず父親の職業をみると、全体結果では、「勤め人（会社員）」が 33.3% で最も多く、「勤め人（公務員）（19.0%）」、「商工サービス自営業（16.0%）」が続いています。

出身国（地域）別にみると、韓国では「勤め人（会社員）」が 22.4%、次いで「働いていない」が 19.0% となっています。台湾では「商工サービス自営業」が最も多く 41.9%、中国では「勤め人（公務員）」が 33.3%、「勤め人（会社員）」が 29.6%、また「経営管理職」が 22.2% です。日本では「勤め人（会社員）」が半数を超え、「勤め人（公務員）」が 21.4% となっています（図表 2 - 1 - 11 - ）。

図表 2 - 1 - 11 - 父親の職業〔全体、出身国（地域）別〕

		農業	林業	漁業	商工サービス自営業	自由業（開業医・弁護士・芸術家など）	経営管理職	勤め人（会社員）	勤め人（公務員）	パートタイム	その他	働いていない	無回答
全	体 N=300	2.7	0.3	0.0	16.0	7.3	8.7	33.3	19.0	0.3	3.0	6.3	3.0
出身国（地域）別	韓国 n=58	6.9	0.0	0.0	15.5	13.8	6.9	22.4	8.6	0.0	3.4	19.0	3.4
	台湾 n=62	6.5	1.6	0.0	41.9	8.1	8.1	9.7	11.3	0.0	1.6	6.5	4.8
	中国 n=54	0.0	0.0	0.0	1.9	3.7	22.2	29.6	33.3	1.9	0.0	3.7	3.7
	日本 n=126	0.0	0.0	0.0	9.5	5.6	4.0	51.6	21.4	0.0	4.8	1.6	1.6

次に母親の職業をみると、全体結果では、「働いていない」が最も多く 34.7%、「パートタイム（15.0%）」、「勤め人（会社員）（14.3%）」、「勤め人（公務員）（12.7%）」が続いています。

出身国（地域）別にみると、韓国では先の質問で、父親が働いていない割合が約 2 割でしたが、母親が「働いていない」割合も 63.8% にのぼり、他の出身国（地域）と比べて最も高い割合となっています。台湾では、「働いていない」が 37.1% で最も多いものの、「商工サービス自営業」も 22.6% で、家族で自営業を営んでいると考えられる人が多くなっています。中国では「勤め人」が多く、会社員と公務員を合わせると 66.6% にのぼります。日本では「パートタイム（32.5%）」が最も多くなっています（図表 2 - 1 - 11 - ）。

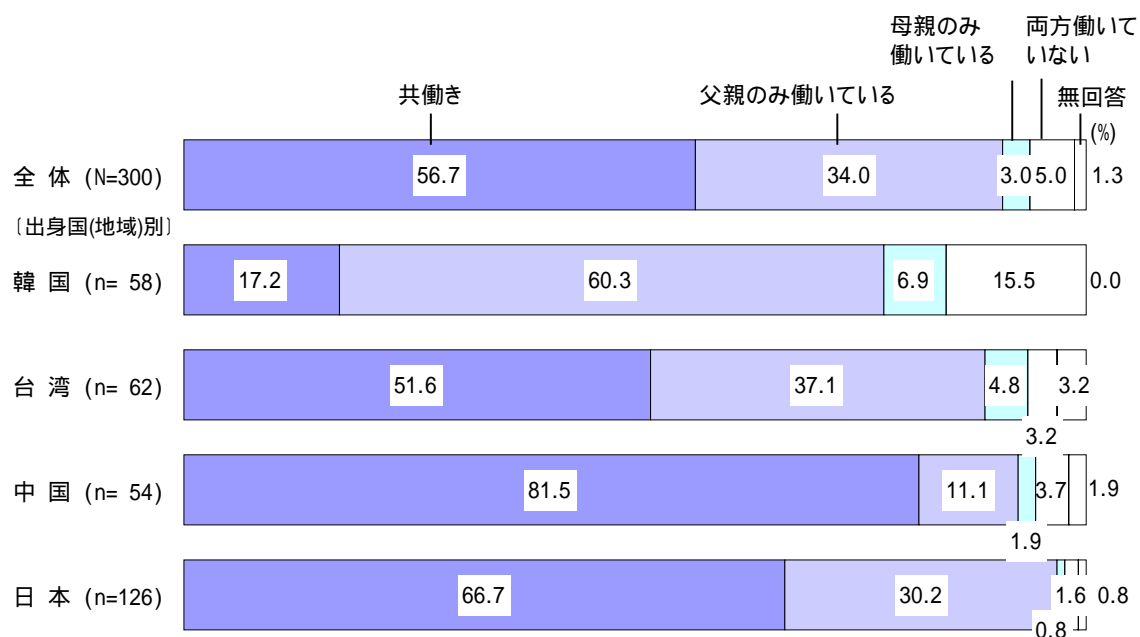
図表 2 - 1 - 11 - 母親の職業〔全体、出身国（地域）別〕

		農業	林業	漁業	商工サービス 自営業	自由業 (開業医・弁 護士・芸術家など)	経営管理職	勤め人 (会社員)	勤め人 (公務員)	パートタイム	その他	働いていない	無回答
全	体 N=300	2.0	0.0	0.0	6.7	2.0	1.7	14.3	12.7	15.0	5.3	34.7	5.7
出身国 (地域) 別	韓 国 n=58	5.2	0.0	0.0	1.7	1.7	1.7	3.4	1.7	3.4	5.2	63.8	12.1
	台 湾 n=62	1.6	0.0	0.0	22.6	4.8	1.6	9.7	11.3	0.0	4.8	37.1	6.5
	中 国 n=54	3.7	0.0	0.0	5.6	0.0	1.9	33.3	33.3	3.7	1.9	14.8	1.9
	日 本 n=126	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	1.6	13.5	9.5	32.5	7.1	28.6	4.0

最後に両親が共働きかどうかについてみると、全体結果では、「共働き（56.7%）」が半数以上を占め、「父親のみ働いている」が34.0%となっています。

出身国（地域）別にみると、韓国では「共働き」が17.2%で、「父親のみ働いている」が6割と他の出身国（地域）と比べて母親が働いていない割合が最も高くなっています。また「両方働いていない」も15.5%です。台湾と日本では、「共働き」が5～6割台、「父親のみ働いている」が3割台です。中国では「共働き」が最も多く8割を超えています（図表2-1-11- ）。

図表 2 - 1 - 11 - 両親の就労状況〔全体、出身国（地域）別〕



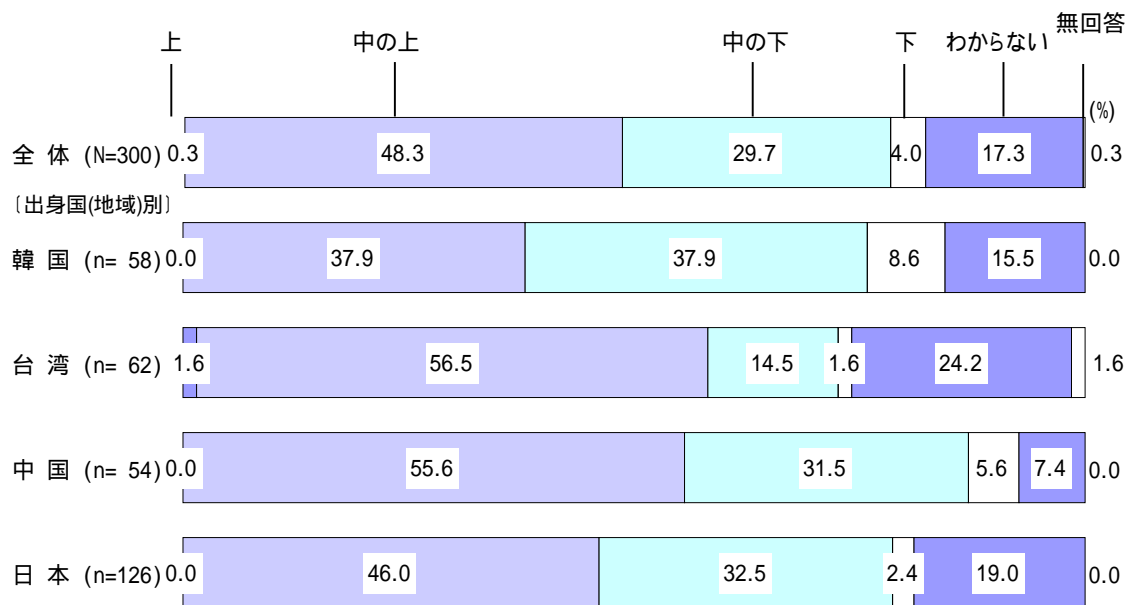
家庭の経済状況（問 13）

家庭の経済状況が、それぞれの出身国(地域)でどのくらいにあたるかをたずねました。

全体結果では、「中の上」が半数近く、「中の下」が3割となっています。

いずれの出身国(地域)でも、「中」と回答した人は7～8割台、「上」はほとんどみられず、「下」も1割未満となっています（図表2 - 1 - 12）。

図表 2 - 1 - 12 家庭の経済状況〔全体、出身国（地域）別〕



2 性別役割分業に関する意識と実態

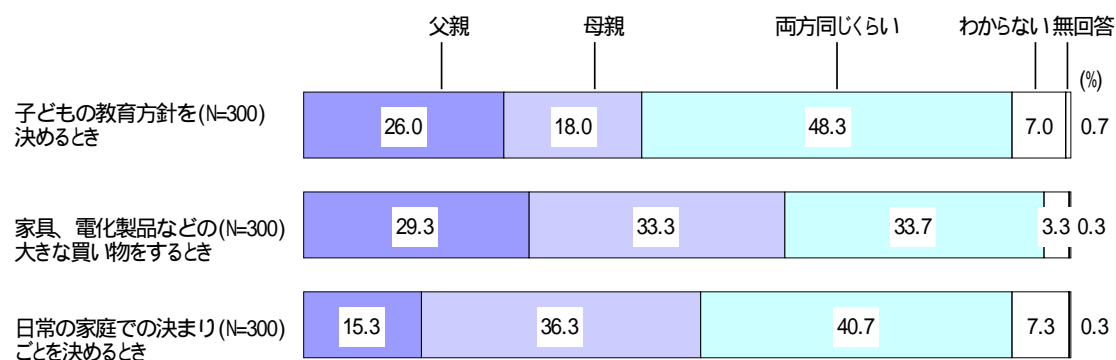
(1) 家庭内における父親と母親の決定権 (問14)

『子どもの教育方針』についての決定権は、父親も母親も「両方同じくらい」が多く、『日常の家庭での決まりごと』は「両方同じくらい」に次いで「母親」が多く、『大きな買い物』は「父親」、「母親」、「両方同じくらい」がほぼ同率。

家庭内で父親と母親のどちらに決定権がある(あった)かを、『子どもの教育方針を決めるとき』、『家具、電化製品などの大きな買い物をするとき』、『日常の家庭での決まりごとを決めるとき』の3つの場面についてたずねました。

全体結果では、『子どもの教育方針』は「(父親と母親の)両方同じくらい」が48.3%、「父親」が26.0%、『大きな買い物』は「両方同じくらい」、「母親」、「父親」の順ですが、いずれも2～3割台とほぼ同じ割合、『家庭での決まりごと』は「両方同じくらい」が40.7%、「母親」が36.3%となっています(図表2-2-1-)。

図表2-2-1- 家庭内における父親と母親の決定権〔3領域、全体〕



出身国(地域)別にみると、『子どもの教育方針』は、韓国、台湾、日本では「両方同じくらい」が4割後半から5割後半ですが、中国では「父親」が46.3%と高い割合を占めています。

『大きな買い物』は、出身国(地域)により異なり、韓国では「母親(53.4%)」が多く、台湾と日本では「父親」と「両方同じくらい」が同じ程度(台湾では同率)、中国では「両方同じくらい」が40.7%となっています。

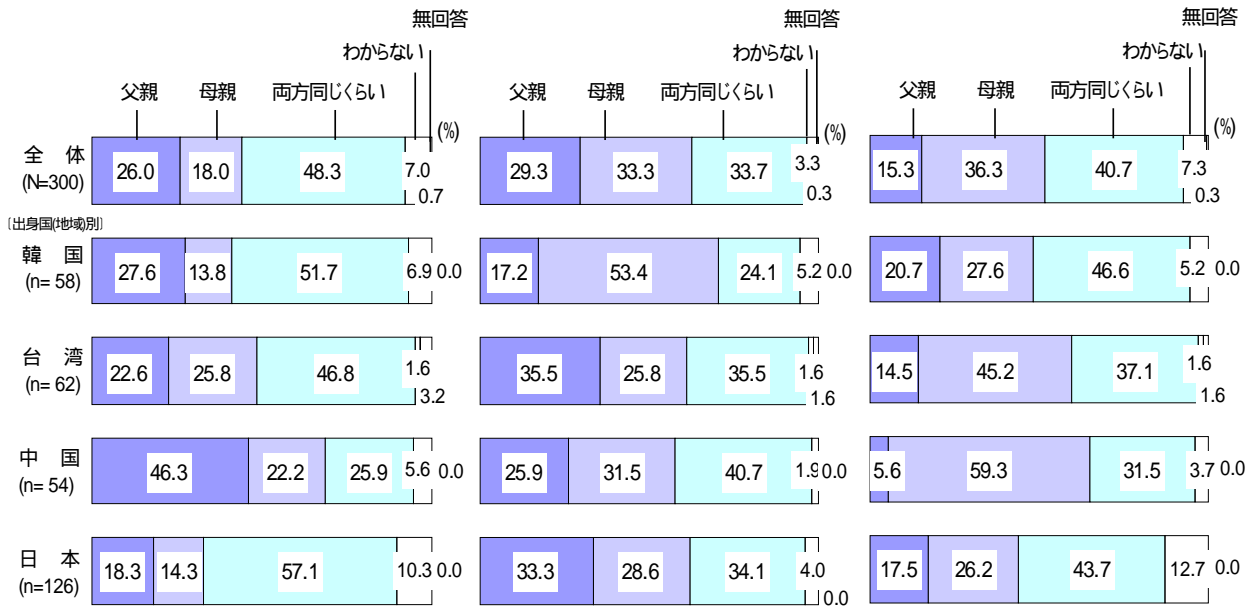
『家庭での決まりごと』は、韓国と日本では「両方同じくらい」が最も多く、台湾と中国では「母親」が最も多くなっています。特に中国では、その割合が59.3%で「母親」の決定権が大きいことがわかります(図表2-2-1-)。

図表 2 - 2 - 1 - 家庭内における父親と母親の決定権
〔3領域、全体、出身国（地域）別〕

子どもの教育方針を決めるとき

家具、電化製品などの大きな買い物をするとき

日常の家庭での決まりごとを決めるとき



(2) 夫婦の役割分業に関する意識(問15)

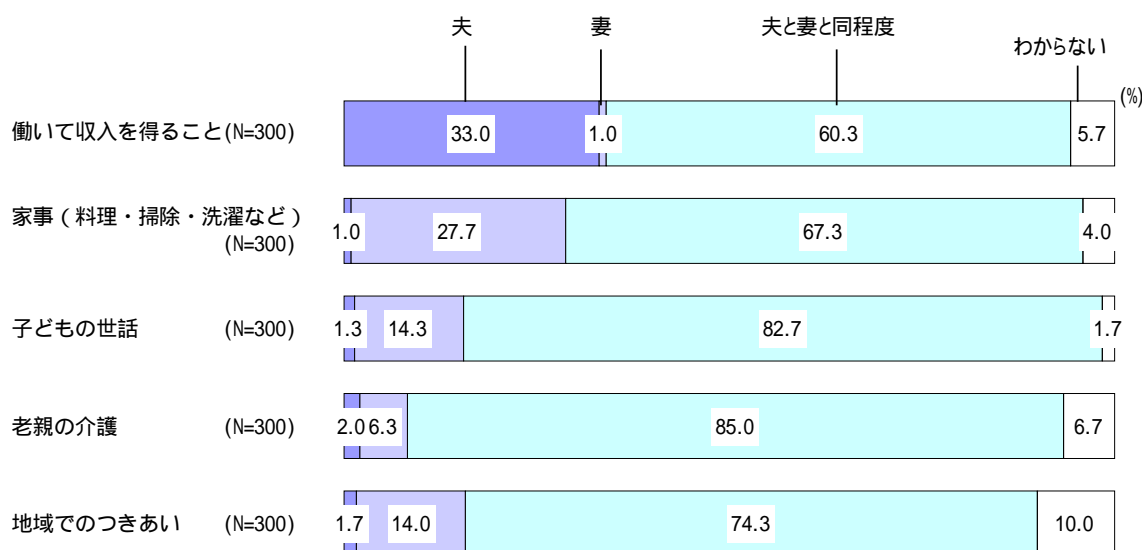
5つの領域すべてにおいて、「夫と妻」は同程度にすべきだと思う人が多い。出身国(地域)別にみると、韓国では『働いて収入を得ること』は「夫」がすべきが半数。また、中国では『働いて収入を得ること』は「夫と妻」が7割後半、『家事』は「夫と妻」が6割、「妻」が3割を占め、「妻」に求める役割が大きい。

5つの領域、『働いて収入を得ること』、『家事(料理・掃除・洗濯など)』、『子どもの世話』、『老親の介護』、『地域でのつきあい』について、夫婦のどちらがすべきだと思うかをたずねました。

全体結果では、5つの領域全てにおいて「夫と妻と同程度」という回答が最も多く、特に『子どもの世話』と『老親の世話』では、その割合は8割を超えています。『子どもの世話』では、妻(14.3%)の割合が夫に比べて高くなっています。

残りの3領域をみると、『働いて収入を得ること』は「夫と妻と同程度」が60.3%に対して、「夫」が33.0%、『家事』は「夫と妻と同程度」が67.3%に対して、「妻」が27.7%、『地域でのつきあい』は「夫と妻と同程度」が74.3%に対して、「妻」が14.0%となっています。夫婦の役割分担は、夫と妻が同程度にするべきだと思う人が大半ですが、外で働くのは「夫」、家事や育児、近所づきあいは「妻」の役割と考える人がいることもわかります(図表2-2-2-)。

図表2-2-2- 夫婦の役割分業に関する意識〔5領域、全体〕



出身国（地域）別にみると、『働いて収入を得ること』では、「夫と妻と同程度」の割合は中国が最も高く（75.9%）、台湾（62.9%）、日本（59.5%）、韓国（44.8%）の順になっています。また、「夫」の割合は、韓国が51.7%と半数を超え、台湾と日本は約3割、中国では18.5%と低い割合です。

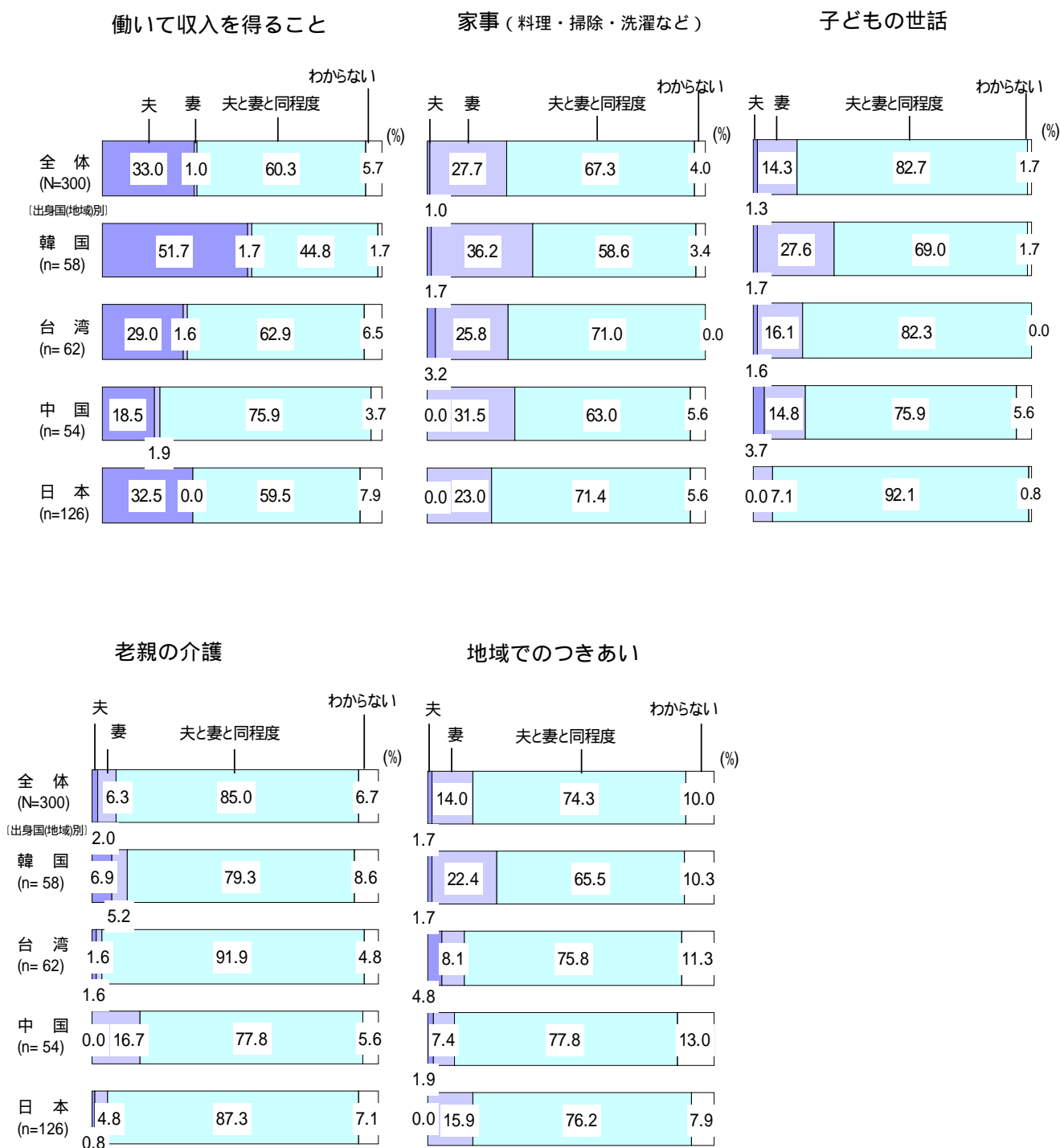
『家事』では、「夫と妻と同程度」の割合は台湾と日本で7割以上です。韓国では58.6%で、かわりに「妻」の割合が36.2%と高くなっています。中国では、「夫と妻と同程度」が63.0%と台湾や日本よりも低く、「妻」が31.5%と多いのが特徴です。『働いて収入を得ること』は「夫と妻と同程度」が高い割合を占めている中国ですが、『家事』については「夫と妻と同程度」がやや低くなり、「妻」の割合が高くなっています。

『子どもの世話』では、「夫と妻と同程度」の割合は日本が最も高く92.1%、次いで台湾、中国、韓国となっています。韓国では、「妻」の割合が27.6%を占めています。

『老親の介護』では、「夫と妻と同程度」の割合は、台湾の91.9%が最も高く、日本、韓国、中国が続いています。中国では、「妻」が16.7%と4つの出身国（地域）の中で、最も高くなっています。

『地域でのつきあい』では、いずれの出身国（地域）でも「夫と妻と同程度」が6～7割台で、韓国と日本では「妻」がやや多くなっています（図表2-2-2- ）。

図表2-2-2 夫婦の役割分業に関する意識〔5領域、全体、出身国(地域)別〕

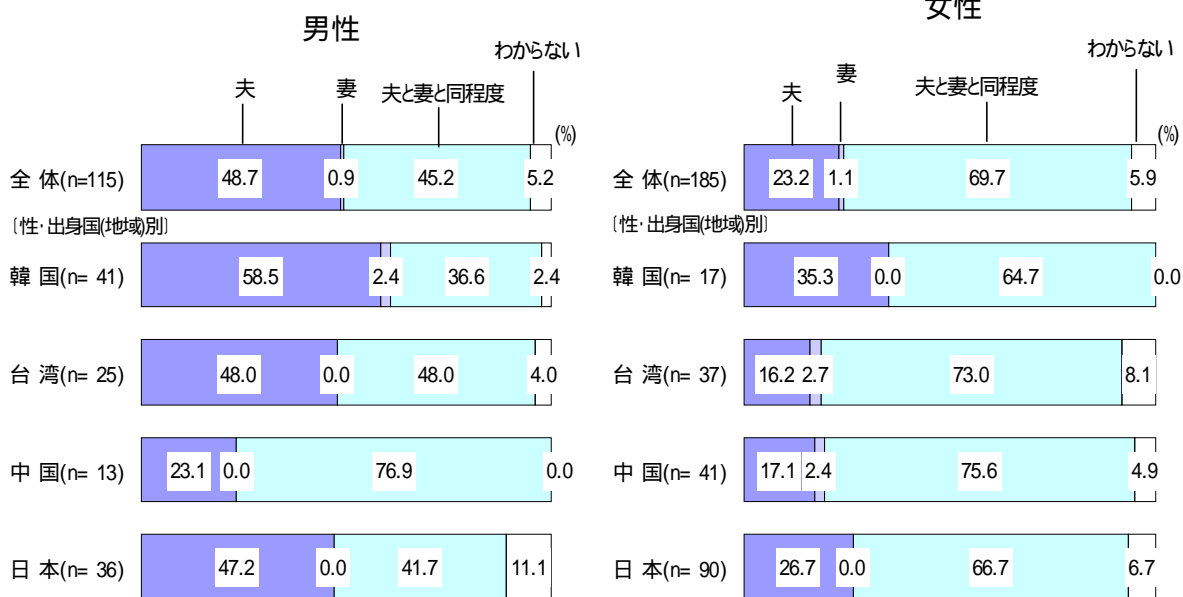


性・出身国（地域）別に5領域の中から男女の違いが顕著に現れたものをみると、『働いて収入を得ること』は、男性は、韓国と日本が「夫」、台湾は「夫」と「夫と妻と同程度」が半数ずつ、中国は「夫と妻と同程度」が7割を超えています。一方、女性はいずれの出身国（地域）とも「夫と妻と同程度」が6～7割台となっています。男女の意識差をみると、中国以外の男性では、働くのは「夫」と考えている割合が多く、女性は、「夫と妻と同程度」という意識が強くなっています。

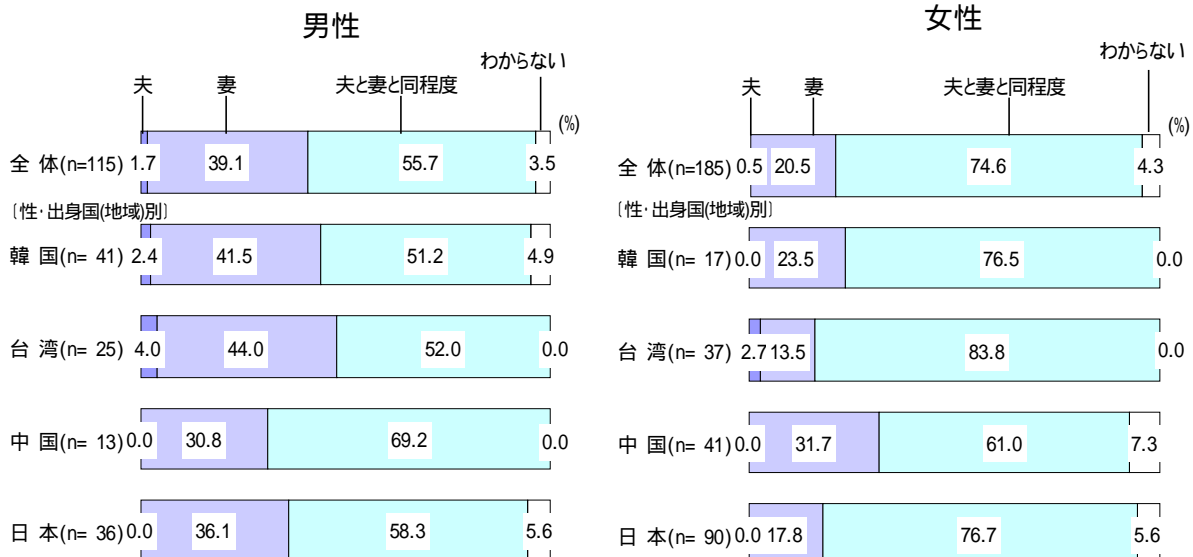
『家事』では、男女とも「夫と妻と同程度」が最も多くなっていますが、男性よりも女性の方がその割合は高くなっています。男性が、家事は「妻」の役割だと回答する割合ほど、女性では「妻」という回答は多くありません。（図表2-2-2- ）。

図表2-2-2- 夫婦の役割分業に関する意識〔性別、性・出身国（地域）別〕

働いて収入を得ること



家事（料理・掃除・洗濯など）



(3) 母親の就労状況(問16)

《就労継続》36.3%、《(結婚・出産により)中断再就職》23.0%、《結婚退職》15.7%。

母親が経済的な収入を得ているかどうかについてたずねました。

全体結果では、「ずっと働いている」《就労継続》が36.3%と最も多く、「結婚・出産で一時仕事をやめたが再び仕事についている」《中断再就職》が23.0%、「結婚したときに仕事をやめた」《結婚退職》が15.7%となっています。

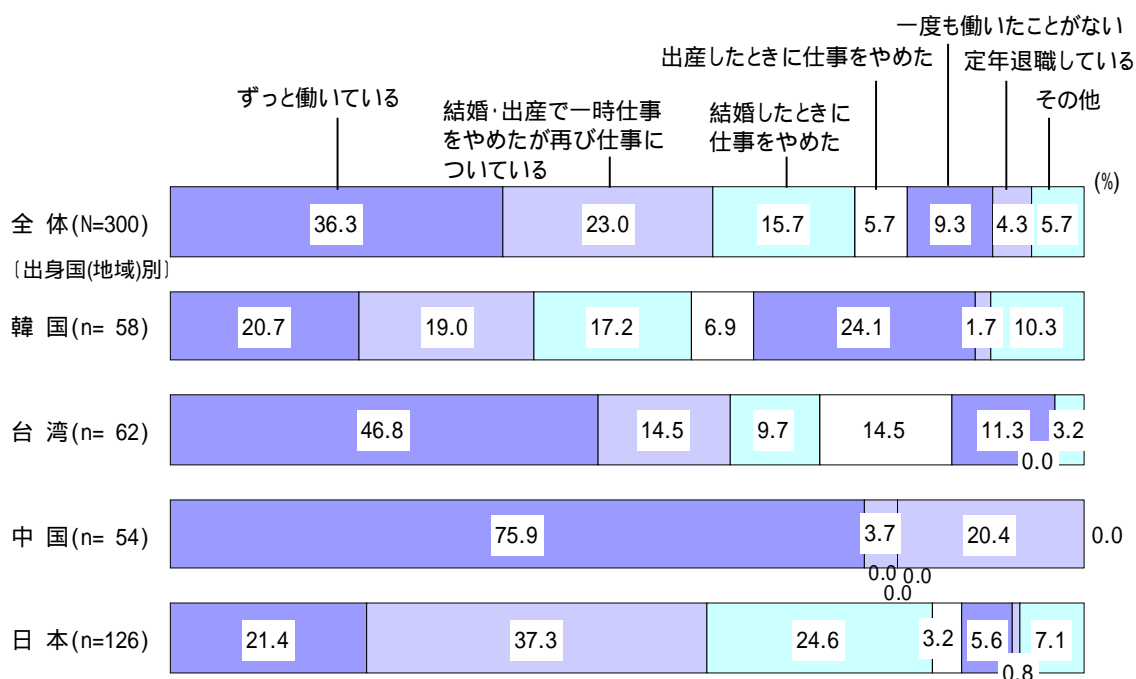
出身国(地域)別にみると、韓国は「一度も働いたことがない」が最も多く4分の1を占め、次いで《就労継続(20.7%)》、《中断再就職(19.0%)》、《結婚退職(17.2%)》が続いています。

台湾では、《就労継続》が中国の次に多く46.8%、《中断再就職》と「出産したときに仕事をやめた」《出産退職》が同率(14.5%)で続いています。

中国は、《就労継続(75.9%)》、または「定年退職している(20.4%)」以外の回答はほとんどありません。

日本では、《就労継続》は21.4%と高くありませんが、《中断再就職》は37.3%となっています。また、《結婚退職》は24.6%と多いのが特徴です(図表2-2-3)。

図表2-2-3 母親の就労状況〔全体、出身国(地域)別〕



(4) 女性が働くことに対する意識(問17)

「女性は生涯働き続けたほうがよい(43.0%)」と「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい(35.7%)」が多い。専業主婦がよいという回答は少ない。

次に、女性が働いて経済的収入を得ることについてどう思うかをたずねました。

全体結果では、「女性は生涯働き続けたほうがよい」が43.0%と最も多く、「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい」が35.7%となっています。

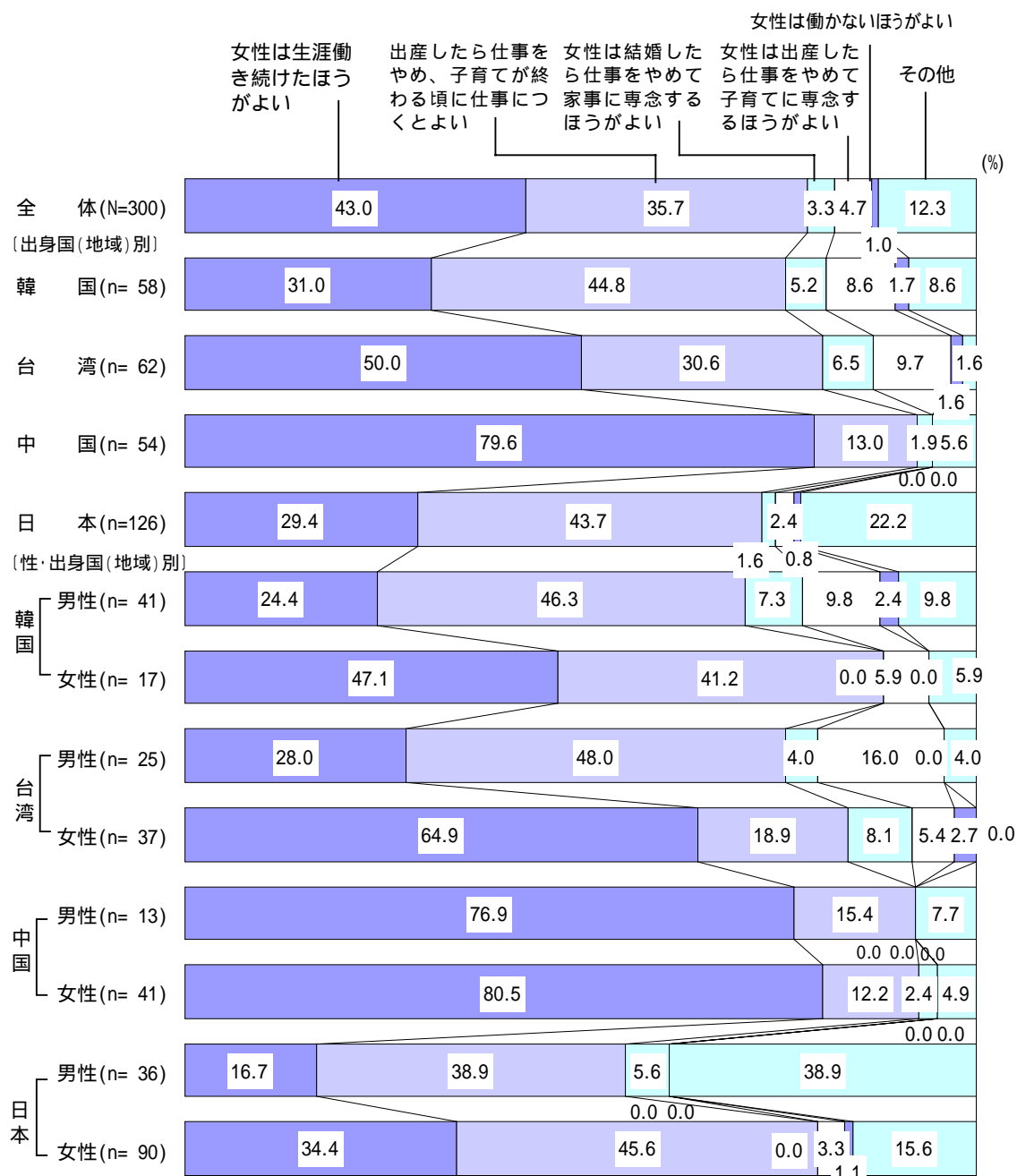
出身国(地域)別にみると、韓国と日本では、「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい」が4割台、「女性は生涯働き続けたほうがよい」は約3割となっています。台湾と中国では、「女性は生涯働き続けたほうがよい」が最も多く、中国では79.6%を占めています。

性・出身国(地域)別にみると、中国では男女の意識差はあまりみられません、その他の出身国(地域)では男女間の格差が大きいのが特徴です。

特に、台湾では「女性は生涯働き続けたほうがよい」について、男性28.0%に対して女性は64.9%を占めています。また、「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい」について、男性は48.0%に対して女性は18.9%と低くなっています。台湾の男性と韓国の男性は、この2つの選択肢についての回答割合がほぼ同じですが、韓国の女性は「生涯働き続けたほうがよい」が47.1%であるのに比べ、台湾の女性は、その割合が64.9%と、中国同様、過半数を超える結果となりました。

日本は、その他の出身国(地域)に比べて、「女性は生涯働き続けたほうがよい」と思う男性が少なく、「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい」と「その他」の割合が高くなっています。女性の中では、日本の女性だけが、「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい」が「女性は生涯働き続けたほうがよい」を上回っています(図表2-2-4)。

図表2-2-4 女性が働くことに対する意識
〔全体、出身国(地域)別、性・出身国(地域)別〕



(5) 困ったときの相談相手 (問 18)

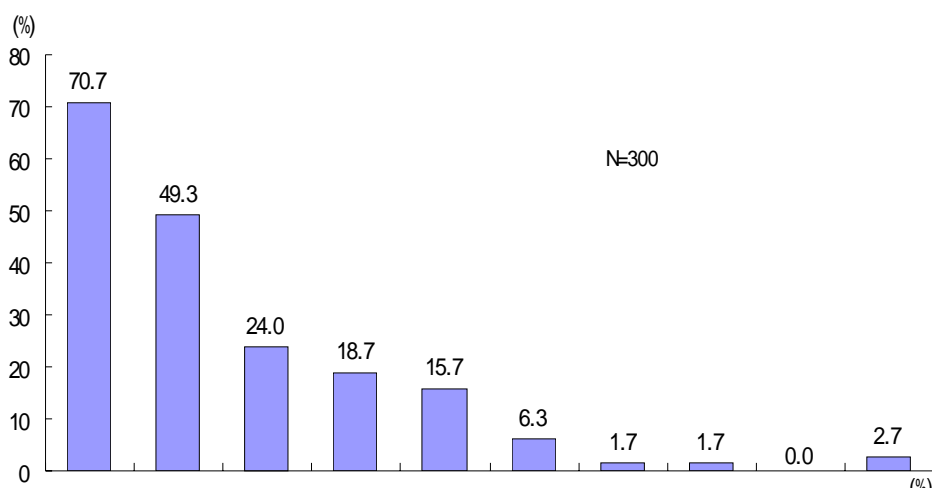
相談相手は、「友人・知人」、「母親」、「兄弟姉妹」、「父親」の順。

困ったときに相談する人をたずねました。

全体結果では、「友人・知人」が最も多く 70.7%、次いで「母親」が 49.3%、「兄弟姉妹」が 24.0%、「父親」が 18.7%となっています。

出身国(地域)別にみると、いずれの出身国(地域)でも、最も多いのは「友人・知人」となっています。韓国、台湾、日本ではその割合は7割以上です。第2位は「母親」で、日本では 59.5%にのびります。第3位は、韓国と台湾では「兄弟姉妹」、中国では「父親」、日本では「配偶者・パートナー」となっています(図表 2 - 2 - 5)

図表 2 - 2 - 5 困ったときの相談相手〔全体、出身国(地域)別/複数回答〕



		友人・知人	母親	兄弟姉妹	父親	配偶者・パートナー	学校の先生	祖父母	親戚(おじ・おばなど)	地域の人	その他
全	体 N=300	70.7	49.3	24.0	18.7	15.7	6.3	1.7	1.7	0.0	2.7
出身国(地域)別	韓国 n=58	74.1	36.2	32.8	19.0	8.6	8.6	0.0	0.0	0.0	3.4
	台湾 n=62	72.6	45.2	37.1	17.7	11.3	4.8	0.0	1.6	0.0	0.0
	中国 n=54	50.0	44.4	5.6	22.2	13.0	1.9	1.9	1.9	0.0	3.7
	日本 n=126	77.0	59.5	21.4	17.5	22.2	7.9	3.2	2.4	0.0	3.2

(6) 最も理想的な結婚相手(問19)

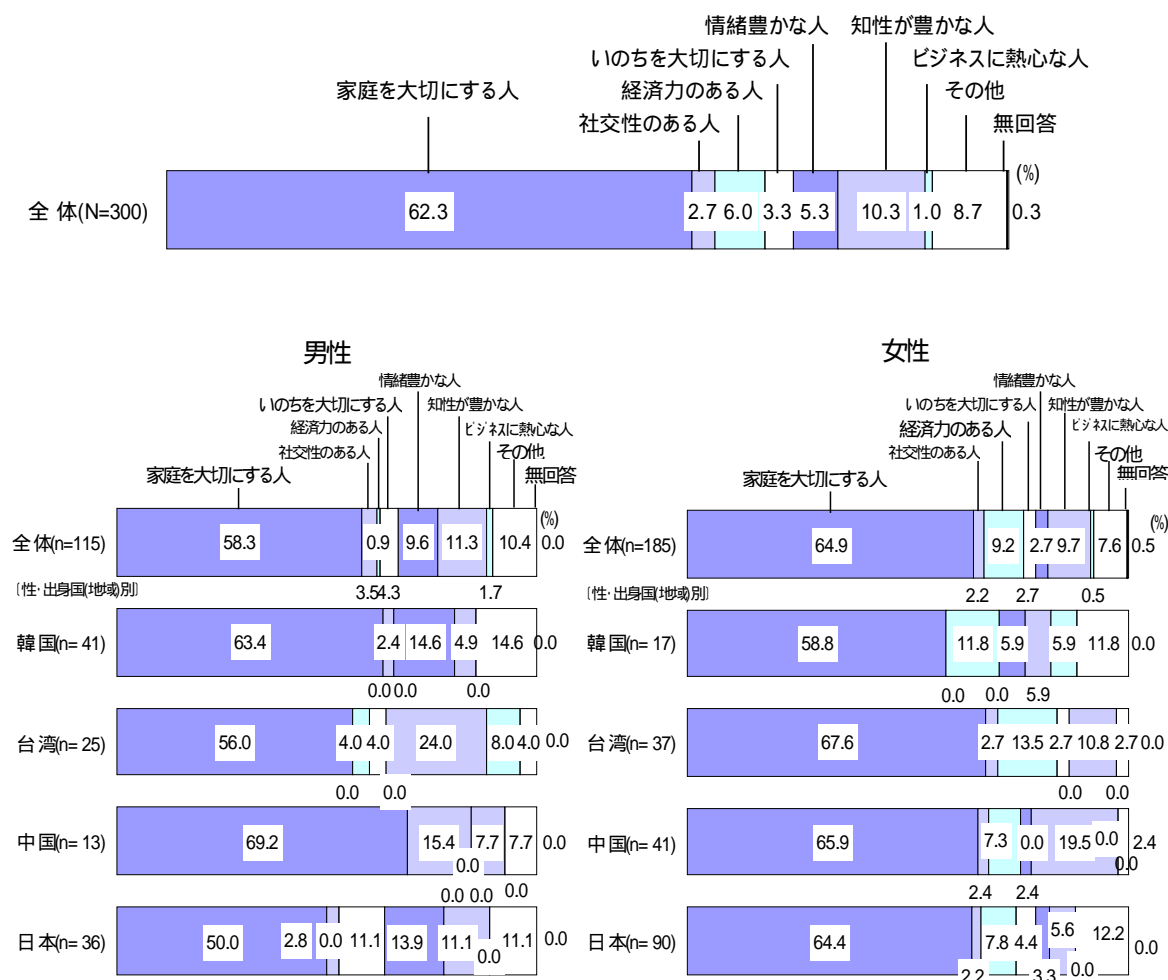
最も理想的な結婚相手は、「家庭を大切にする人」。

最も理想的な結婚相手はどのような人かをたずねました。

全体結果では、「家庭を大切にする人」が62.3%と圧倒的に多く、「知性が豊かな人(10.3%)」が続いています。

性・出身国(地域)別にみると、いずれの性・出身国(地域)でも「家庭を大切にする人」が5~6割台を占めています。その他の回答で多いものをみると、男性の場合は、韓国と日本では「情緒豊かな人」、中国では「社交性のある人」を理想的な結婚相手だとしています。一方、女性の場合は、韓国と台湾では「経済力のある人」、中国では「知性が豊かな人」を理想的な結婚相手としています(図表2-2-6)。

図表2-2-6 最も理想的な結婚相手〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



(7) 男女どちらに生まれ変わりたいか (問 20)

生まれ変わるなら「男性」、「女性」、「わからない」の順。性別をみると、男女とも今と同じ性に生まれ変わりたい割合が多く、女性よりも男性の方がその割合は高い。

生まれ変わるとしたら、男と女のどちらに生まれ変わりたいかをたずねました。

全体結果では、「男性」が 43.7%、「女性」が 36.0%、「わからない」が 19.7%となっています。

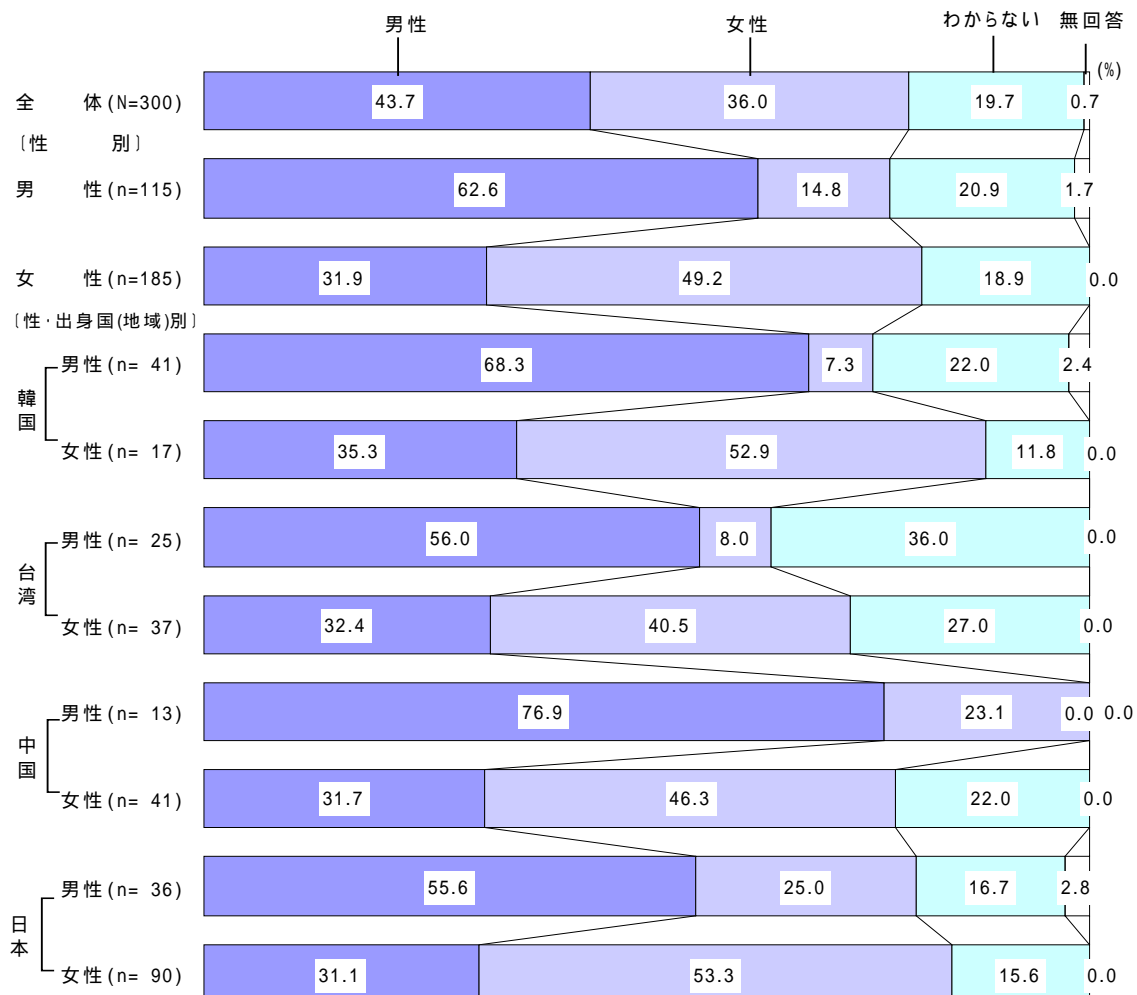
性別をみると、男性の場合は「男性」が 62.6%、「女性」が 14.8%と生まれ変わっても「男性」という回答が多く、女性の場合は「女性」が 49.2%とほぼ半数で、「男性(31.9%)」を上回っています。

性・出身国(地域)別に異性に生まれ変わりたい割合をみると、男性の場合は、韓国と台湾で「女性」という割合が少なくなっています(それぞれ 1 割未満)が、中国と日本では「女性」に生まれ変わりたい男性は 2 割を超えています(中国 : 23.1%、日本 25.0%)。

一方、女性の場合は、いずれの出身国(地域)でも、女性の 3 割が「男性」に生まれ変わりたいと思っています(図表 2 - 2 - 7)。

図表 2 - 2 - 7 男女どちらに生まれ変わりたいか

〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



(8)「女らしさ」「男らしさ」の規範(問22・問23)

「女らしさ」「男らしさ」という表現は「ある」。「女らしさ」「男らしさ」の規範は、韓国と日本で強いが、台湾と中国ではそれほど強くない。

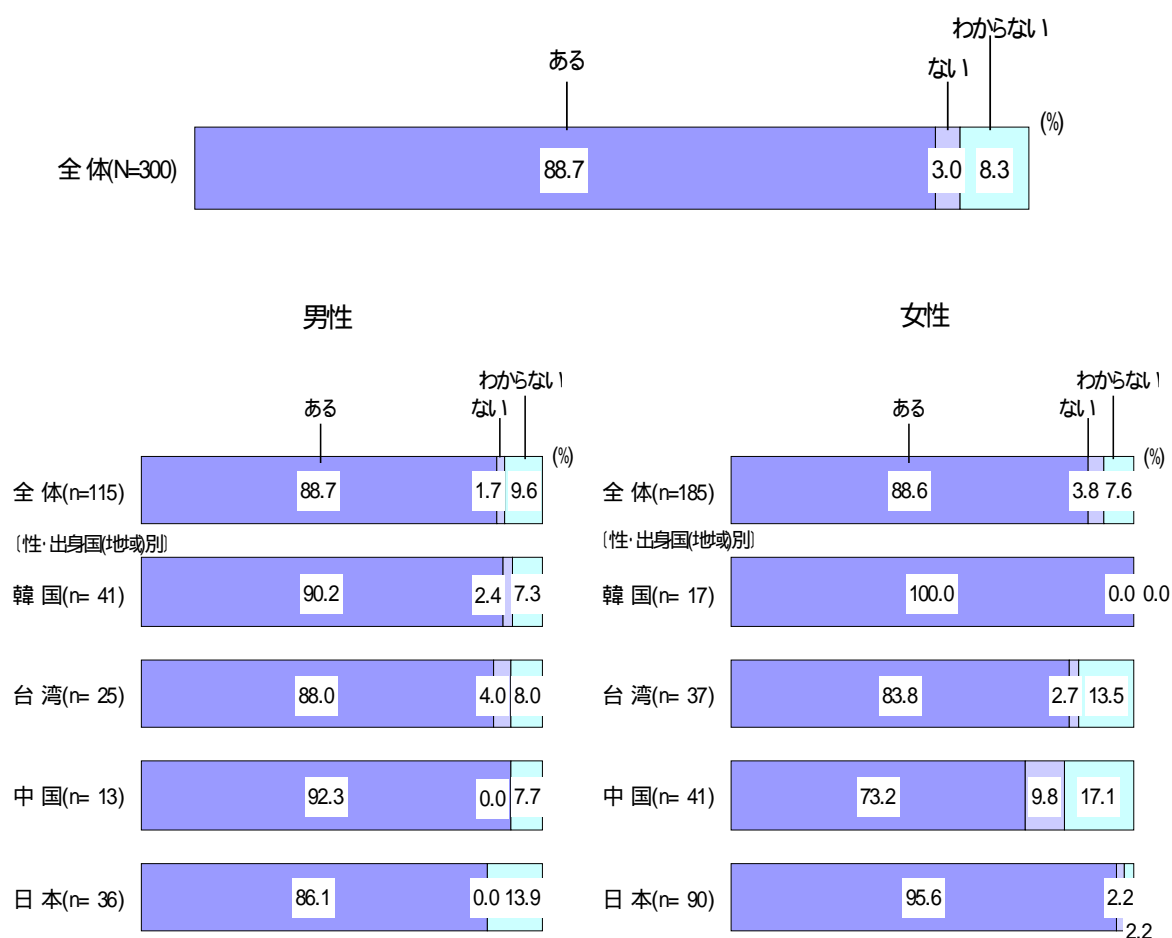
「女らしさ」「男らしさ」という表現の有無(問22)

それぞれの出身国(地域)に、「女らしさ」「男らしさ」という表現があるかをたずねました。

全体結果では、「ある」が88.7%とほとんどを占め、「わからない(8.3%)」、「ない(3.0%)」となっています。

性・出身国(地域)別にみると、「ある」と回答した割合が多い順に、韓国の女性(100%)、日本の女性(95.6%)、中国の男性(92.3%)、韓国の男性(90.2%)となっています。「ある」という回答が最も少ないのは、中国の女性で73.2%です(図表2-2-8-)。

図表2-2-8- 「女らしさ」「男らしさ」という表現の有無
〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



「女らしさ」「男らしさ」の規範の強さ（問23）

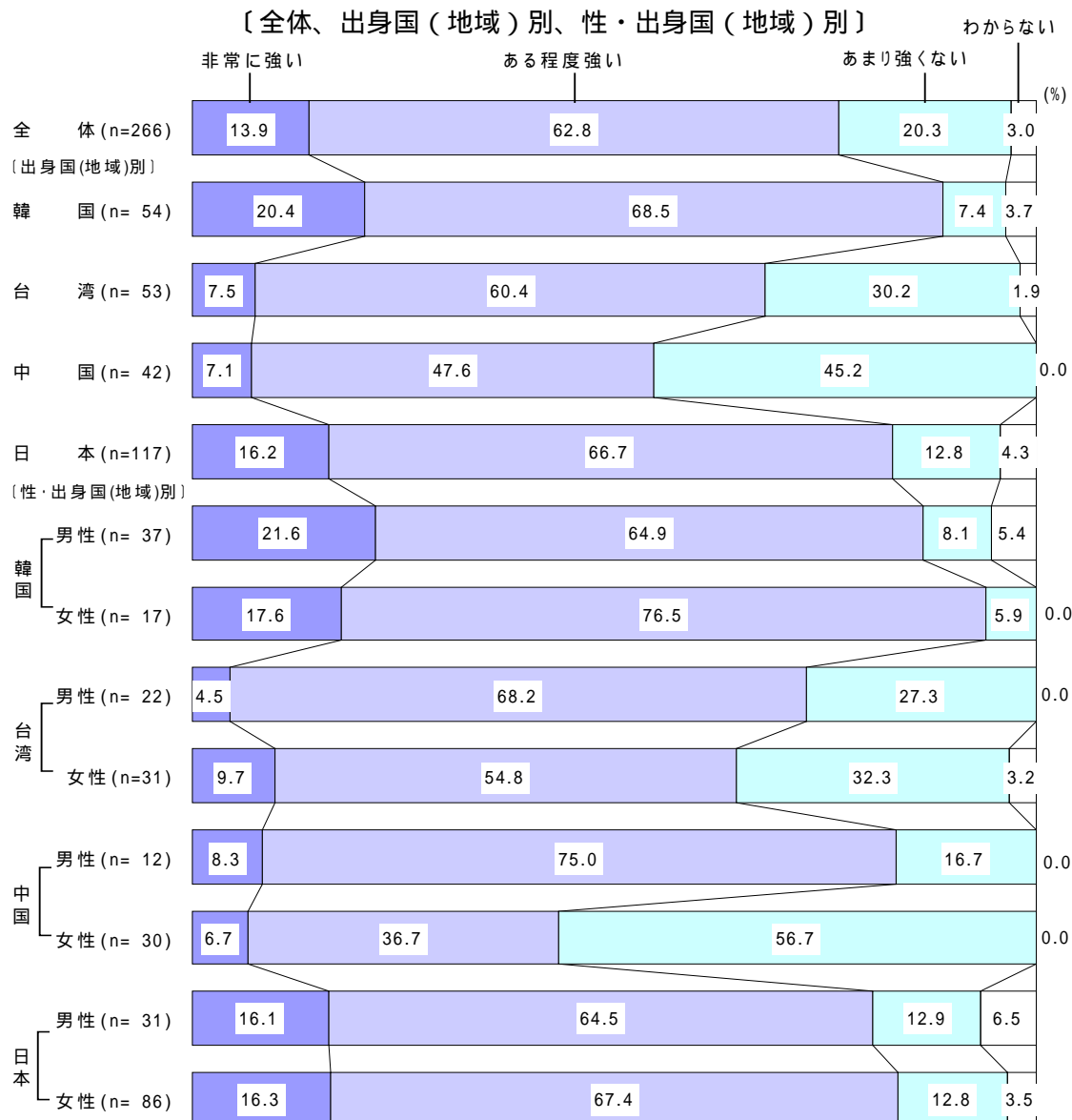
次に、問22で「ある」と回答した人に、「女らしさ」「男らしさ」がそれぞれの出身国（地域）の規範として強いものかどうかをたずねました。

全体結果では、「非常に強い」が13.9%、「ある程度強い」が62.8%で、両者をあわせた《強い》という回答が76.7%にのびります。「あまり強くない」は20.3%となっています。

出身国（地域）別に《強い》と回答した割合をみると、韓国と日本では8割を超えますが、台湾では67.9%、さらに中国では54.7%となっています。

性・出身国（地域）別にみると、韓国の男女、中国の男性、日本の男女では《強い》が8割以上で、特に韓国の女性は94.1%が《強い》と回答しています。これに対して、台湾と中国の女性は《強い》という回答が低くなっています。台湾の女性は、《強い》が64.5%、「あまり強くない」が32.3%、中国の女性は《強い》が43.4%、「あまり強くない」は56.7%にのびります（図表2-2-8- ）。

図表2-2-8- 「女らしさ」「男らしさ」の規範の強さ



(9) 学生生活に満足しているか(問24)

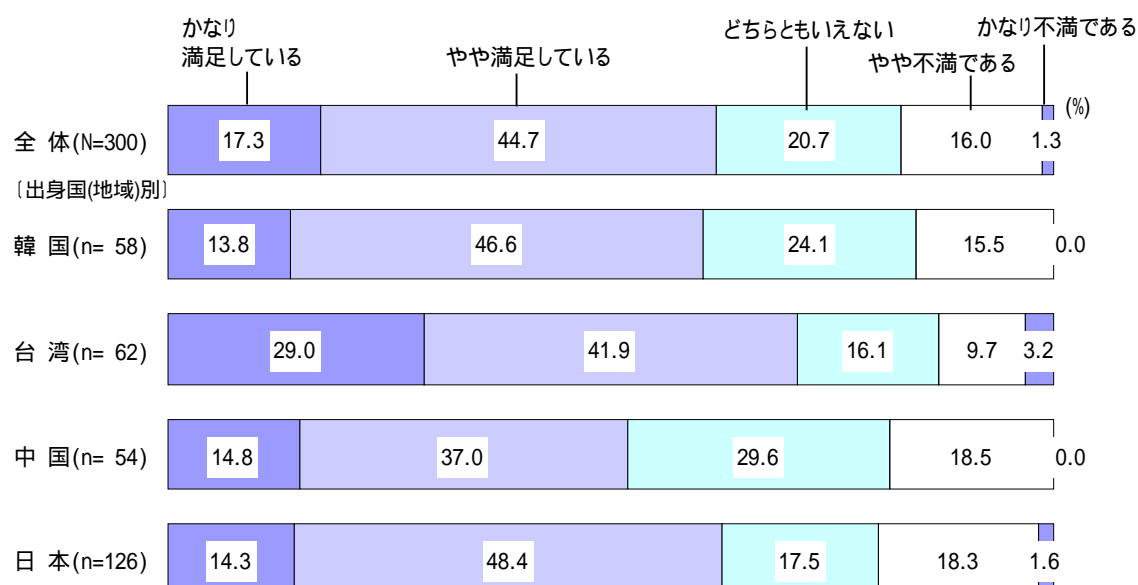
6割以上が学生生活に満足している。

いまの学生生活に満足しているかをたずねました。

全体結果では、「かなり満足している」と「やや満足している」を合わせた《満足している》が62.0%と多く、「どちらともいえない」が20.7%、「やや不満である」と「かなり不満である」を合わせた《不満である》が17.3%となっています。

4つの出身国(地域)の中で《満足している》割合が最も高いのは台湾(70.9%)で、日本(62.7%)、韓国(60.4%)、中国(51.8%)の順になっています(図表2-2-9)。

図表2-2-9 学生生活に満足しているか〔全体、出身国(地域)別〕



3 男性優遇・女性優遇に関する意識

(1) 男性もしくは女性が優遇されていると感じるか(問25)

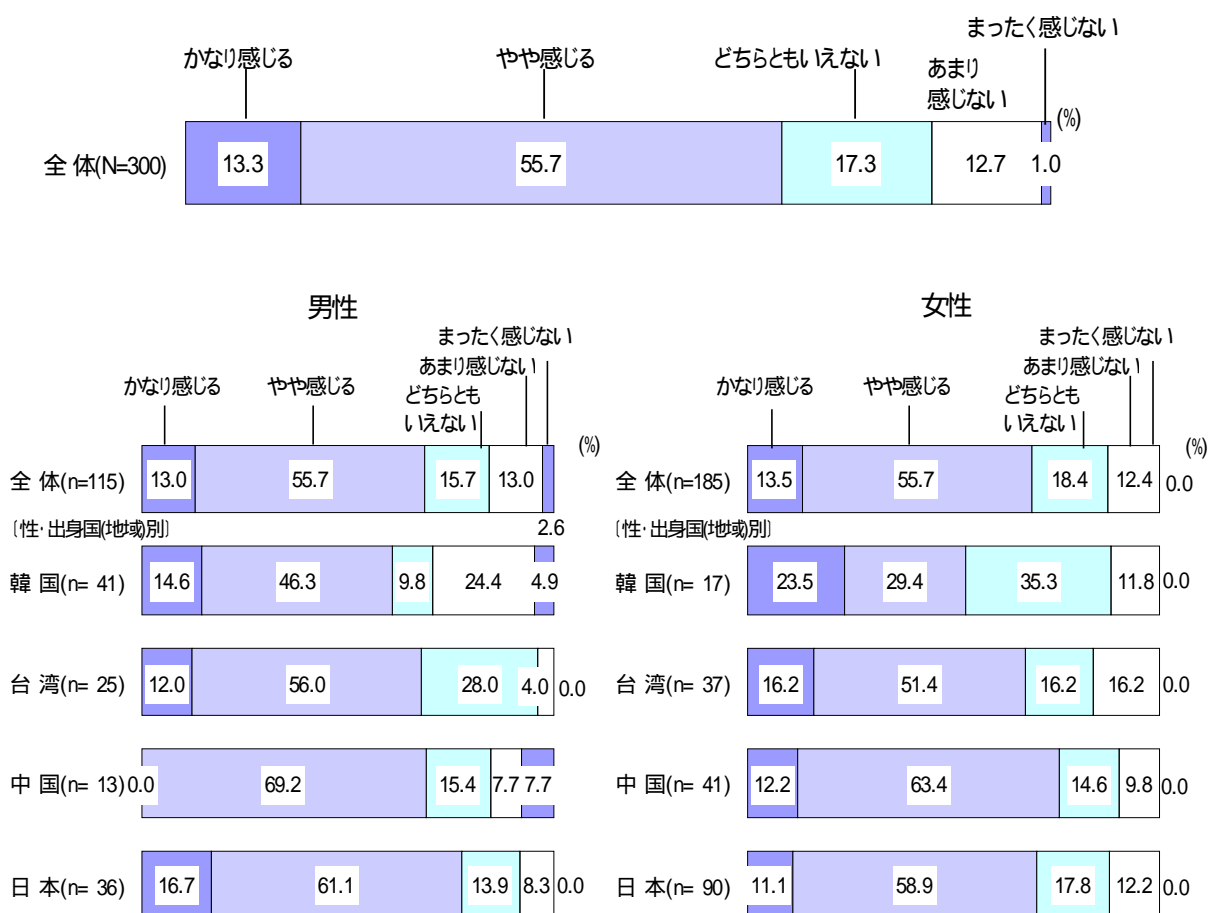
7割近い人がいずれかの性が優遇されている、と感じている。

日ごろの生活において、男性もしくは女性が優遇されていると感じることがあるかどうかたずねました。

全体結果では、「かなり感じる(13.3%)」と「やや感じる(55.7%)」をあわせると7割近くとなり、《どちらかの性が優遇されていると感じている》人が多いことがわかります。

性・出身国(地域)別にみて、韓国と日本では、《どちらかの性が優遇されていると感じている人》は男性の方が多くなっていますが、中国では女性の方が多く、台湾では男女がほぼ同じ割合となっています(図表2-3-1)。

図表2-3-1 男性もしくは女性が優遇されていると感じるか
〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



(2) 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点(問26)

サークルや友人・恋人など人間関係では《女性が優遇》、社会や家庭では《男性が優遇》と感じている人が多い。

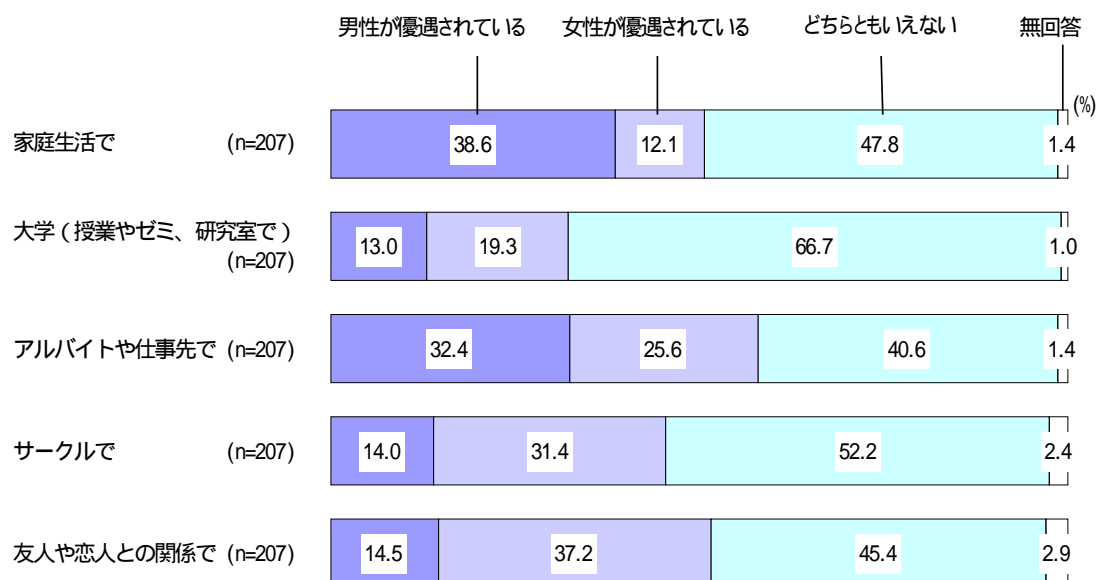
先の質問において、「かなり感じる」、「やや感じる」と答えた 207 人に対し、自分の生活の中でどのように感じているかをたずねました。

全体結果をみると、家庭生活で、アルバイトや仕事先では「男性が優遇されている」という回答が多く、サークルで、友人や恋人との関係では「女性が優遇されている」という回答が多くなっています。大学生活や友人同士の間関係では女性は優遇されていても、家庭やアルバイト先では男性が優遇されていると感じている人が多いことがわかります。なお、大学(授業やゼミ、研究室)では「どちらともいえない」という回答が多く、授業や研究ではいずれかの性が優遇されている、と感じる人は少ないようです。また、「どちらともいえない」の割合が高くなっていますが、これは前問で「日ごろの暮らし」が全般にわたり質問したのに対し、本問では5つの分野に限定したためと考えられます。男性もしくは女性が優遇されていると感じる場面は、これら5つの分野以外にもあると推測されます(図表2-3-2-)。

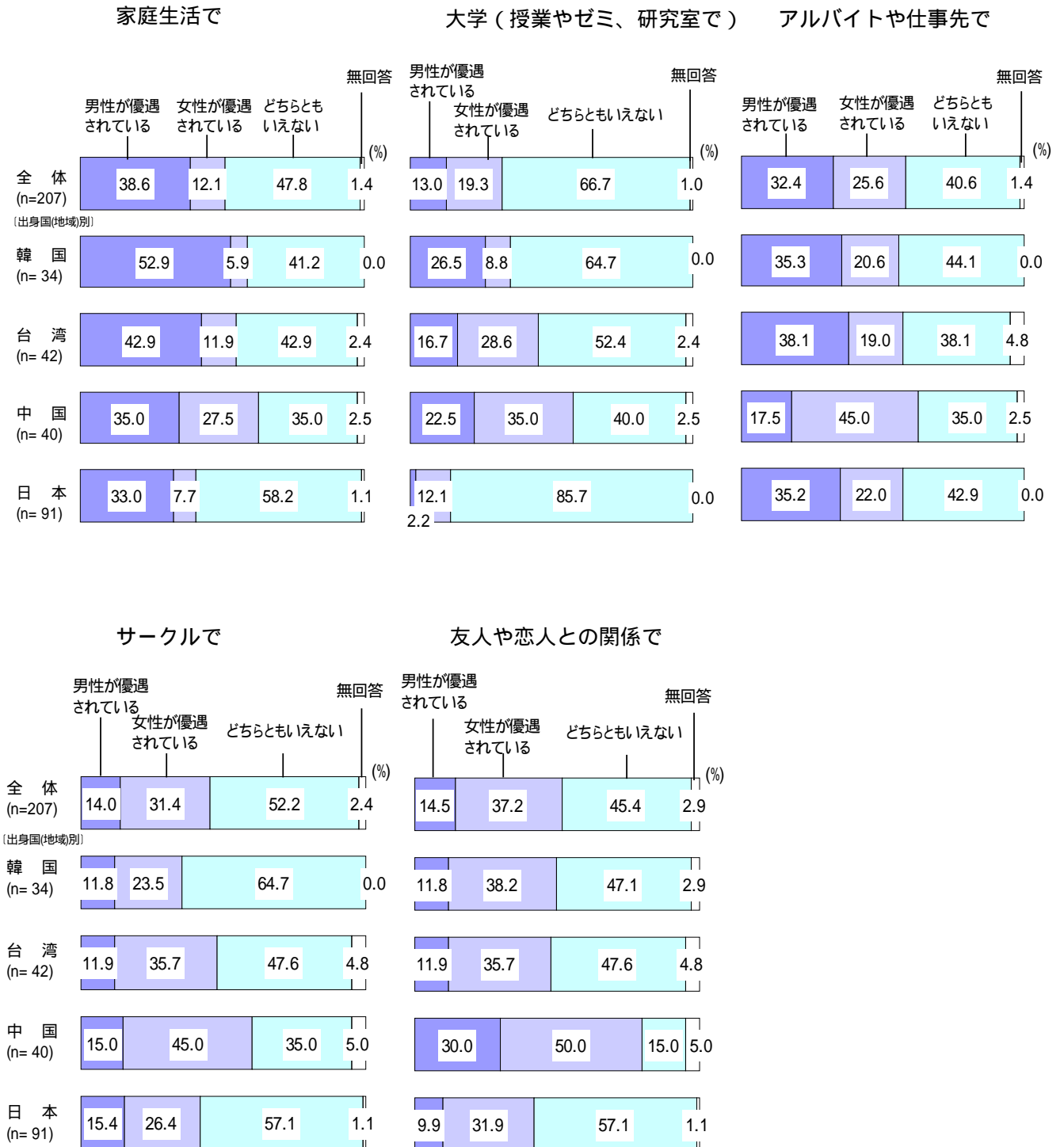
出身国(地域)別にみると、サークルや、友人や恋人との関係を除き、韓国は「男性が優遇されている」という回答が多く、中国は全体的に「女性が優遇されている」という回答が多いのが特徴です。台湾は特にアルバイトや仕事先で「男性が優遇されている」という回答が多くなっています。日本は全般的に「どちらともいえない」が多くなっています(図表2-3-2-)。

男女別にみると、家庭生活では男性よりも女性のほうが「男性が優遇されている」と感じる人が多くなっています(図表2-3-2-)。

図表2-3-2- 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点〔5領域、全体〕

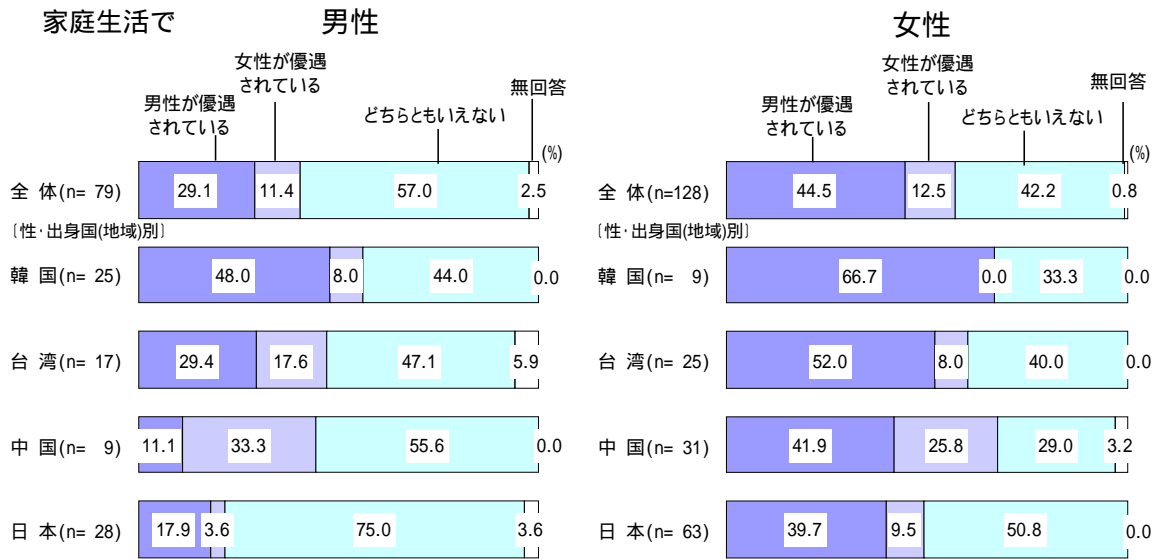


図表 2 - 3 - 2 - 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点
〔5領域、全体、出身国（地域）別〕

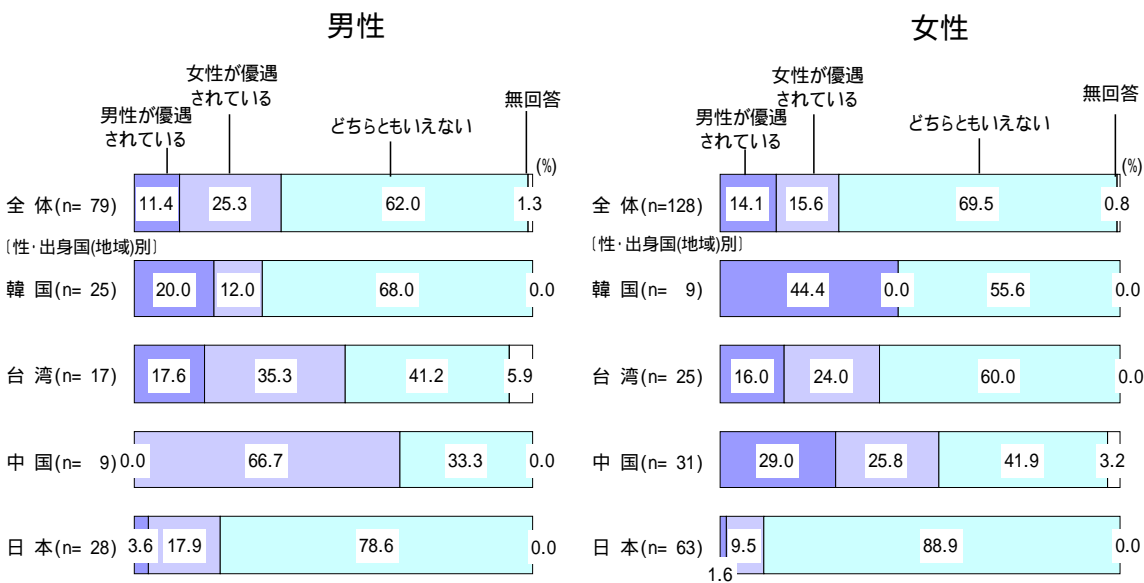


図表2 - 3 - 2 - 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点
〔5領域、性別、性・出身国(地域)別〕

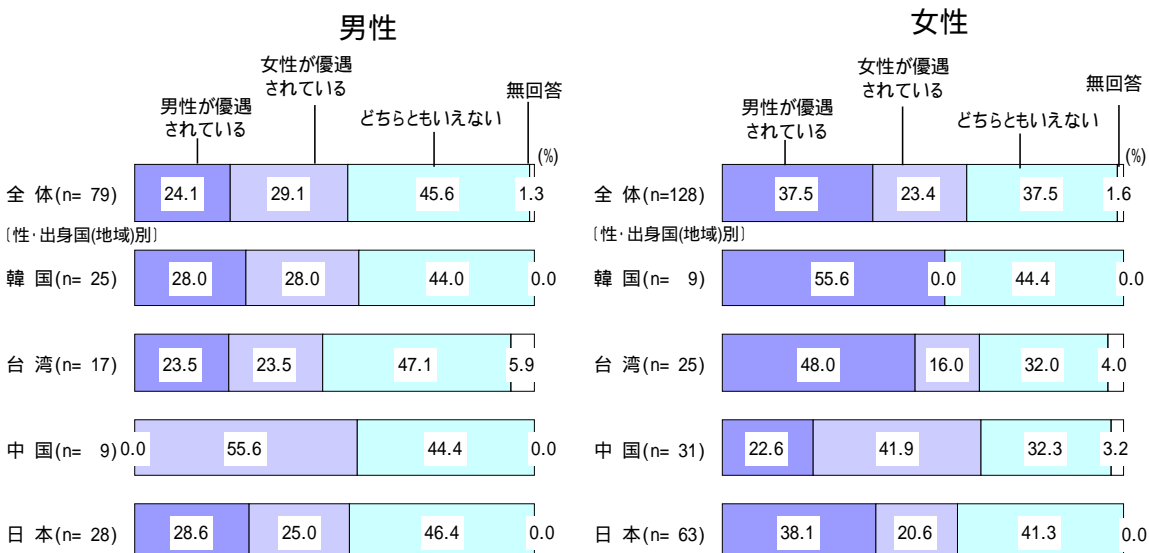
家庭生活上で



大学(授業やゼミ、研究室で)

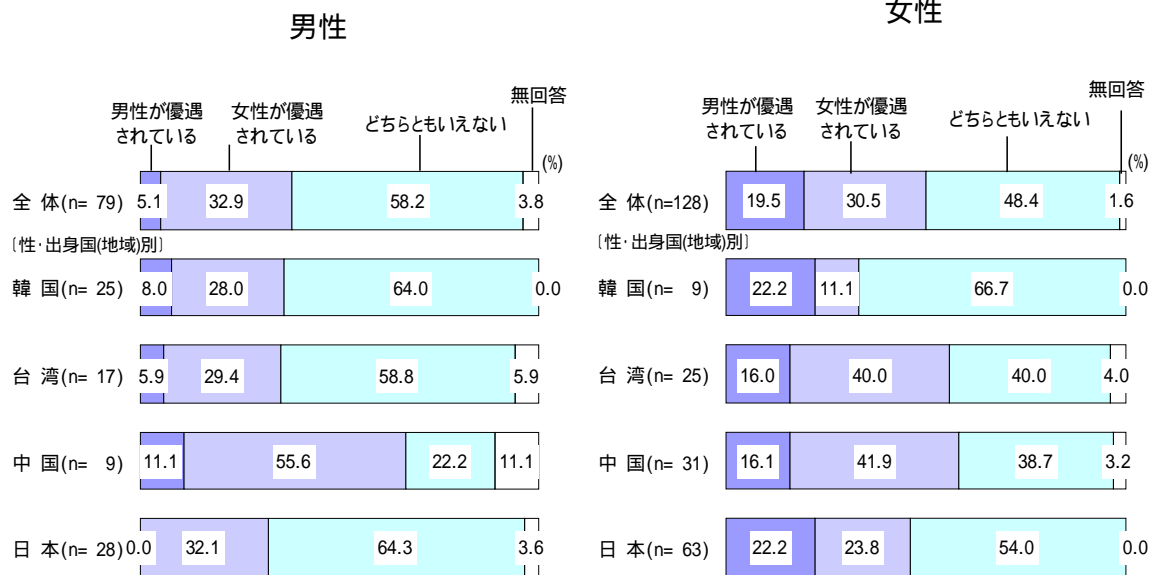


アルバイトや仕事先で

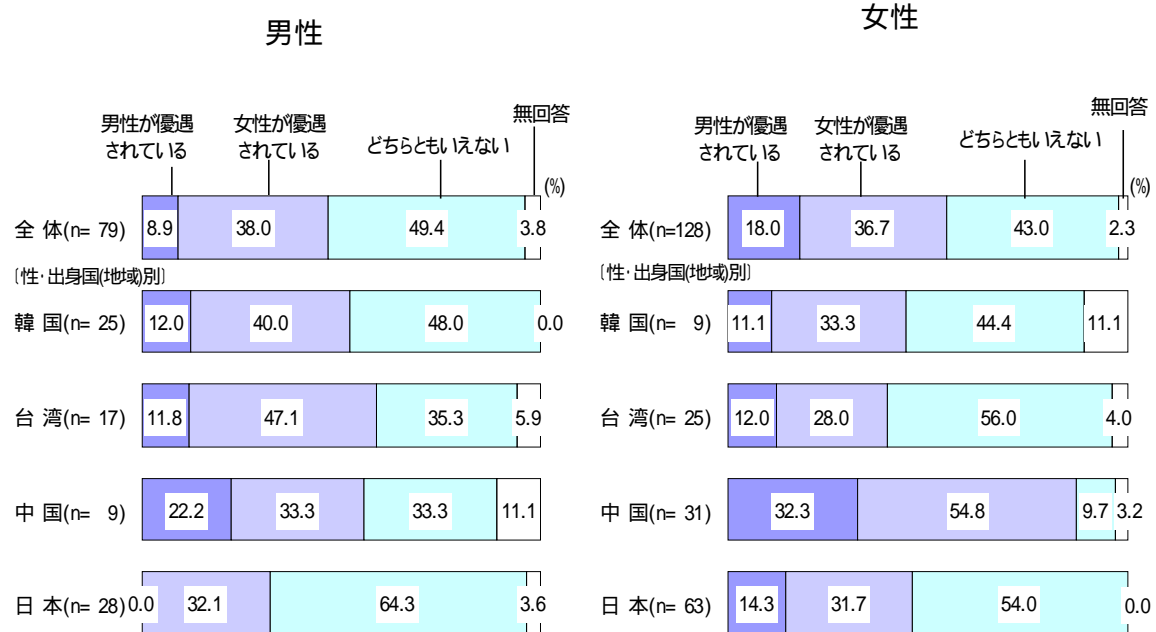


図表 2 - 3 - 2 - 男性もしくは女性が優遇されていると感じる点
〔性別、性・出身国(地域)別〕

サークルで



友人や恋人との関係で



(3) 日本の社会はどのような社会か(問27)

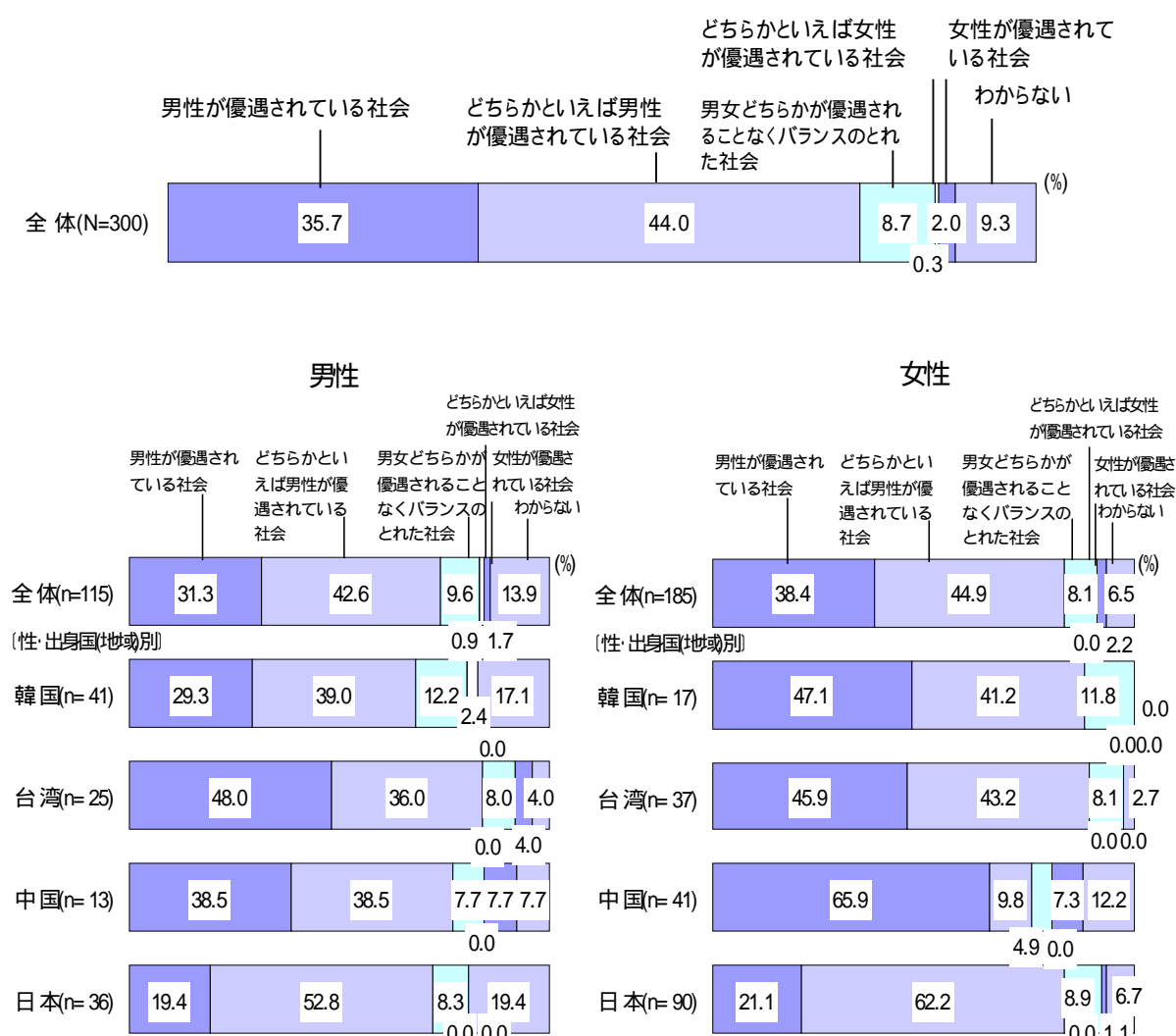
「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」社会だと感じている人は8割近い。

それでは大学生は、日本の社会全体をどのような社会だと感じているのでしょうか。

全体結果では、「男性が優遇されている社会(35.7%)」と「どちらかといえば優遇されている社会(44.0%)」を合わせた《男性が優遇されている社会》への回答は8割近くにのぼり、大半が日本の社会は男性が優遇されている不平等な社会だと感じています。

性・出身国(地域)別では、韓国、台湾、日本の女性は男性と比較すると《男性が優遇されている社会》への回答が多くなっています。なかでも、中国の女性はその回答の割合が65.9%と高く、日本社会の不平等感を強く感じていることがわかります(図表2-3-3)。

図表2-3-3 日本の社会はどのような社会か〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



(4) 社会像に対する賛否 (問 28)

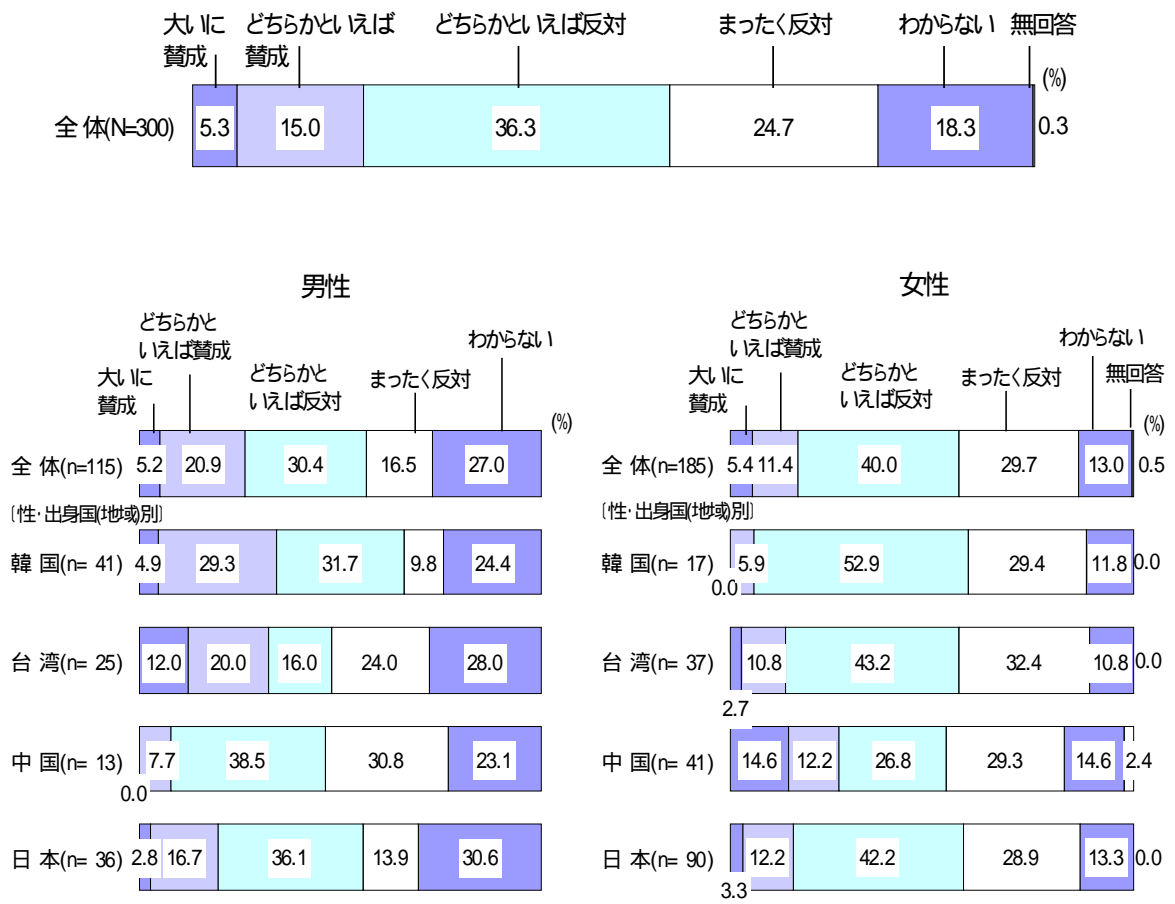
男性優遇社会という社会について、反対という見方は、賛成を大きく上回る。韓国では、男女の意識差が特に大きい。

前問では、回答者の 8 割近くが日本の社会は男性が優遇されている社会と回答しましたが、その社会像に対して賛成か反対かをたずねました。

全体結果では、「どちらかといえば反対 (36.3%)」、「まったく反対 (24.7%)」をあわせた《反対》が、「大いに賛成 (5.3%)」、「どちらかといえば賛成 (15.0%)」をあわせた《賛成》を大きく上回っています。

性・出身国(地域)別にみると、どの層でも《反対》の割合が《賛成》を上回っていますが、韓国と台湾の男性では比較的《賛成》が多くなっています。韓国では、女性の 8 割以上が《反対》であり、男女の意識差が顕著です。日本は男女とも《反対》の割合が高いですが、男性は「わからない (30.6%)」という回答も 3 割にのぼっています (図表 2 - 3 - 4)

図表 2 - 3 - 4 社会像に対する賛否〔全体、性別、性・出身国(地域)別〕



4 ドメスティック・バイオレンスに対する意識

(1) ドメスティック・バイオレンスの認知度(問29)

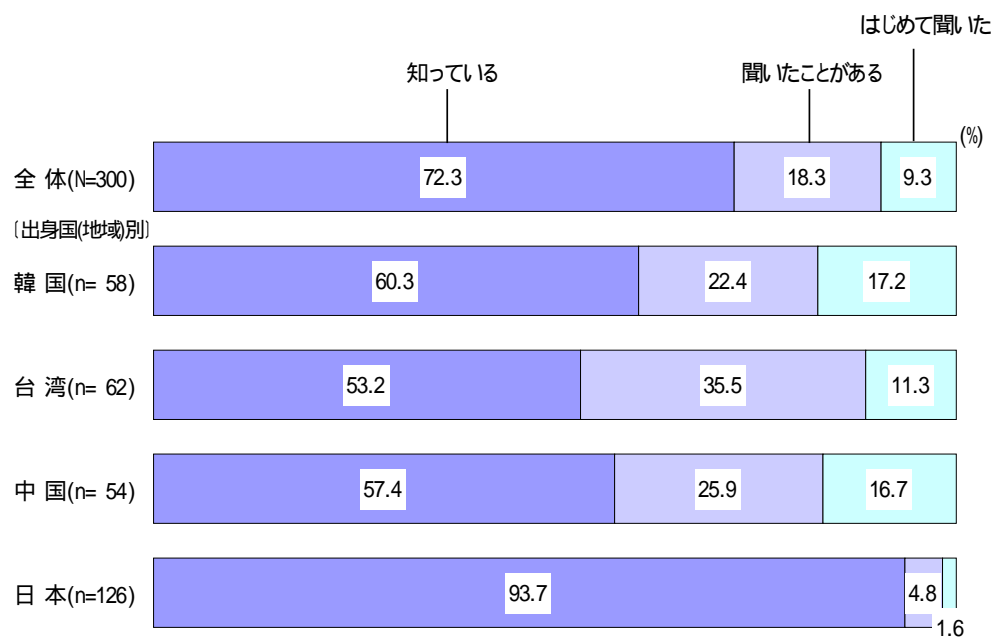
**ドメスティック・バイオレンスを「知っている」のは7割。
韓国、台湾、中国と比較して、日本の内容認知度が最も高い。**

「ドメスティック・バイオレンス(夫や恋人など親密な関係にある男性から女性への暴力、以下文中はDVと略す)」の問題について、知っているかどうかをたずねました。

全体結果では、「知っている」は72.3%、「聞いたことがある」は18.3%、「はじめて聞いた」は9.3%で、全体の7割が内容まで知っている、9割近くが言葉までを知っていることとなります。

出身国(地域)別では、韓国や中国は「はじめて聞いた(韓国:17.2%、中国:16.7%)」という回答が多くなっています。日本は「知っている」だけで93.7%あり、最も認知度が高くなっています(図表2-4-1)。

図表2-4-1 DVの認知度〔全体、出身国(地域)別〕



(2) ドメスティック・バイオレンスを知った年齢(問30)

16歳から18歳にかけて知った人が多い。平均年齢は16.8歳。

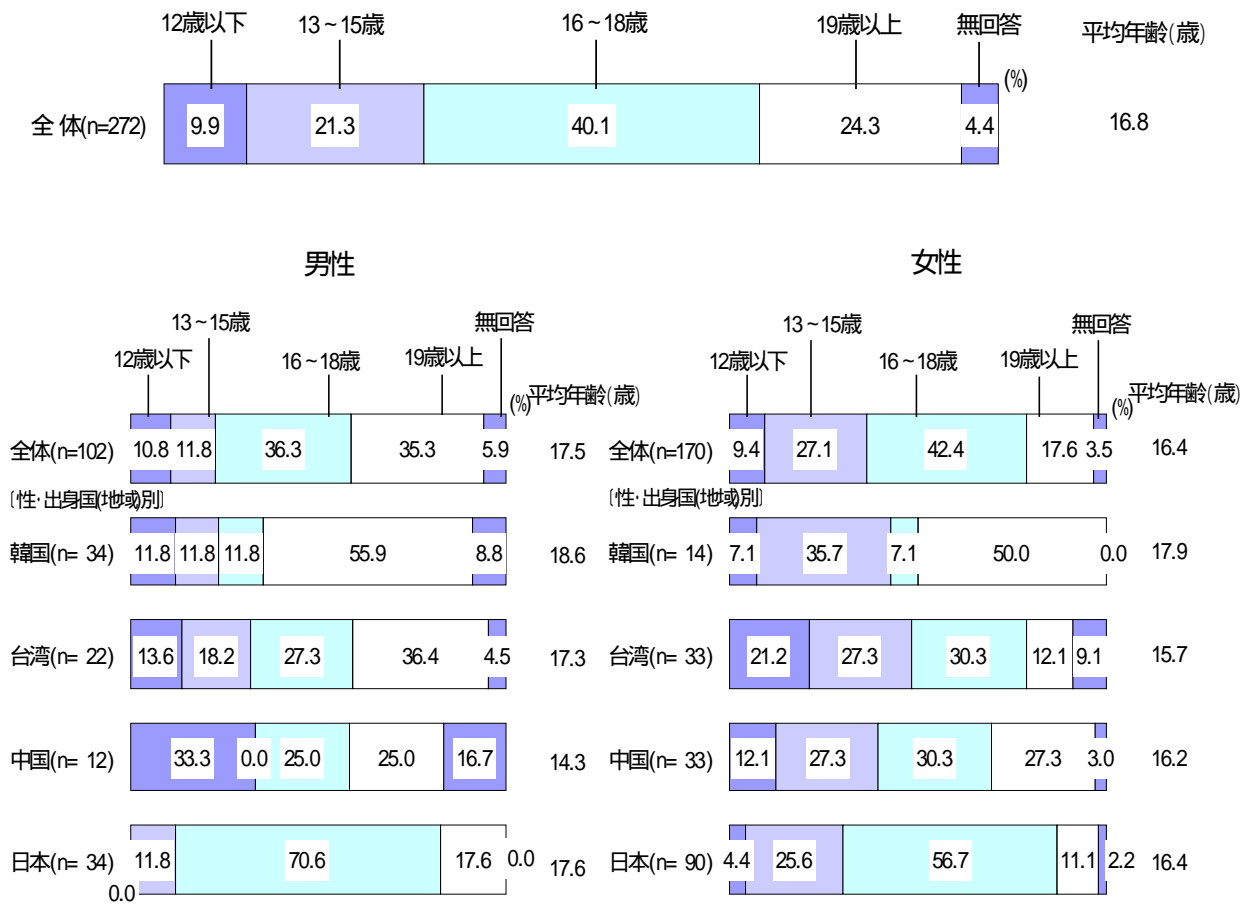
DVを「知っている」、「聞いたことがある」人に対し、何歳の頃知ったかをたずねました。

全体結果では、「16～18歳」の間に知った人が40.1%、「19歳以上」で知った人は24.3%です。平均年齢は16.8歳となっています。

性・出身国(地域)別にみて、中国は知った年齢が比較的早く、男性が14.3歳、女性が16.2歳です。韓国は平均年齢が高く、男性は18.6歳、女性が17.9歳です(図表2-4-2)

図表2-4-2 DVを知った年齢

(DVを知っている人・聞いたことがある人/全体、性別、性・出身国(地域)別)



(3) ドメスティック・バイオレンスを知ったきっかけ(問31)

DVを知ったきっかけは、メディア、学校の授業などの順で多い。

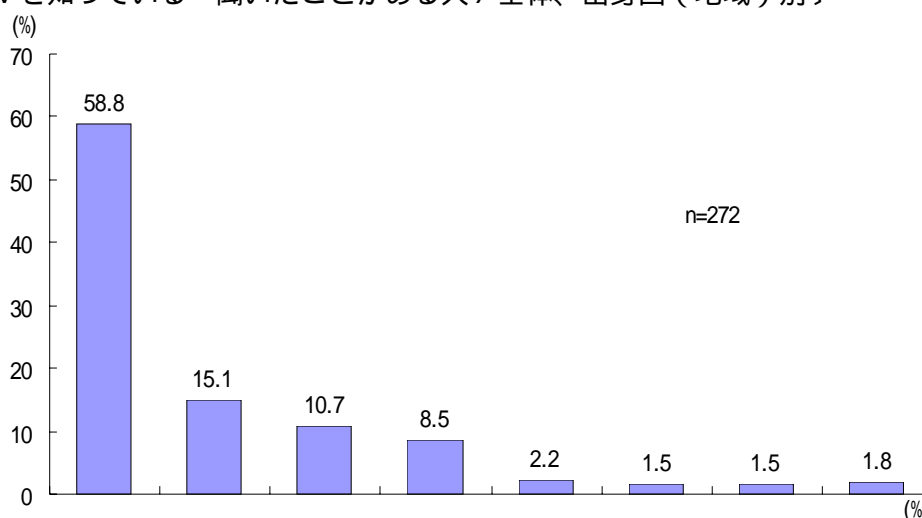
DVを「知っている」、「聞いたことがある」という人に対して、どのようなきっかけで知ったのかをたずねました。

全体結果では、圧倒的に「テレビや新聞をみて(58.8%)」という回答が多く、次いで、「学校の授業で(15.1%)」、「家族や友人を見聞きして(10.7%)」の順となっています。

出身国(地域)別にみると、韓国と台湾では「テレビや新聞をみて」のほか、「家族や友人を見聞きして(20.8%)」という回答が多くなっています。中国は、メディアを通して知った人は最も少なく、「雑誌や書籍で(22.2%)」という回答が最も多くなっています。日本は「テレビや新聞をみて(62.9%)」のほか、「学校の授業で(25.0%)」の割合も高くなっています(図表2-4-3)。

図表2-4-3 DVを知ったきっかけ

〔DVを知っている・聞いたことがある人/全体、出身国(地域)別〕



		テレビや新聞をみて	学校の授業で	家族や友人を見聞きして	雑誌や書籍で	自分が経験した	インターネットで	その他	無回答
全 体 n=272		58.8	15.1	10.7	8.5	2.2	1.5	1.5	1.8
出身国(地域)別	韓 国 n=48	64.6	0.0	20.8	6.3	2.1	2.1	0.0	4.2
	台 湾 n=55	54.5	12.7	18.2	7.3	3.6	3.6	0.0	0.0
	中 国 n=45	46.7	6.7	11.1	22.2	4.4	2.2	2.2	4.4
	日 本 n=124	62.9	25.0	3.2	4.8	0.8	0.0	2.4	0.8

(4) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(問32)

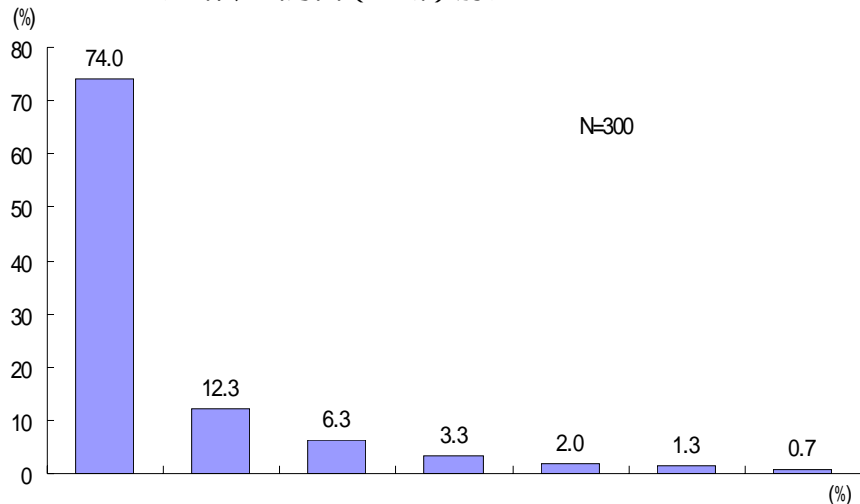
「いかなる状況でも暴力は許されるべきではない」という人は7割を超える。

全員に対し、DVについて、どのように思うかをたずねました。

全体結果では、「いかなる状況でも暴力は許されるべきではない(74.0%)」という回答が7割で大半を占めるものの、「許されるべきでないが、つい暴力を振るう気持ちもわかる(12.3%)」、「許されるべきでないが、被害者にも原因がある(6.3%)」、「双方の問題であり、まわりがとやかく言う問題ではない(3.3%)」を合わせた《一部容認》する人も2割となっています。

出身国(地域)別に回答をみると、韓国と日本では「いかなる状況でも暴力は許されるべきではない(韓国81.0%、日本79.4%)」という回答が多くなっています。《一部容認》に目を向けると、中国は韓国、台湾、日本と比べて最も回答が多くなっています(29.7%) (図表2-4-4-)。

図表2-4-4- DVに対する考え方
〔全体、出身国(地域)別〕



		いかなる状況でも暴力は許されるべきではない	許されるべきでないが、つい暴力を振るう気持ちもわかる	許されるべきでないが、被害者にも原因がある	双方の問題であり、まわりがとやかく言う問題ではない	わからない	その他	無回答
全	体 N=300	74.0	12.3	6.3	3.3	2.0	1.3	0.7
出身国(地域)別	韓 国 n=58	81.0	5.2	8.6	1.7	1.7	1.7	0.0
	台 湾 n=62	64.5	11.3	11.3	6.5	6.5	0.0	0.0
	中 国 n=54	64.8	16.7	3.7	9.3	0.0	1.9	3.7
	日 本 n=126	79.4	14.3	4.0	0.0	0.8	1.6	0.0

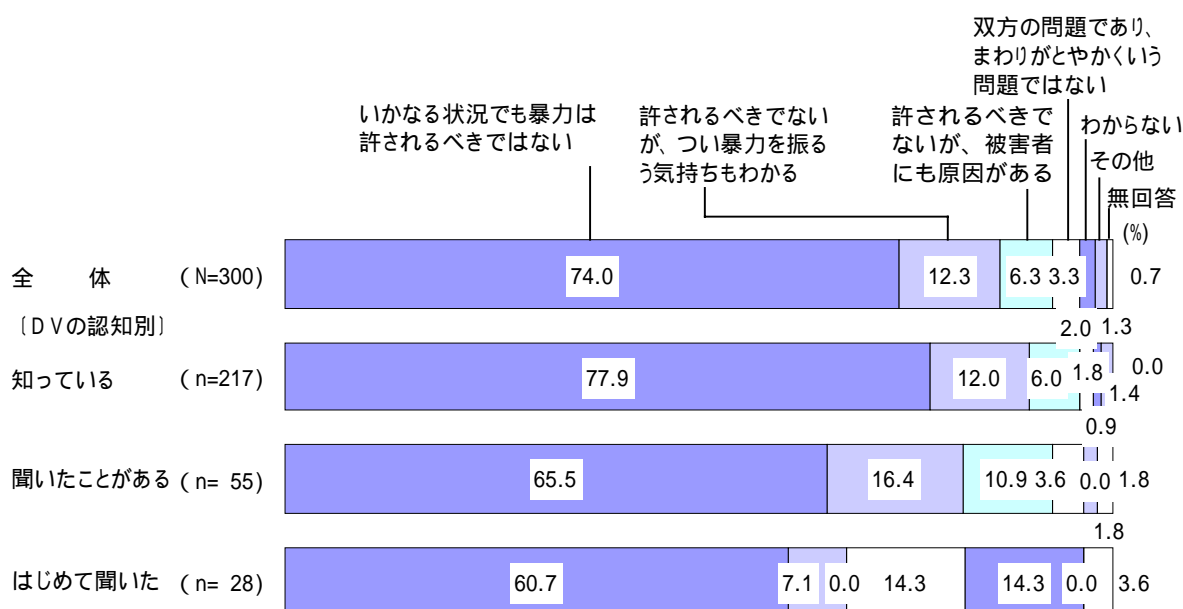
DVを知っているかどうかで、DVに対する考え方がどのように異なるのか分析しました。

DVを知っている人は、はじめて聞いた人と比較して、「いかなる状況でも暴力は許されるべきではない」という回答の割合が高くなっています(図表2-4-4-)。

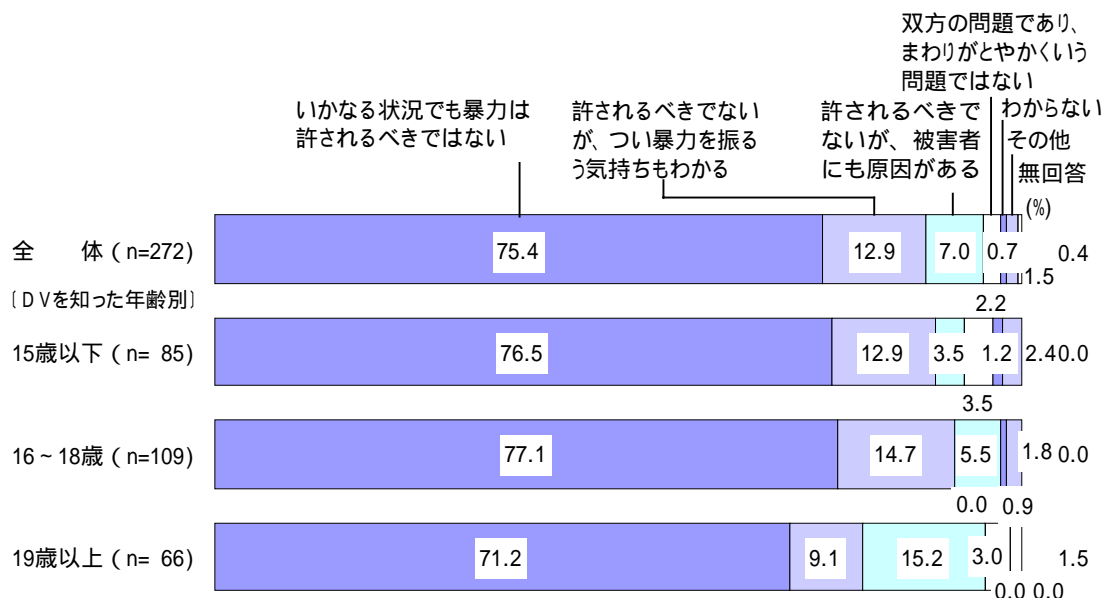
さらに、DVを知った年齢でDVに対する考え方がどのように異なるのか分析しました。

DVを知った年齢が18歳以下の人では、「いかなる状況でも暴力は許されるべきではない」の割合は余り違いがありませんが、19歳以上ではその割合が若干低くなっています(図表2-4-4-)。

図表2-4-4- DVに対する考え方
〔全体、DVの認知別〕



図表2-4-4- DVに対する考え方
〔DVを知っている・聞いたことがある人/全体、DVを知った年齢別〕



5 「従軍慰安婦」問題に対する意識

(1) 「従軍慰安婦」問題の認知度(問33)

「従軍慰安婦」問題を「知っている」のは9割近い。
日本ではDVの認知度と「従軍慰安婦」問題の認知度が一致していない。

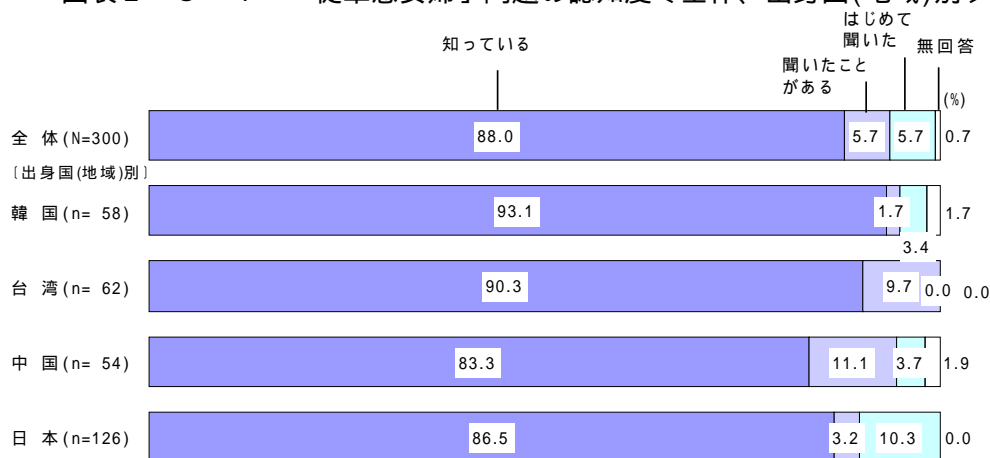
「従軍慰安婦」問題について、知っているかどうかたずねました。

全体結果では、「知っている」は88.0%、「聞いたことがある」は5.7%、「はじめて聞いた」は5.7%で、9割以上が言葉までを知っていることになり、先にたずねたDVよりも認知度は高くなっています。

出身国(地域)別にみると、韓国は「知っている(93.1%)」という回答が最も多くなっています。日本は「はじめて聞いた」が10.3%です(図表2-5-1)。

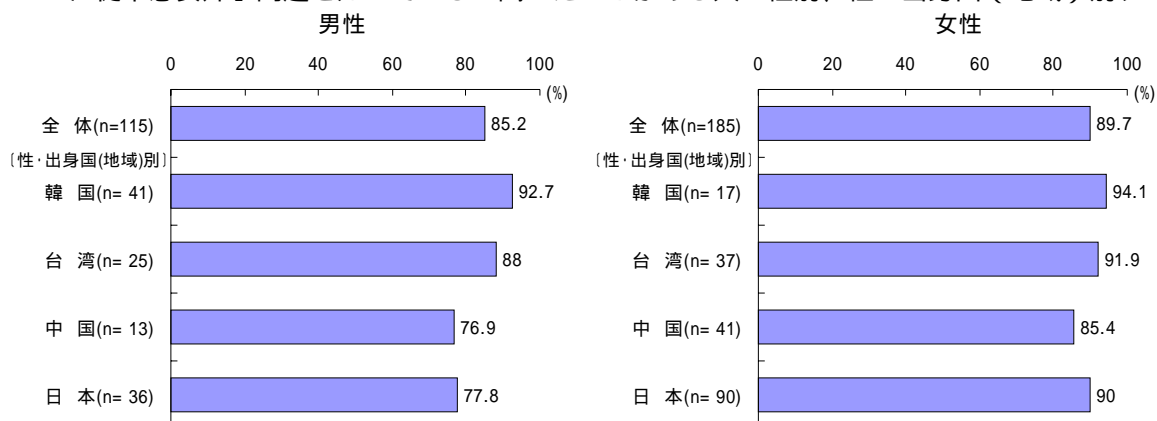
性・出身国(地域)別に、「知っている」という回答について比較すると、全ての国(地域)で、女性の方が男性より「知っている」割合が高くなっています。韓国では男女の回答が僅差であるのに対し、中国と日本は男性の回答が7割台(中国76.9%、日本77.8%)となっています(図表2-5-2)。

図表2-5-1 「従軍慰安婦」問題の認知度〔全体、出身国(地域)別〕



図表2-5-2 「従軍慰安婦」問題を知っている人の割合

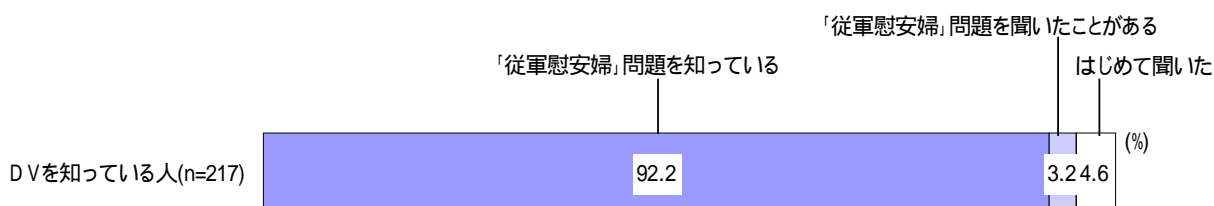
〔「従軍慰安婦」問題を知っている・聞いたことがある人/性別、性・出身国(地域)別〕



先ほどのDVの認知度と、「従軍慰安婦」問題の認知度の関係について、出身国（地域）別に分析することとします。

韓国と中国では、DVを知っている人全員が「従軍慰安婦」の問題も「知っている」と回答しています。しかし日本をみると、「はじめて聞いた」という回答が8.5%みられ、DVの認知度と「従軍慰安婦」問題の認知度とは必ずしも一致していないことがわかります（図表2-5-3）。

図表2-5-3 「従軍慰安婦」問題の認知度
〔DVを知っている人／全体、出身国（地域）別〕



		「従軍慰安婦」問題を 知っている	「従軍慰安婦」問題を 聞いたことがある	はじめて聞いた
全 体 n=217		92.2	3.2	4.6
出身地 (地域) 別	韓 国 n=35	100.0	0.0	0.0
	台 湾 n=33	90.9	9.1	0.0
	中 国 n=31	100.0	0.0	0.0
	日 本 n=118	88.1	3.4	8.5

(2) 「従軍慰安婦」問題を知った年齢(問34)

13歳から15歳にかけて知った人が多い。平均年齢は15.1歳。

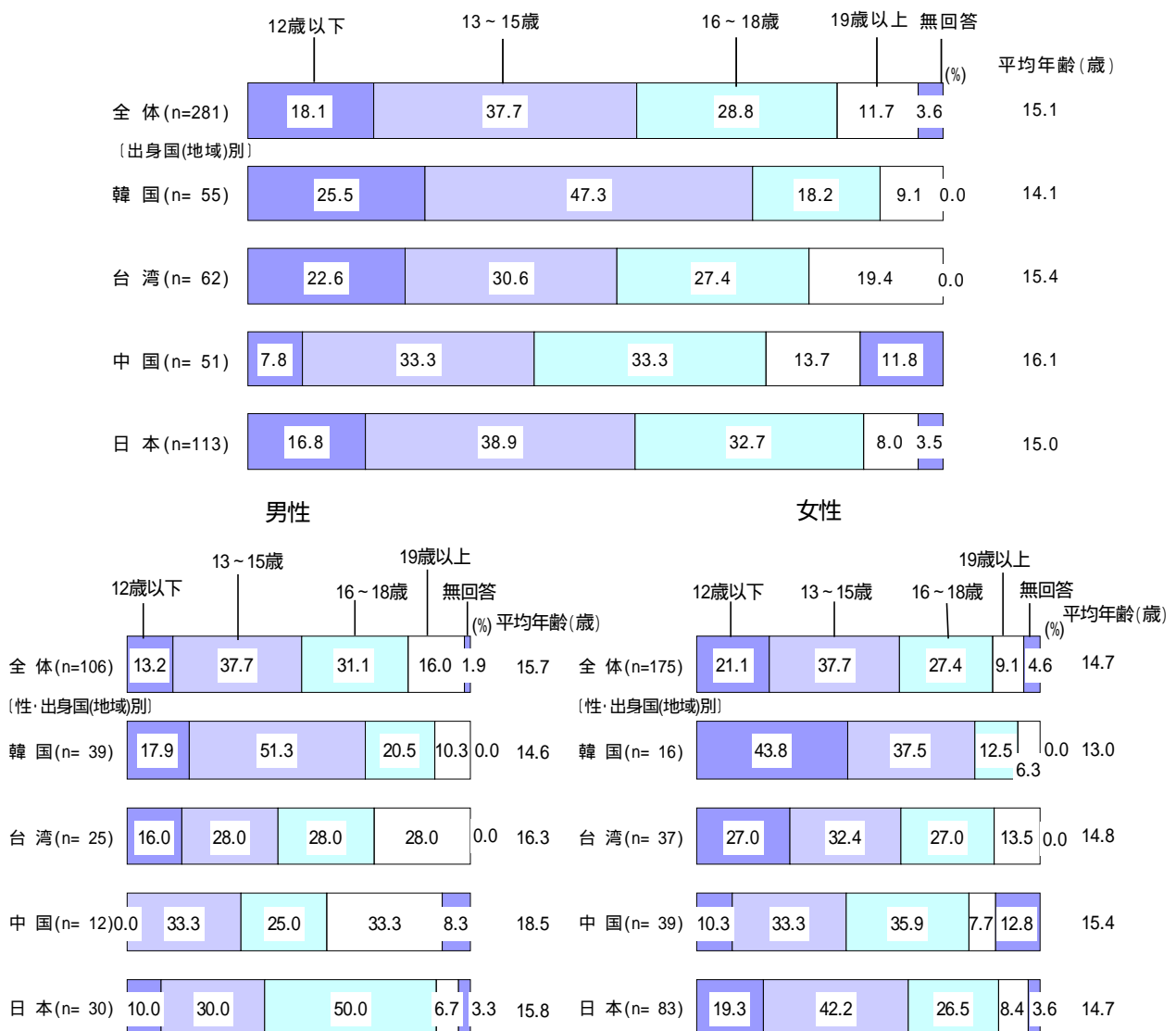
「従軍慰安婦」問題について、「知っている」、「聞いたことがある」人に対し、何歳の頃知ったかをたずねました。

全体結果では、「13～15歳(37.7%)」が最も多く、平均年齢は15.1歳となっています。先のDVを知った平均年齢よりも1.7歳低く、「従軍慰安婦」問題の方を先に知った人が多いことがわかります。

性・出身国(地域)別にみると、いずれの出身国(地域)でも女性の平均年齢が低く、特に韓国の女性(13.0歳)の年齢が低くなっています。逆に、年齢が高いのは中国の男性(18.5歳)と台湾の男性(16.3歳)です(図表2-5-4)。

図表2-5-4 「従軍慰安婦」問題を知った年齢

〔「従軍慰安婦」問題を知っている・聞いたことがある人/全体、出身国(地域)別、性別、性・出身国(地域)別〕



(3) 「従軍慰安婦」問題を知ったきっかけ(問35)

「学校の授業で」、「テレビや新聞をみて」知った人が4割ずつ。
 韓国や台湾は「学校の授業で」、「テレビや新聞をみて」の両方が多い。
 日本は「学校の授業で」が多く、中国は「テレビや新聞をみて」が多い。

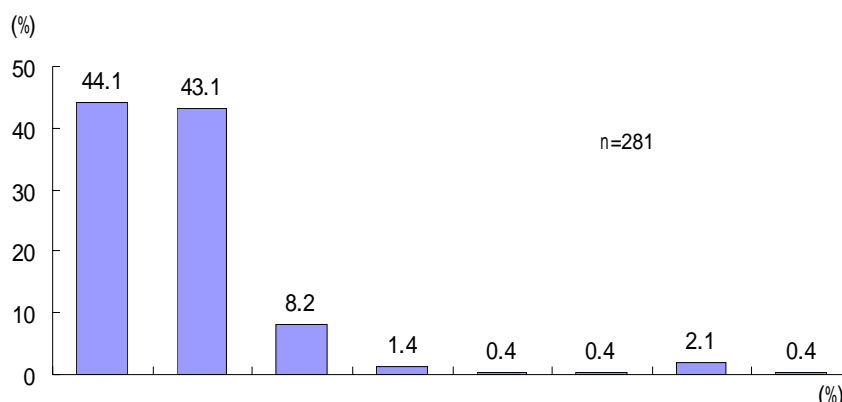
「従軍慰安婦」問題を「知っている」、「聞いたことがある」という人に対し、どのようなきっかけで知ったのかをたずねました。

全体結果では、「学校の授業で(44.1%)」と「テレビや新聞をみて(43.1%)」の回答が4割ずつで多くなっています。

出身国(地域)別にみると、韓国や台湾は全体結果同様、「学校の授業で(韓国:49.1%、台湾41.9%)」と「テレビや新聞をみて(韓国41.8%、台湾50.0%)」の両方が多くなっています。しかし日本では「学校の授業で(56.6%)」が多いものの、「テレビや新聞をみて(26.5%)」が少なく、中国では「テレビや新聞をみて(72.5%)」が多く、「学校の授業で(13.7%)」が少なくなっています(図表2-5-5)。

図表2-5-5 「従軍慰安婦」問題を知ったきっかけ

〔「従軍慰安婦」問題を知っている・聞いたことがある人/全体、出身国(地域)別〕



		学校の授業で	テレビや新聞をみて	雑誌や書籍	家族や友人から	インターネットで	座などで地域のイベント・講	その他	無回答	
全 体		n=281	44.1	43.1	8.2	1.4	0.4	0.4	2.1	0.4
出身国(地域)別	韓 国	n=55	49.1	41.8	7.3	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0
	台 湾	n=62	41.9	50.0	4.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	中 国	n=51	13.7	72.5	9.8	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
	日 本	n=113	56.6	26.5	9.7	1.8	0.0	0.9	3.5	0.9

6 女性の人権に関する現状と改善策のあり方

(1) 自国(地域)における女性の地位(問36)

『学校教育』や『家庭生活』では女性の地位が十分向上したと感じる人が多い。韓国は男性と比べ女性の評価が低い。台湾は『家庭生活』評価で男女差が大きい。中国は男女とも向上したという評価が高い。

留学生に対し、自分の国(地域)では、この5年間で、『家庭生活』、『職場』、『学校教育』、『法律・社会制度』の4つの領域における女性の地位は向上したと思うかどうかをたずねました。

全体結果では、『学校教育』や『家庭生活』では「女性の地位が十分に向上した(学校教育43.7%、家庭生活30.5%)」という回答が多くなっています。2領域については、「女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある」の割合が半数を超えています(図表2-6-1-)。

ここで、性・出身国(地域)別に、各領域における女性の地位向上に対する考え方をみることにします(図表2-6-1- ~)。

【韓国】

どの領域でも男女の回答に開きが大きく、男性よりも女性の方が低い評価をする傾向にあります。また女性は、『職場』では41.2%、『法律・社会制度』では35.3%が「女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある」と回答しています。

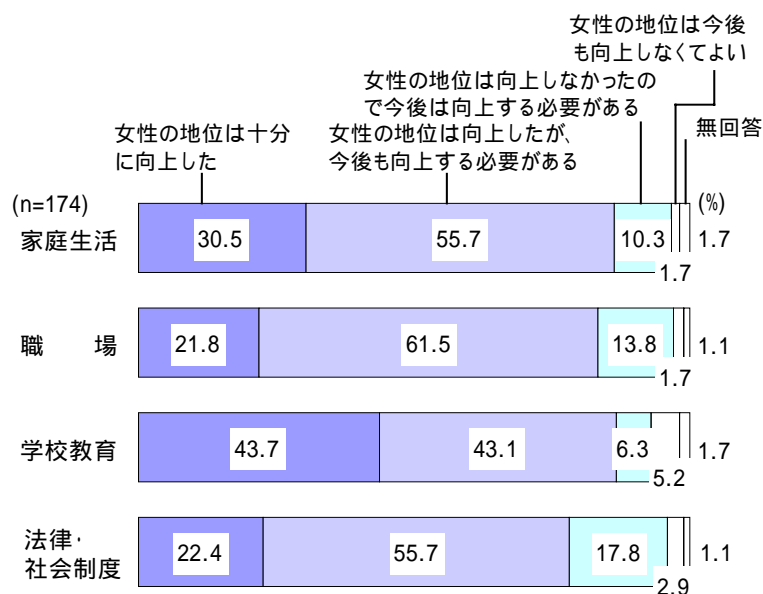
【台湾】

『学校教育』の回答は男女同じ傾向ですが、『家庭生活』で「女性の地位は十分に向上した」という回答は男性が40.0%、女性が8.1%と違っていています。『家庭生活』以外の領域では、男女差は余り大きくありません。男女とも『職場』では6割以上、『法律・社会制度』では5割以上が「今後は向上する必要がある」と感じています。

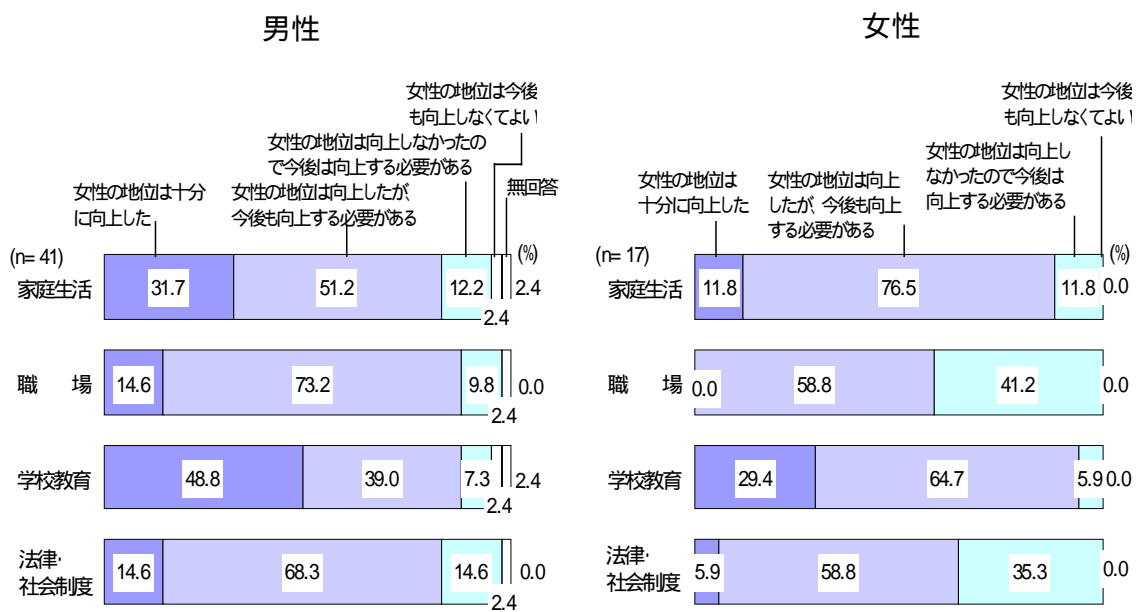
【中国】

男女差が少なく、男女ともどの領域でも3割以上が「女性の地位は十分に向上した」と感じています。特に『家庭生活』での男性の回答は53.8%に上っています。4領域中では『法律・社会制度』の評価が比較的低くなっています。

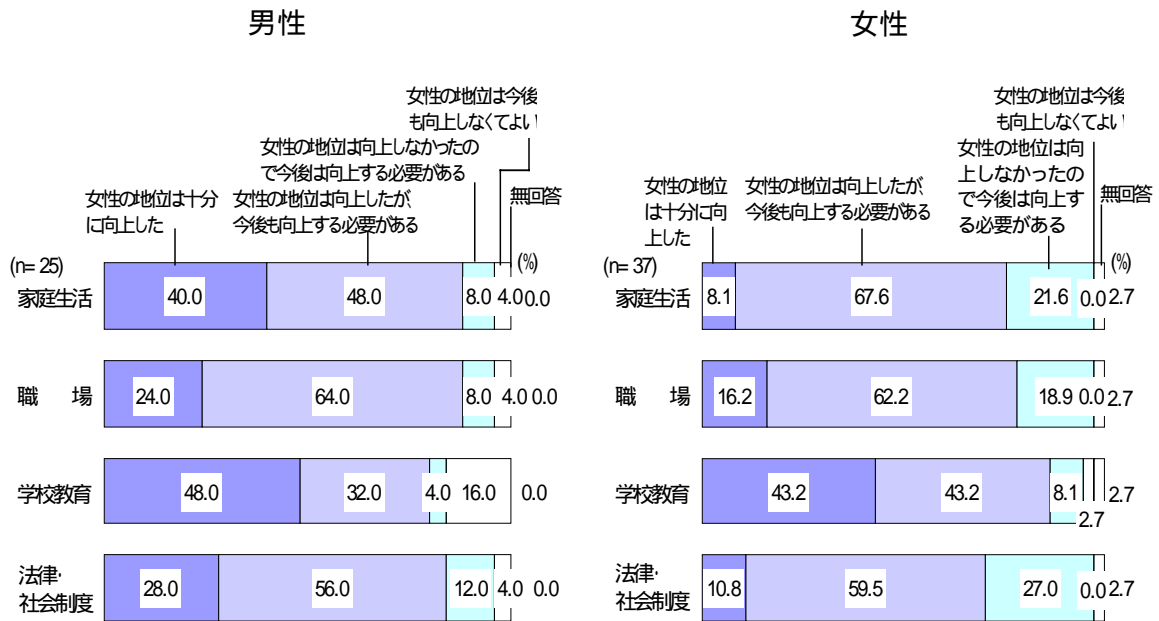
図表2-6-1- 自国(地域)における女性の地位〔4領域、全体〕



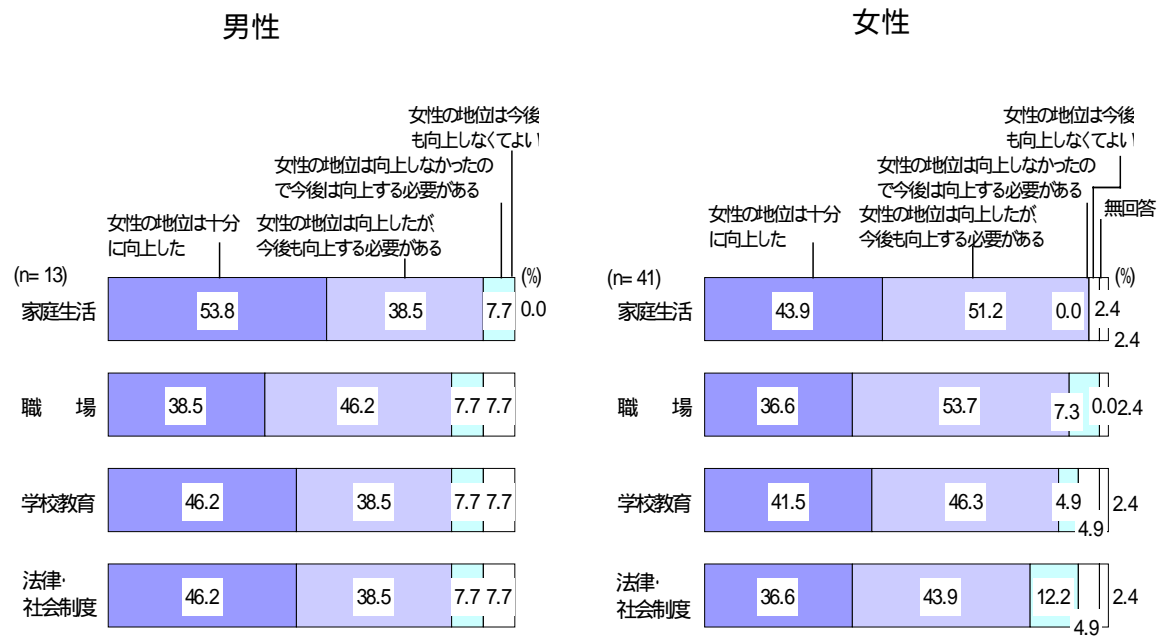
図表2-6-1- 韓国における女性の地位〔4領域、性別〕



図表 2 - 6 - 1 - 台湾における女性の地位〔4領域、性別〕



図表 2 - 6 - 1 - 中国における女性の地位〔4領域、性別〕



(2) 日本における女性の地位 (問 37)

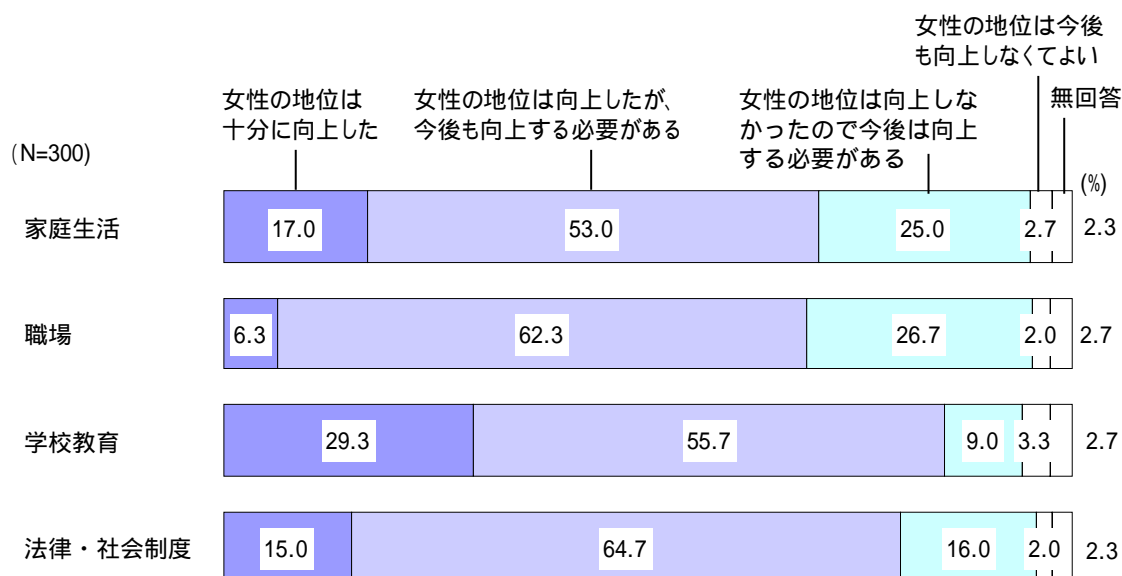
どの領域でも過半数が「女性の地位は向上したがまだ向上する必要がある」と回答。日本における女性の地位評価は、日本人学生よりも留学生の方が厳しい。

日本において、個人差がありますが約5年間で、『家庭生活』、『職場』、『学校教育』、『法律・社会制度』の4つの領域における女性の地位は向上したと思うかを全員にたずねました。

全体結果では、どの領域も過半数が「女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある」と回答しており、その割合は、『法律・社会制度』では64.7%、『職場』では62.3%にのぼっています(図表2-6-2-)。

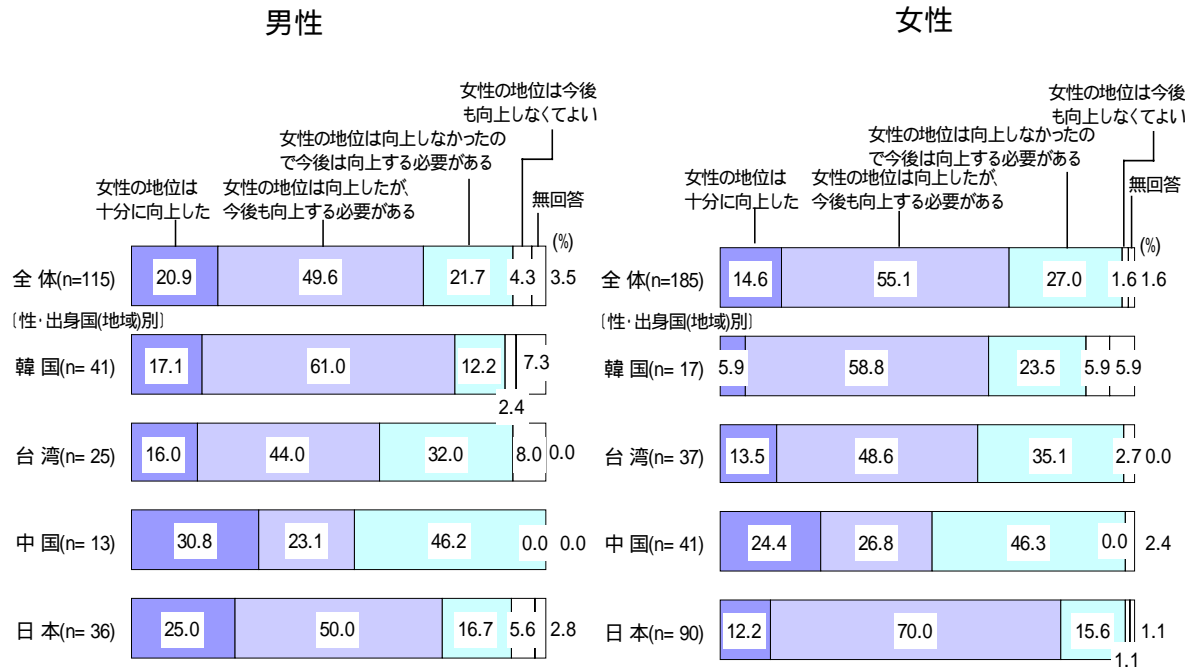
出身国(地域)別に、まずは、日本人学生の回答をみると、女性はどの領域でも「十分に向上した」とする人が少なく、特に『法律や社会制度』、『職場』など、「女性の地位は向上したが今後も向上する必要がある」という回答に集中しています。男性は『学校教育』では3割以上が「女性の地位は十分に向上した」と回答しています。つぎに、留学生の回答に目を向けると、『家庭生活』や『職場』において、男女とも、中国の4~5割、台湾の3~4割が「女性の地位が向上しなかったので向上する必要がある」と回答し、日本人の学生の認識とは大きく異なり、厳しい評価をしています。『法律・社会制度』については、韓国、台湾、中国の回答は日本人学生と同様であり、「女性の地位は向上しなかったので向上する必要がある」という認識と近いものとなっています(図表2-6-2-)。

図表2-6-2- 日本における女性の地位〔4領域、全体〕

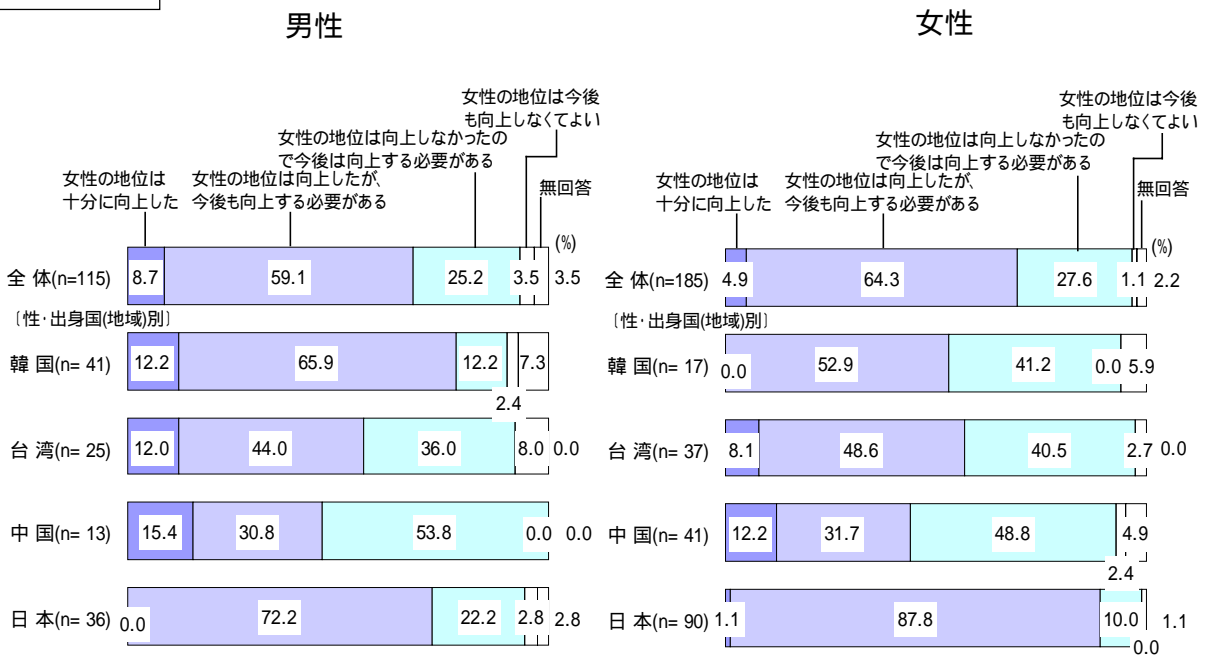


図表 2 - 6 - 2 - 日本における女性の地位
〔4領域、性別、性・出身国(地域)別〕

家庭生活

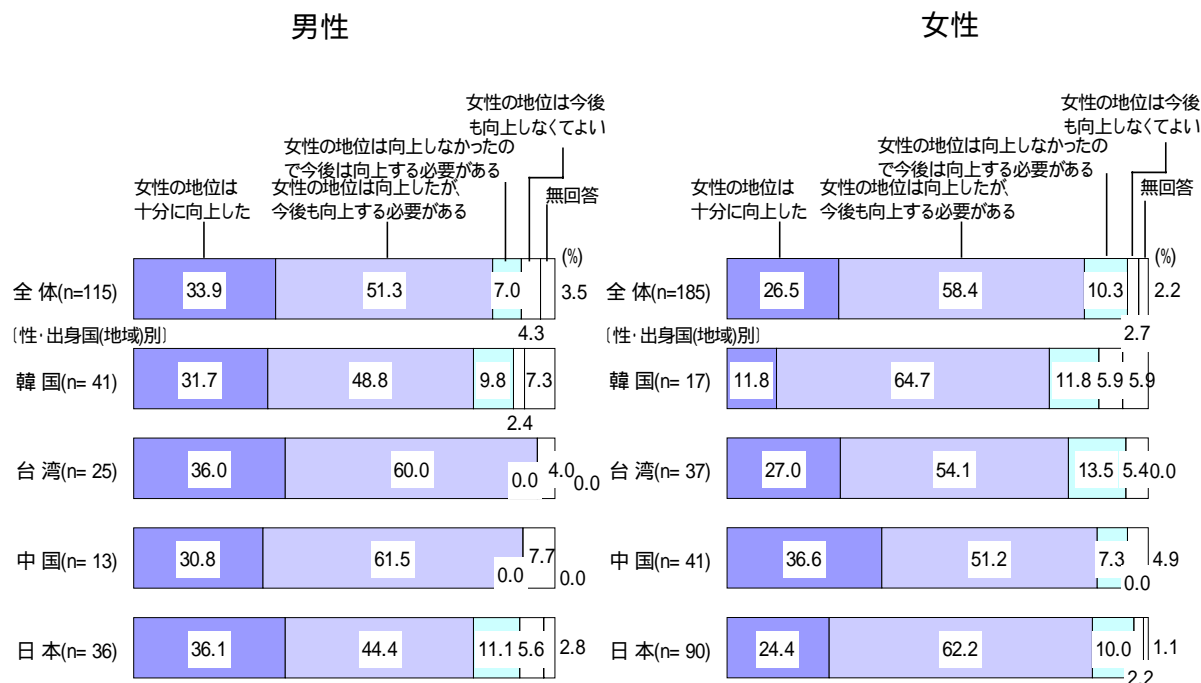


職場

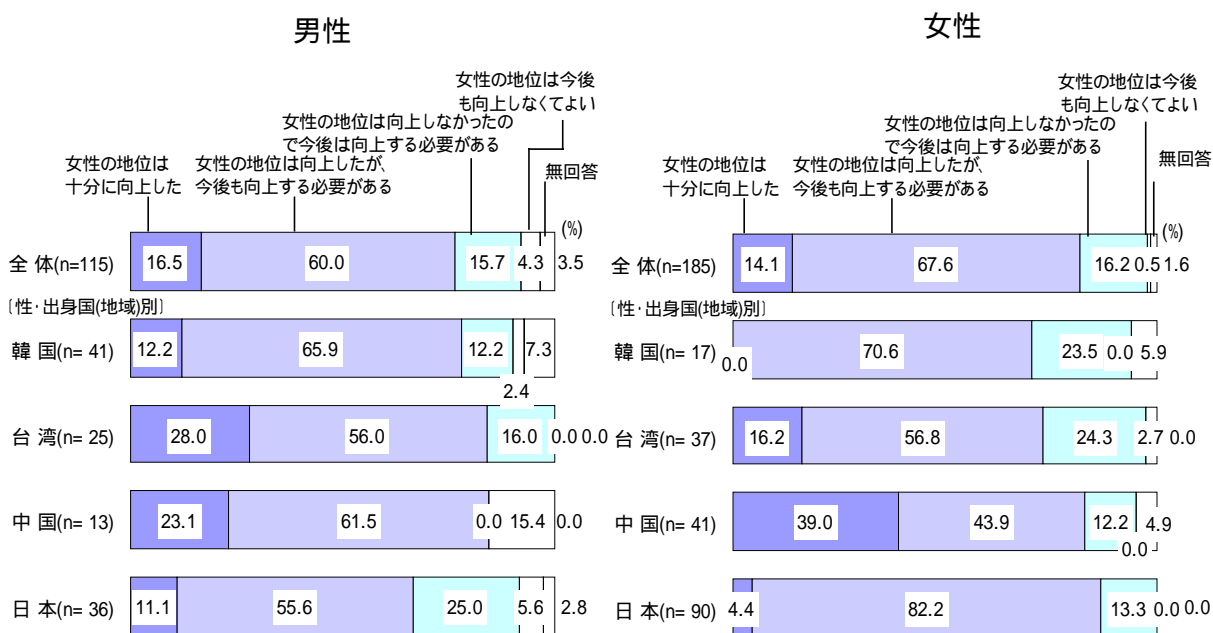


図表2-6-2 - 日本における女性の地位
〔4領域、性別、性・出身国(地域)別〕

学校教育



法律・社会制度



ここで、留学生の自国（地域）での女性の地位評価（自国評価）と、日本での女性の地位評価（日本評価）の比較を通し、留学生からみた日本社会における女性の現状を分析することとします（図表 2 - 6 - 3 - ）。

【家庭生活】

『家庭生活』について、中国の留学生は、自国では「女性の地位は十分に向上した」という人が4割以上おり、「女性の地位は向上しなかったので今後は向上する必要がある」という人はほとんどいません。しかし、日本に対しては「女性の地位は十分に向上した」という人は2割にとどまり、「向上しなかった」は4割以上となり、厳しい評価をしています。台湾も中国同様の傾向が見られます。

【職場】

『家庭生活』同様、中国の留学生は5割、台湾の留学生は4割近くが日本の女性の地位は「向上しなかった」と回答しています。日本人大学生は、中国、台湾の留学生とは認識が異なり、ほとんどの人が「女性の地位は向上したが今後も向上する必要がある」と回答しています。

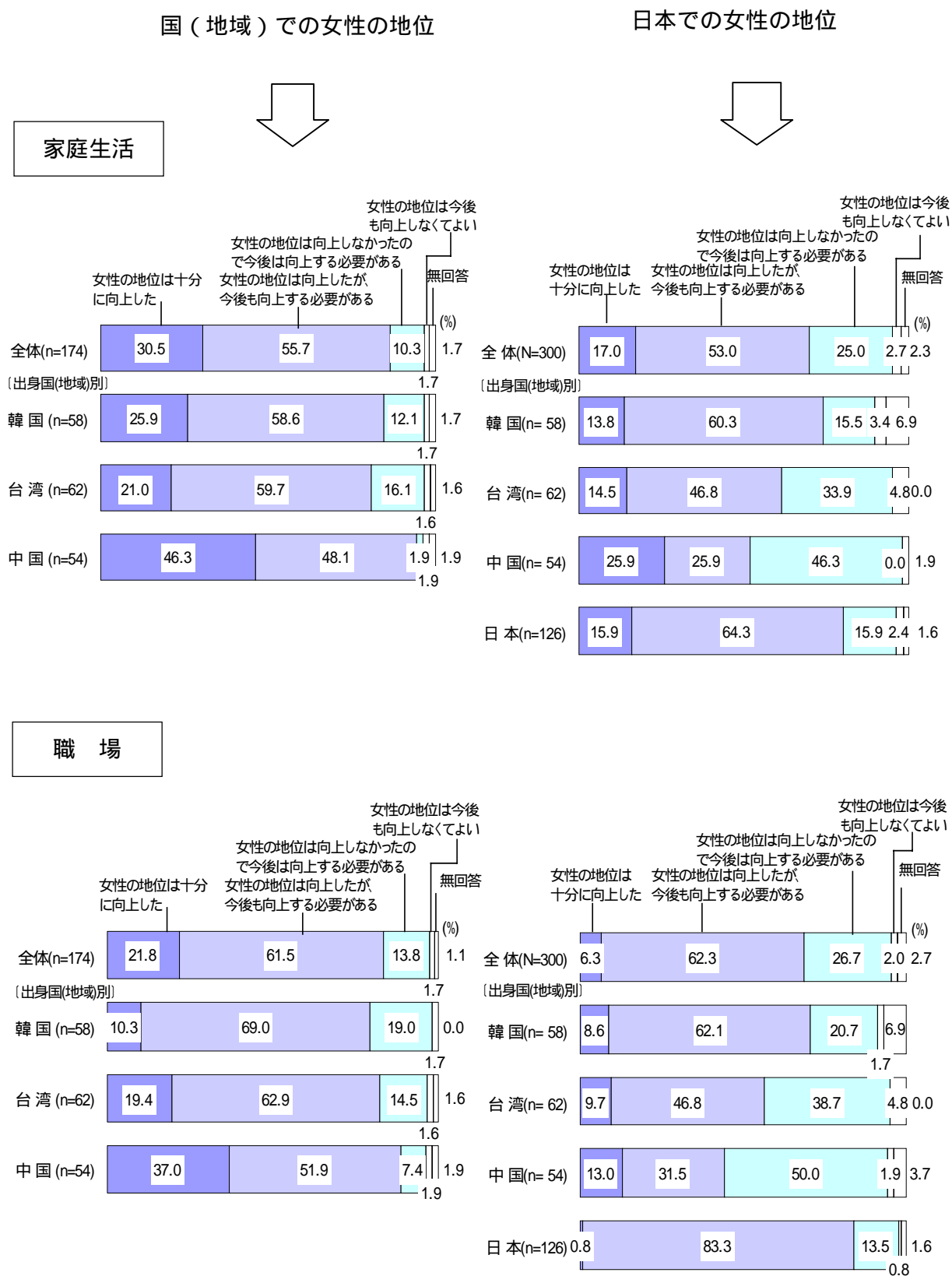
【学校教育】

どの国（地域）も4割が「女性の地位は十分に向上した」とし、韓国、中国では「女性の地位は向上したが今後も向上する必要がある」という回答と、意見が2分しています。日本に対しては、「女性の地位は向上したが今後も向上する必要がある」が5割台であり、日本人大学生の回答傾向とも似ており、感じ方は近いものとなっています。

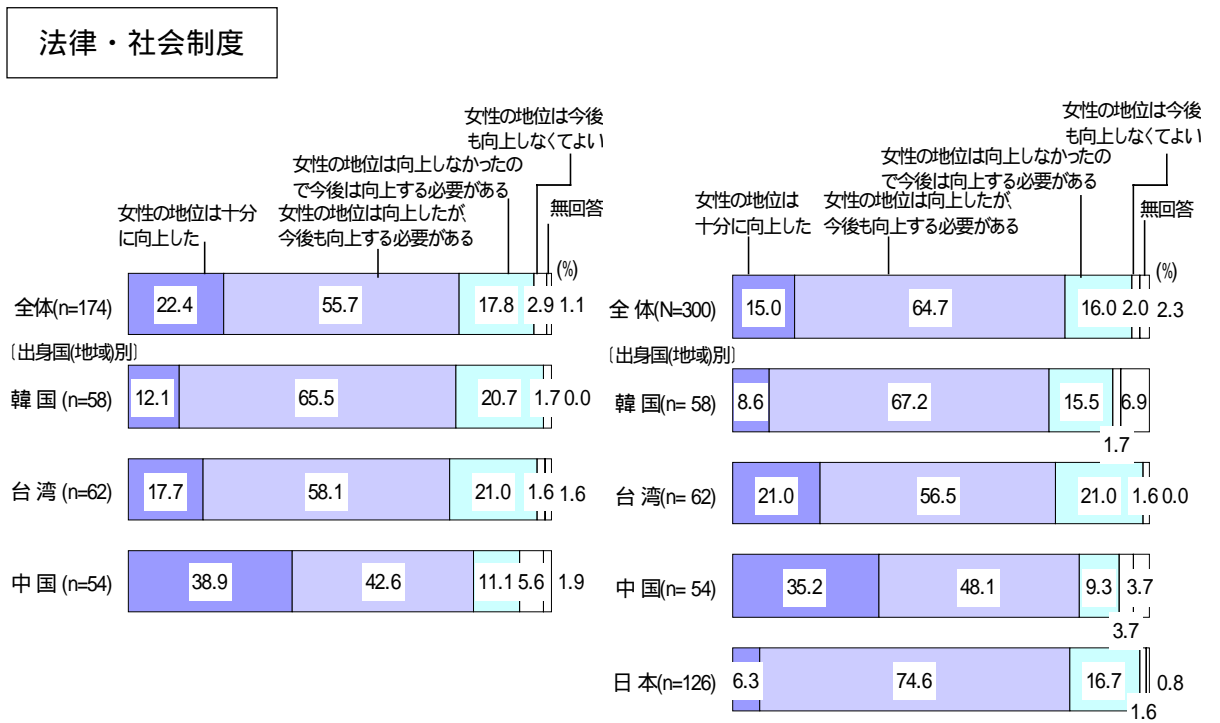
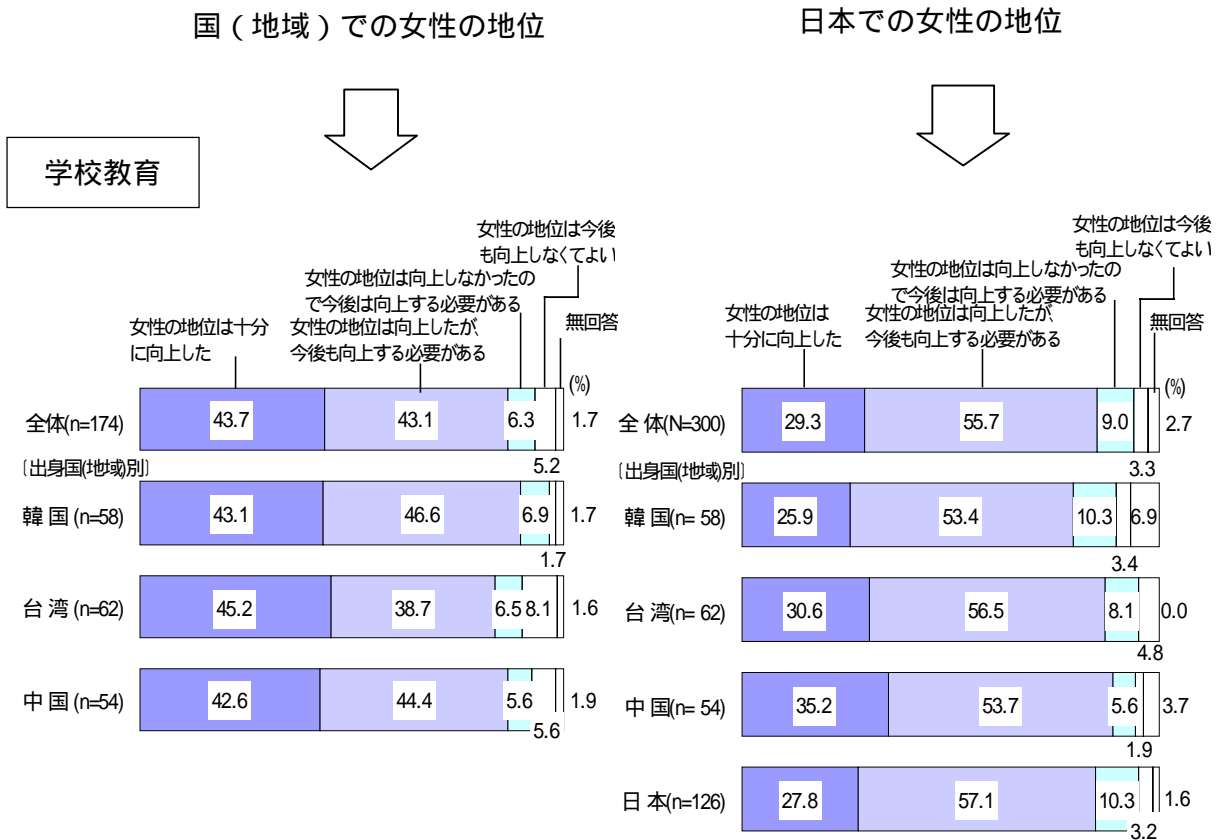
【法律・社会制度】

中国は自国においても「女性の地位は十分向上した」と回答する人が多いですが、日本においても「女性の地位は十分向上した」とする人が多くなっています。韓国、台湾の学生は自国の評価と日本の評価に大きな違いはありません。日本人大学生もそれらと同様の傾向となっています。

図表2-6-3- 女性の地位〔4領域、自国評価・日本評価/全体、出身国(地域)別〕



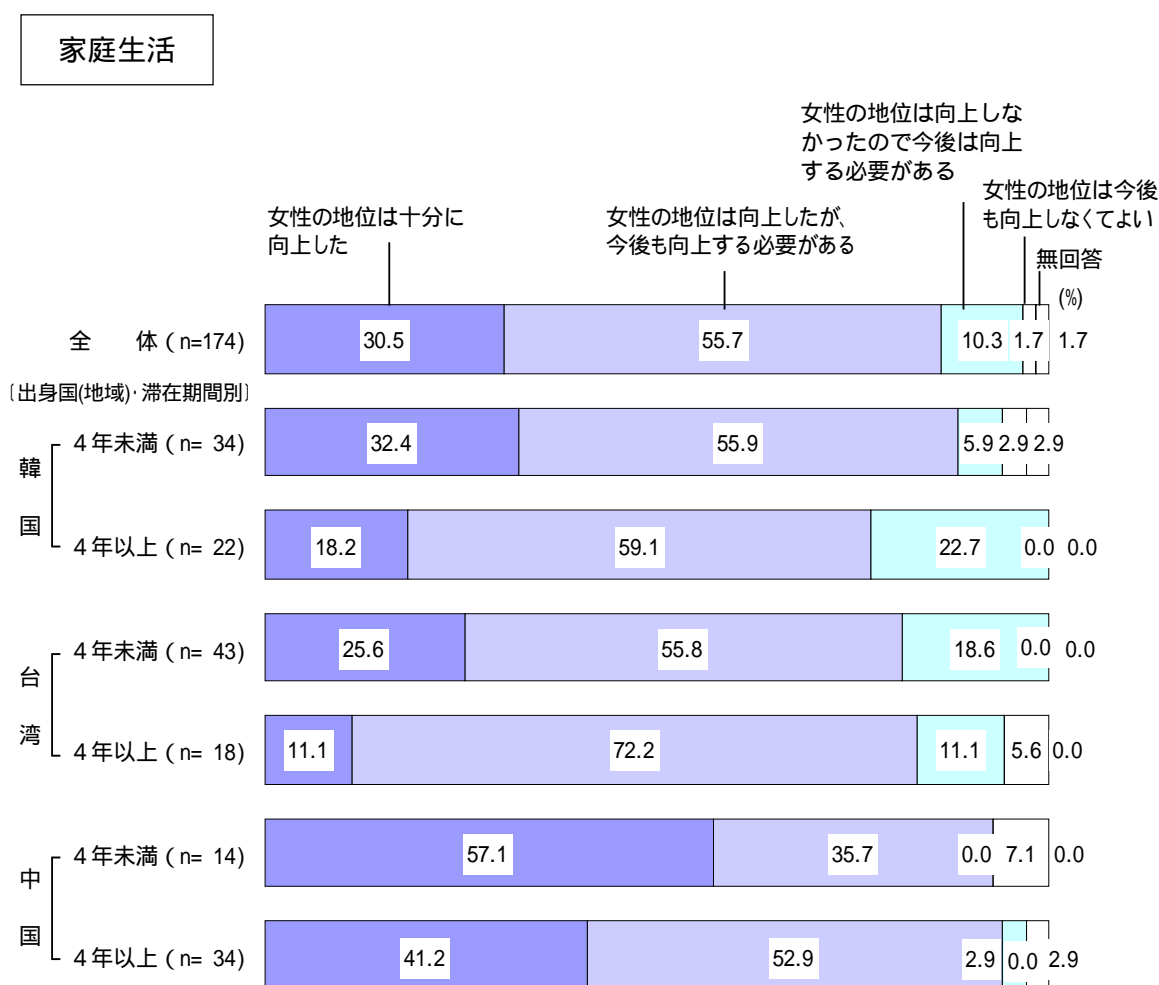
図表 2 - 6 - 3 - 女性の地位〔4領域、自国評価・日本評価／全体、出身国(地域)別〕



「日本での女性の地位の向上」の感じ方は、日本の滞在期間が長い留学生（4年以上）と短い留学生（4年未満）ではどのように異なるか、『家庭生活』について、分析しました。

韓国では滞在期間が短い留学生は「女性の地位は十分に向上した」と回答していますが、長い留学生はその割合が低くなり、「女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある」の割合が高くなっています。また、台湾、中国でも、短い留学生は「女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある」の割合が高いですが、長い留学生では「女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある」の割合が高くなり、滞在期間が長くなると評価が厳しいものとなっています（図表2-6-3-）。

図表2-6-3- 滞在期間別にみた日本での女性の地位
〔全体、出身国(地域)・滞在期間別〕



(3) 女性の地位が向上しない理由 (問 38)

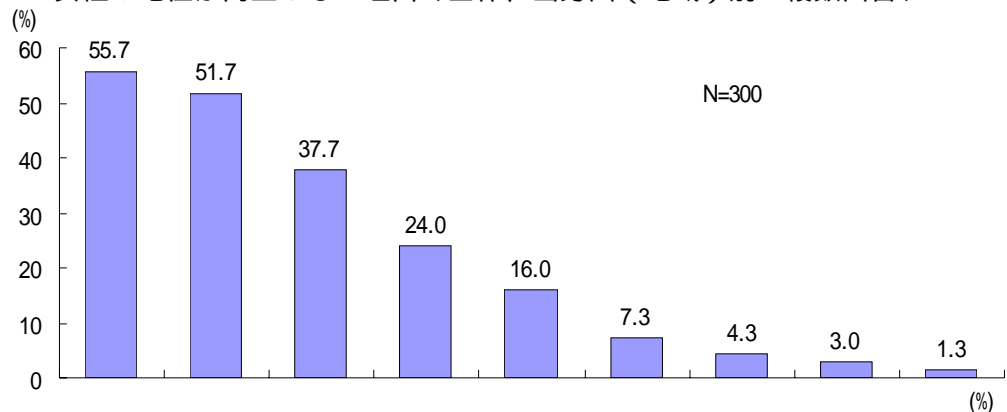
女性の地位が向上しないのは「男性が主で女性が従という意識が変わらないこと」と「家事、子育て・介護などの女性の負担が大きいこと」。

女性の地位が向上しない理由についてたずねました。

全体結果では、「男性が主で女性が従という意識が変わらないこと(55.7%)」と「家事、子育て・介護などの女性の負担が大きいこと(51.7%)」の2項目が半数を超える結果となっています。次いで「法制度など社会のしくみが女性の自立を阻んでいること(37.7%)」が続いています。

出身国(地域)別にみて、どの国も全体結果と同様の傾向ですが、日本では比較的一人あたりの回答数が多かったため、上位2位の項目を始めとする回答の割合が、全体と比較して高くなっています。その他韓国では、2位の「法制度など社会のしくみが女性の自立を阻んでいること」への回答が多くなっています(図表2-6-4)。

図表2-6-4 女性の地位が向上しない理由〔全体、出身国(地域)別/複数回答〕



		男性が主で女性が従という意識が変わらないこと	家事、子育て・介護などの女性の負担が大きいこと	法制度など社会のしくみが女性の自立を阻んでいること	場が少ないこと、女性が発言したり意見を言う	権を侵害する問題が多いこと、女性に対する暴力など女性の人	でないこと、女性に対する教育の機会が十分	その他	わからない	無回答
全	体 N=300	55.7	51.7	37.7	24.0	16.0	7.3	4.3	3.0	1.3
出身国(地域)別	韓国 n=58	48.3	41.4	43.1	22.4	12.1	6.9	1.7	6.9	0.0
	台湾 n=62	56.5	45.2	30.6	24.2	12.9	4.8	0.0	6.5	1.6
	中国 n=54	51.9	46.3	31.5	16.7	11.1	9.3	0.0	1.9	3.7
	日本 n=126	60.3	61.9	41.3	27.8	21.4	7.9	9.5	0.0	0.8

(4) 男女の関係が最も理想的だと思う国とその理由(問39・40)

アメリカ、中国、スウェーデンが上位。
中国は「中国」、韓国と台湾は「アメリカ」、日本は回答が分散している。

男女の関係が最も理想的だと思う国がどこかをたずねました。(自由記入)

全体結果をみると、「アメリカ(24.3%)」、「中国(9.3%)」、「スウェーデン(6.3%)」の順で記入がありました。「日本(4.3%)」、「台湾(2.7%)」、「韓国(0.7%)」はいずれも5%未満です。

出身国(地域)別にみると、中国は圧倒的に「中国(44.4%)」と回答している人が多くなっています。韓国と台湾は「アメリカ(韓国31.0%、台湾35.5%)」が最も多くなっています。日本は無回答が多く(44.4%)、回答が分散し、最も多い「アメリカ」も19.8%となっています(図表2-6-5-~)。

図表2-6-5- 理想とする国〔全体/自由回答〕

		アメリカ	中国	スウェーデン	日本	イギリス	フランス	台湾	イタリア	オーストラリア	フィンランド	オランダ
全 体	N=300	24.3	9.3	6.3	4.3	3.7	3.3	2.7	1.0	1.0	1.0	0.7

カナダ	韓国	デンマーク	ニュージーランド	スイス	ツバル	ドイツ	ノルウェー	欧米	ヨーロッパ	無回答
0.7	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.7	1.7	36.0

図表2-6-5- 理想とする国〔上位4位/全体、出身国(地域)別/自由回答〕

		1 位	2 位	3 位	4 位	無回答
全 体	N=300	アメリカ 24.3	中国 9.3	スウェーデン 6.3	日本 4.3	36.0
出身国(地域)別	韓国 n=58	アメリカ 31.0	スウェーデン 6.9	中国 5.2	イギリス 3.4	36.2
	台湾 n=62	アメリカ 35.5	台湾 11.3	イギリス 6.5	スウェーデン 4.8	25.8
	中国 n=54	中国 44.4	アメリカ 14.8	フランス 5.6	イギリス 3.7	27.8
	日本 n=126	アメリカ 19.8	スウェーデン 9.5	日本 7.9	フランス 3.2	44.4

理想とした理由についてたずねたところ、下記のような記入がみられました。『アメリカ』については、「男女平等」と「女性の社会的地位が高い」ことを理由とする回答が多く、次いで多い『中国』についても「男女平等」が理由に挙げられています。また『スウェーデン』については「高福祉国家であること」や「国会議員など女性の社会参画が進んでいること」が理由として挙げられています。『日本』については、自国だから、という理由が多いようです（図表2 - 6 - 6）。

図表2 - 6 - 6 理想とした理由〔全体／自由回答〕

アメリカ <ul style="list-style-type: none"> ・自由、平等 ・男女平等 ・機会平等 ・法律、制度上(地位、福祉等)の保障がある ・女性の社会的活動が顕著 ・女性の社会的地位が高い ・女性の経済的自立がある 	日本 <ul style="list-style-type: none"> ・日本以外の事情は知らない ・男女差別を経験したことがない ・女性が強くなってきている 	オランダ <ul style="list-style-type: none"> ・法整備、社会認識が充分
中国 <ul style="list-style-type: none"> ・男女平等 ・女性の(家庭内、社会的)地位が男性よりも高い ・独立後、女性解放運動を徹底して実行しているから ・自分の国だから 	イギリス <ul style="list-style-type: none"> ・平等 ・レディーファーストの国 ・女性の首相 	スイス <ul style="list-style-type: none"> ・男女に対する意識が進んでいる
スウェーデン <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉制度(男女育児休暇等)の充実 ・高福祉国家 ・家事分担の推進 ・女性国会議員が過半数 	ノルウェー <ul style="list-style-type: none"> ・HDI*2位、GEM**1位 	フランス <ul style="list-style-type: none"> ・紳士が多い ・ジェンダーに関する議論が行われている ・イメージ ・教育
	フィンランド <ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会進出度が高い 	イタリア <ul style="list-style-type: none"> ・女性が大切、尊敬されている
	デンマーク <ul style="list-style-type: none"> ・男女平等化が進んでいる 	無記入 <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の男女関係をよく知らない ・理想的な国などない ・考えたことがない
	韓国 <ul style="list-style-type: none"> ・役割区別が明確 ・自分の国だから 	
	台湾 <ul style="list-style-type: none"> ・男女平等 ・自分の国だから 	

* HDI (人間開発指数: Human Development Index)

基本的な人間の能力が平均どこまで伸びたかを測るもので、その基礎となる「長寿を全うできる健康な生活」、「知識」及び「人並みの生活水準」の3つの側面の達成度の複合指数である。

** GEM (ジェンダー・エンパワーメント指数: Gender Empowerment Measure)

(5) 女性の人権や女性の地位向上のために必要なこと(問41)

「男女の役割分担の見直し」、「育児・介護の休業制度や社会サービスの充実」が上位。韓国、台湾は「人権」、中国は「教育」を挙げる人が多い。

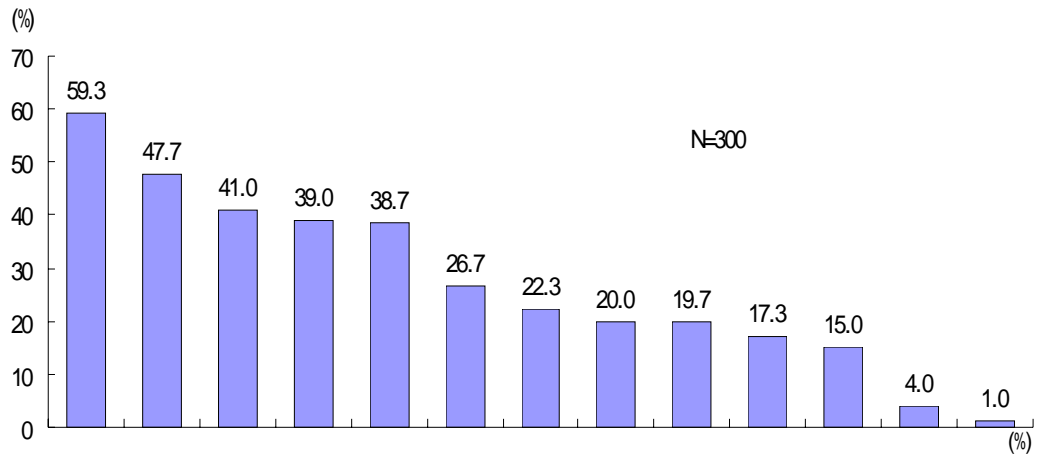
女性の人権や女性の地位向上のために必要なことをたずねました。

全体結果では、「家事や育児・介護などの男女の役割分担を見直す(59.3%)」が過半数を超え、「育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる(47.7%)」がそれに続くなど、育児・介護に関する支援策が上位となっています。次に、「女性が抱える問題について、社会の啓発を進める(41.0%)」や「人権に関する教育を充実させる(39.0%)」など、啓発や教育に関する支援策や、「女性の大任や管理職、女性リーダーを増やす(38.7%)」などの人材に関する支援策なども多く挙げられています。

出身国(地域)別にみると、大きな違いが見られます。中国は「女性の教育や学習の機会を広げる(46.3%)」が群を抜き、教育の必要性を第一に掲げています。台湾は「女性が抱える問題について、社会の啓発を進める(51.6%)」、「男女の役割分担を見直す」と「人権に関する教育を充実させる」が同率で50.0%、韓国は「男女の役割分担を見直す(55.2%)」と「人権に関する教育を充実させる(44.8%)」がそれぞれ上位2位です。日本では全体結果上位2位の育児・介護支援策を挙げる人が多くなっています。また、全体としては少ない割合ですが、韓国と日本で「アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす(韓国25.9%、日本26.2%)」という回答が多くなっています(図表2-6-7)。

性・出身国(地域)別に、上位の項目をみると、韓国と日本の女性は「女性の大任や管理職、女性リーダーを増やす(韓国70.6%、日本63.3%)」が、自国の男性や他国(地域)学生の回答と比較しても群を抜いて多くなっており、特に重要だとしています(図表2-6-8)。

図表 2 - 6 - 7 女性の人権や地位向上のために必要なこと
〔全体、出身国（地域）別 / 複数回答〕



		家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す	育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める	人権に関する教育を充実させる	リーダーを増やす	各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる	女性の教育や学習の機会を広げる	正しく学ぶ機会を増やす	女性支援をする	グループや団体の支援をする	農村での女性の経済的な自立を進める	その他	無回答
全体 N=300		59.3	47.7	41.0	39.0	38.7	26.7	22.3	20.0	19.7	17.3	15.0	4.0	1.0
出身国（地域）別	韓国 n=58	55.2	36.2	39.7	44.8	34.5	29.3	15.5	25.9	12.1	13.8	15.5	6.9	0.0
	台湾 n=62	50.0	35.5	51.6	50.0	21.0	29.0	27.4	17.7	22.6	24.2	19.4	1.6	0.0
	中国 n=54	50.0	42.6	16.7	35.2	27.8	22.2	46.3	1.9	22.2	11.1	7.4	1.9	1.9
	日本 n=126	69.8	61.1	46.8	32.5	54.0	26.2	12.7	26.2	20.6	18.3	15.9	4.8	1.6

図表2 - 6 - 8 女性の人権や地位向上のために必要なこと

〔上位6位 / 性・出身国(地域)別 / 複数回答〕

	韓 国		台 湾		中 国		日 本	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
	(n=41)	(n=17)	(n=25)	(n=37)	(n=13)	(n=41)	(n=36)	(n=90)
1 位	家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 46.3	家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 76.5	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 60.0	人権に関する教育を充実させる / 51.4 家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 51.4	家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 46.2	女性の教育や学習の機会を広げる / 51.2 家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 51.2	家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 61.1	家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 73.3
2 位	人権に関する教育を充実させる / 34.1 女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 34.1	人権に関する教育を充実させる / 70.6 女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 70.6	女性の教育や学習の機会を広げる / 48.0 人権に関する教育を充実させる / 48.0 家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す / 48.0	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 45.9	女性の教育や学習の機会を広げる / 30.8 育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 30.8		育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 50.0	育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 65.6
3 位						育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 46.3	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 44.4	女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 63.3
4 位	育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 31.7	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 52.9		育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 32.4	人権に関する教育を充実させる / 23.1 女性大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 23.1 女性起業を助けるための支援をする / 23.1	人権に関する教育を充実させる / 39.0	人権に関する教育を充実させる / 30.6 女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 30.6 各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる / 30.6	女性が抱える問題について、社会の啓発を進める / 47.8
5 位	各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる / 29.3	育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 47.1	育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる / 40.0	各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる / 27.0		女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 29.3		人権に関する教育を充実させる / 33.3
6 位	女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 19.5 アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす / 19.5	アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす / 41.2	各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる / 32.0	女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす / 21.6 女性の地位向上に取り組むグループや団体の支援をする / 21.6		各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる / 24.4		アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす / 27.8

7 自由回答

問 42 では、女性の人権や女性の地位向上について日ごろ考えていることについて、自由に書いていただきました。韓国 37 人、台湾 26 人、中国 10 人、日本 93 人と総数は 166 人にのぼりました。寄せられた回答は、国（地域）別、内容別に整理すると、以下の通りです。

< 韓 国 >

男女平等について日頃から考えていること

- ・ 仕事になると、責任が重く、会社の生死が左右するプロジェクトが女性に任せられることは少ない。日頃、男女平等を言うが、重要な問題になると男性をリーダーにする。同様のケースが、映画の世界においても激しい。女はシナリオ・衣装。男は撮影・監督等が多い。珍しく女性監督がいても、その映画は非常に「女らしく」作られている。誰かがそのように作らせているようだ。そして、映画は「女の視線」で描かれていると言われる。男性監督の作品を見て、「男の視線で描かれた」とか、「男の感性が良く見られる」とかの表現をよく使うかどうかを考えればすぐわかる。(女性、20 歳)
- ・ 「女性らしさ」「男性らしさ」という概念や言葉自体に反対している訳ではない。しかし、それだけを主張して、強制することはいけない。互いに人間として尊敬し合いながら、理解し合いながら実現していくことがもっとも大切である。(女性、22 歳)
- ・ 社会的・文化的性差別(ジェンダー)の問題がある。女性であるということによって受けるジェンダー問題を解決するのは大変難しい。何よりもまず人権に関する教育等によって社会の啓発を進めることが切実な問題である。(女性、26 歳)
- ・ 男女同じく 4 年・2 年間大学で勉強した後に入社しても、男はコーヒーを入れたりはない。女性がコーヒーを入れるのは人力の無駄遣いだと思っていた男性がいて、コーヒーだけでなく、色々なことを自分でやっていたら、女性は「変な人」と捉えていたという話がある。女性が地位向上を目指すのならば、女性自身がそれを求めなくてはならないと思う。地位向上は誰かが守ってくれるのではなく、奪い取るものだと思います。そうなるためには、全般的な意識改革が必要だと思います。(男性、27 歳)
- ・ 今まで男性中心の社会であったと言われている。こういった意味では女性の人権等の地位向上を進めるべきであることは当然かも知れない。しかし、これからは男女に分けてではなく、同じ人間として見る目が必要である。そうすると、男女差別問題がジェンダー問題で悩まずに暮らせる。(男性、29 歳)
- ・ 女性がジェンダーの概念上・SEX の概念上でも男性と同等な人格体としての identity を確立するために、国家・社会は制度的後押しをすることが必要である。加えて、女性自らもそれを促す努力を伴うべきである。(男性、31 歳)
- ・ 歴史の問題が大きいと思う。(男性中心の)歴史は日本・韓国・中国共に同じだと思う。歴史から見直さなくてはならない。また、社会的問題も挙げることができる。公開議論が必須である。(女性、24 歳)

女性の人権・地位向上のための具体的な方法

(イ)意識改革

- ・ 女性の人権を守っていこうとする働きは女性だけが行うのではなく、男性からもっと積極的に行わなければならない。お互いを愛するべき存在だから、そうすると女性は本性的に男性をもっと守ろうとするのでお互い均衡が取れるはずである。(女性、26歳)
- ・ 教育の機会が広がって女性の地位向上は20~30年前に比べて高くなったと思う。しかし、女性に対する社会的役割は前と変わっていないのも事実である。女性と男性の社会的役割の意識を変えるのに一番重要なことは女性の意識を変えることである。(女性、29歳)
- ・ 社会制度や法律の面では、女性の地位は進んでいると思いますが、社会の目に見えない意識の部分で問題があると思う。まずは、女性自身から意識の変化が先行しなければならない。また、女性の社会進出が活発になるにつれて、離婚率の増加や少子化の問題も生じます。どちらが全体にとって良いのか真剣に考えなければなりません。(男性、29歳)
- ・ 男子の思考をチェンジするプログラムが必要である。(男性、29歳)
- ・ 社会において差別的な制度を無くすための努力と男性の考え方を变えることも社会的に実行していく必要がある。(男性、32歳)

(ロ)女性の「性」の商品化を見直し

- ・ 女性の人権や地位向上のために、女性の「性」を商品化するビジネスをなくすことが必要だと思う。商品化された女性の「性」を買う(使う)男性(男性みんながそうだと思わないが)にとっては、単なる商品としての女性というイメージがそこから生まれ、すべての女性に対するイメージもそうになってしまう恐れがあると思う。21世紀に入ってドンドン女性の「性」を商品化するビジネスが増えつつあることは心配である。(男性、26歳)
- ・ 女性自身、女性であることに甘えている面がある。男性は女性を性的対象として見下している傾向がある。マスコミに出ている男女の視角を是正すべきである。(女性、22歳)
- ・ 女性の「性」を商品化するものを無くすべきである。(女性、24歳)

(ハ)女性自身の自立及び努力を求める声

- ・ 女性自身が自立性や独立性を持つこと。(男性、28歳)
- ・ 女性の人権や地位を向上するためには、女性自らが必要性を感じて行動すれば、可能になると思う。(男性、29歳)
- ・ 最も重要なことは女性自身が頑張ることである。(男性、29歳)
- ・ 女性自身の「意志」が大切。(男性、36歳)
- ・ 女性達の能力を向上させる必要がある。(男性、26歳)

(ニ)男女の役割分担の解消

- ・ 家事等の男女の役割分担を見直す。(男性、25歳)
- ・ 男女の役割を区別して向上を図るべきである。(男性、29歳)

(ホ)社会制度の拡充・法律の整備

- ・ 女性の人権に関して、男女両方において教育する必要があるということはアピールされている。しかし、教育の次元に留まらず、現実問題の改善なしには女性の地位向上はない。従来、女性の役割とされていた家事・育児・介護の負担から、女性自身が解放されずして、

社会進出への機会も少ない。女性のための社会福祉制度の拡充、社会制度の改革等、現実問題により積極的に取り組む必要がある。(女性、22歳)

- ・ 政治活動において女性の発言力が重要になるべきだと思う。職場において昇進の機会を与えるべきである。(女性、24歳)
- ・ 育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させることが重要だと思う。(男性、26歳)
- ・ 女性が会社生活出来る様に、福祉施設を増やす。女性自身の意識を変える必要がある。(男性、30歳)

(へ)社会・職場における女性への支援

- ・ 女性にとって「出産」は、かなり負担がある。そのため、社会か家庭かどちらかを選ばなければならない場合が多い。女性の社会進出とともに、子育ての問題の対策も必要であると思う。そうすれば、男女平等・女性の人権保護もできるのではないだろうか。(女性、26歳)
- ・ 恐らく、今の社会では地位を考える時には経済力に結びつくと思う。私の家では父より母の方が経済力が強かったので、他の家とは違う現象が多く見受けられた。それが男女平等だったかは判らない。女性に経済活動を自由にすることができる支援が必要。(男性、24歳)

男女平等の実現は困難である

- ・ アジアの国にはまだまだ遠い話である。(男性、20歳)
- ・ 男女は生まれる時から「平等」ではありえない。但し、社会においては「公平」に扱われるべきだと思う。男と女では役割が違っているから。(男性、20歳)
- ・ 女性の地位が何か判らない。例えば、家事や子育ては女性にとって、負担ばかりになることである。逆に男性の場合も、それをしないのは男性の特権と言われるかもしれない。(男性、31歳)

無関心

- ・ 考えたことはない。(男性、20歳)
- ・ 関心がないです。(男性、22歳)
- ・ 日頃考えたことがあまりない。(男性、22歳)
- ・ 今は学生なのでよく判りません。(男性、25歳)

女性の人権に関する意見

- ・ 強制従軍慰安婦についてですが、これは女性の人権や地位と捉えることも出来ますが、それ以上に人間に対する人権侵害と考えて欲しい。女性を強制的連行したことで、女性に対する人権侵害だと思われがちです。当時には、男性も強制的連行され労働を強いられたこともあり、日本の帝国主義者達と日本人民衆がそれを防ぐことができなかった責任があります。女性の人権は、人類に対する尊重の中で考えた方が良いと思います。強制従軍慰安婦のことを言う時にはその名称に気を付けて下さい。強制連行された女性のことを考えて下さい。(男性、26歳)

その他

- ・ 韓国の女性運動は時々過激なものがあります(インターネット等)。生物学的な男女の区別にとらわれすぎている。男根が付いていること自体に敵対意識を持つ文章も見かけます。男性一般に潜在的強姦犯みたいな取扱はやめてほしい。従軍慰安婦を例にすると、本当に女性を抑圧しているのは、権力と富を持っているような支配者ではないでしょうか。男性も女性も関係ないと思う。下層階級にもDV等の問題があるので、一概に同じ立場で言えません。しかし、もっと、階級問題として女性の人権を考えるべきです。日本の女性運動については良く知りません。とにかく、男女平等は男性にとってもとても良いことであり、それが正常なことなのでもっと頑張るべきです。(男性、31歳)

< 台 湾 >**男女平等について日頃から考えていること**

- ・ バイト先では言葉のセクハラがありました。ウェイトレス系は女性がする方が良いという雰囲気がある。このことを「女性に魅力がある」と捉えて良いのか否かに迷う。(女性、21歳)
- ・ 男女ともに男女の問題を同じ視点で考えているならば、自然に女性の人権・地位は向上します。勿論、男女の生理的な差別は消えませんが、それを踏まえて努力します。(男性、26歳)

男女平等を実現するための具体案**(イ)意識改革**

- ・ 各国の伝統文化に合わせた女性の地位向上策を進めている。男性が命じて、女性が従う意識が変わること。(女性、21歳)
- ・ 今日の女性の人権は駄目だと言っても過言ではない。改善のために、法律制度等の社会的視点からだけでなく、一般の人々も男女平等の気持ちで、社会や家庭レベルを見なければならぬ。(男性、21歳)
- ・ 女性の人権がどのようなものなのかよく判りません。地位を向上するためには、まず社会的な価値観を変えるべきである。(男性、22歳)

(ロ)女性自身の努力を求める声

- ・ 女性自身が頑張るべきである。(女性、20歳)
- ・ 女性自身の意識改革は大変重要であると思う。(女性、23歳)
- ・ 女性自身人権意識をもつことが必要であると思う。(男性、30歳)
- ・ 自分の能力を充実させて、最後まで頑張りたい。(女性、24歳)

(ハ)教育・啓発の重要性

- ・ 教育と経済能力は必要だと思う。(女性、20歳)
- ・ 教育が一番大切なことだと思う。(男性、年齢不明)
- ・ 人権についての教育が必要である。(女性、25歳)

(二)職場で昇進を促す・社会活動の支援

- ・ 職場での昇進は一つの大きな問題である。(女性、20歳)
- ・ 職場での昇進ルートをもっと確保して欲しい。(女性、30歳)
- ・ 女性の学習機会を広げる。就職機会の平等。女性のリーダーの増加。家事の平等。定年制。(女性、21歳)

男女平等の実現は困難である

- ・ どんな考えでも、状況は変わらない。だから考える必要はない。(女性、20歳)
- ・ かなり、難しい問題です。これからの10年程、なかなか向上できないと思います。(女性、20歳)

女性の人権・地位向上を期待・評価する

- ・ 女性の人権や女性の地位向上なら、良いことだと思います。(女性、20歳)
- ・ 女性の地位向上が良いと思う。(女性、21歳)
- ・ 今、女性の地位はかなり向上したけれど、今後をもっと向上して欲しい。(女性、21歳)
- ・ 女性はもっと強くなって欲しい。(女性、21歳)
- ・ 待っています。(男性、21歳)

女性の人権・地位向上を懸念する

- ・ もちろん向上すべきですが、シンガポールや香港のような国では男性の地位が低すぎる。(男性、22歳)
- ・ 仕事先で女性が優遇されている。(男性、23歳)
- ・ DVに関して身を守るとか、人権を向上する需要はありますが、男尊女卑の社会は安定しているので、あまり女性の地位向上はしない方が良い。(男性、33歳)

日本における女性の人権について

- ・ どうして日本のOL達は猫かぶりしなければならないのか？(女性、21歳)

< 中 国 >

男女平等について日頃から考えていること

- ・ 第一に男女ともに「手足がある」「働ける人間」と考える。(注：そうすることで)同様に自立出来る。(男性、44歳)

男女平等を実現するための具体案

(イ)意識改革・女性自身の努力を求める

- ・ 女性自身の努力が一番重要である。(女性、22歳)
- ・ 女性自身の努力が必要である。(男性、30歳)
- ・ 男性の意識が変わらなければならない。(男性、28歳)

(ロ) 社会における女性への支援制度の拡充

- ・ 女性は男性と同様の教育を受けること。平等な就職の機会を与えること。育児に関してやはり女性が多く従事しているので、社会は育児サービスを増やすこと。(女性、24歳)
- ・ 男女の就職が平等になるべき。(女性、26歳)
- ・ 教育を受けることが大切である。(女性、25歳)

日本における女性の人権について

- ・ 私は女ですが、日本で生まれなくて良かった。(女性、23歳)
- ・ 日本の女性の人権は大変低いです。(女性、24歳)

女性の人権・地位向上を期待・評価する

- ・ 時間が掛かるかも知れないが、頑張る必要がある。(女性、25歳)

<日 本>**男女平等について日頃から考えていること****(イ) 従来女性観・固定観念を懸念する**

- ・ 最近になって女性の人権や地位が向上してきたとはいえ、TV雑誌等で「女性初の(職業)」というのを聞くとまだまだ男性の方が上なのだと思う。女性と男性では就職率も男性の方が高い。(女性、19歳)
- ・ 会社では現在管理職に就いている人々は古い考え方の人が多いと思うから、女のくせに的なことを言われがちなのがする。その人々が定年退職した後はどうなるのかと思います。今の教育を受けた人達の時代が来たら良くなると思う。(女性、19歳)
- ・ やはり、年配の男性は(50代くらいから)考え方が古いのかわからないが、女性を下に見る傾向があると思う。(女性、19歳)
- ・ 「男女平等」と言いつつも、やはりまだまだ男性優位の考え方は残っていると思う。特に50代から60代の人。小さい頃からそのように教わってきたのを急に変えるには、それと同じくらい、またその時間より長くかかると思います。私も教育者を目指す者としてそして、一人の人間として社会を少しずつ改善できればと思います。(女性、20歳)
- ・ 昔は昔のことで学ぶことはあるが、現代社会では実力に相応しい地位を女性に与えるべきである。女性というだけで判断を行なうことは間違っているし、男性よりも能力の高い女性は全体的にいるから。(男性、21歳)
- ・ 私の中では、「女性は物心ついてから、男性の一步後ろを行く」という考え方が根付いている。しかし、男女平等の社会になれば、経済力ももっと上昇するだろうし、国のイメージも良くなると思う。女性は男性の飾り・玩具ではない。(女性、20歳)
- ・ 日本ではまだまだ女性が男性に従うという考え方があると思う。「男は仕事をし、女は家庭にいる」という固定観念をなくして女性も自由に出来る社会にしたいです。(女性、20歳)
- ・ 今日では、女性の育児休業制度等、様々な面で女性の地位は向上していると思う。しかし、

私の中にも、一般的にも、「女だから」「男だから」という考え方は根強く残っているように思う。(女性、20歳)

- ・ 現在、祖父が病気で寝たきりになっていて、母親が面倒をみている。何故当たり前の様に母が介護をしなければならないのかと疑問に思う。(女性、20歳)
- ・ 日常生活において、女性は侵害されていると思う。DVは後を絶たないし、メディアでの女性に対する発言も不適切なことが多い。CMに関して言えば、「料理＝女」の構図が見取れる。そう言ったことから変わる必要を感じる。(女性、20歳)
- ・ 何だかんだ言っても、「女性らしさ」ということ、また「男らしさ」ということは、現在も強く残っていると思う。「女性だから料理はできないとやばい」ということもあるし、また女性らしい素振りをした方が、生きていく中では得だから。そういうことが残っているうちは、「女性らしさ」という考え方は消えないと思う。(女性、20歳)

(口)男女平等を望む

- ・ 大学に入ってから、女性の人権や地位について学ぶ機会が増え、様々な問題について知りました。私の中では男>女という地位が植付けられているようです。女性の問題に取り組んでいくべきだと思う一方で、今後生きていく上で大した支障もないなら、今まで通りでも私は生きて行けるかもしれないと思ってしまいます。(女性、19歳)
- ・ 大学に来てから、ジェンダープログラムについて考えさせられる機会が増えたと思います。「～らしさ」という言葉は非難の対象にもなる時もありますが、良い意味で捉えられると感じます。(女性、19歳)
- ・ 女性は、男性のモノではなく、人間である。だから、男性の言いなりにならなくてはいけないということはないし、そのような世の中からドンドン変わっていくべきであると思う。(女性、21歳)
- ・ 大学でジェンダーや人権について学びましたが、就職活動等を通して見た社会はまだまだ女性蔑視が存在していることを感じました。(女性、21歳)
- ・ 私は無意識に考えてしまっているが、職業について「男の職業」・「女の職業」という考えは、やはり良くない。(女性、20歳)
- ・ 私は学生なのでまだ社会に出ていないため、女性の地位や人権について直接考えさせられる場面はありません。しかし、「女だから...。」とか「だから女は...。」等と言われるのは絶対に嫌です。(女性、20歳)
- ・ 法律的にも女性雇用機会均等法やセクハラ問題等、色々と改善されてきた問題が多いです。しかし、現状が充分だとは思わないし、女性が社会的により認められても良いと思う。私は社会学を学んでいるが、ジェンダー問題等の社会問題の歴史の変遷そして現状を国民の多くが理解することが先決だと思う。教育が備わることで、少しでも関心を持つ人が増えれば変わっていくだろう。また、当事者である女性自身が社会に訴え続けることが法律的改善にも繋がると思う。(男性、19歳)
- ・ ジェンダー論において、女性問題を取り上げる時は、男性の問題でもあることを忘れてはならないと思う。また、女性の地位向上において女性の経済的自立が強調されているが、「自立 - 依存」の枠組みにとらわれず、「相互依存」を基本にした自立や、男女の「連帯」

「共生」「支え合い」「相互扶助」を前提に女性の人権をとらえていきたいと考えている。

(女性 21 歳)

(ハ)意識改革が必要である

- ・ 女性差別または男性差別の問題は、意識の問題と法律や慣習の問題が大きいと思う。女性と男性はそもそも身体的にも全く違うので、その違いはお互いに理解すべきである。同性愛等の面から見ても、男であること、女であることはそれ程重要なことではない。(女性、19 歳)
- ・ 女性の人権は見直されるべきであり、地位向上を図るべきである。なぜならば、性差別は、様々な意識の違いを生むため、名案が浮かんだり、全く別の方向から物事が見えるかも知れない可能性を含んでいるから。今後、女性の社会進出が様々な場で行われることを望む。(女性、20 歳)

(ニ)女性の人権・地位向上を懸念する

- ・ 日本では女性の地位を向上させるといって頑張っている人達の中には、女性ばかりが被害にあっているという意識の人が多く感じる。確かに男女平等を考えるには、女性を保護することは重要だと思うが、常に被害者であるというのは間違いだと思う。(女性、20 歳)
- ・ 「男女平等になるべきである」というのは、簡単だが、男には男の、女には女の役割というものが生物学的に存在しているので、そういう面も考慮すべきである。(男性、20 歳)

(ホ)その他

- ・ 男性は競争心や闘争心が強いから、訳も判らない規制や差別を作って、女性の人権を侵しているところに日々怒りを感じます。そのようなものを作る男性より、それに耐えている女性の方がよっぽど素晴らしいと思われてなりません。(女性、20 歳)

男女平等を実現するための具体案

(イ)人権や男女平等に対する意識改革

- ・ 「女は男よりも弱い」という考え方に女性は甘えてはいけなしいと思います。女性の地位はだんだん向上してきているから、「私は女だからあまり働かなくても良い」とか「男性は女性を特別扱いしなくてはならない」という考え方はせずに、あくまで女性は男性と同等の存在だと考え、行動すべきだと思います。(女性、19 歳)
- ・ 現在の日本では女性の地位向上が阻止される要因はたくさんあると思う。一方で、女性自身に向上しようという意欲が欠けていると思う。もっと多くの女性が地位向上のあり方を考えなければ何も変わらないと思う。(女性、19 歳)
- ・ 男女の役割分担について意識改革をすべきだと思う。(女性、18 歳)
- ・ 最近確かに様々な所で、女性の人権という言葉が叫ばれている。もちろん、女性の地位や男性の地位の差別があることは否めないが、これから社会においては、個人が大事であるのだから、「女」の権利ではなく、「個人の権利」という考え方を持った方が賢明だと思う。「女性の人権」「男性の方が優遇されている」という見方こそ男女を別々に考えるべき。(女性、19 歳)
- ・ 女性は男性に劣るという間違った意識を改善して欲しい。(女性、20 歳)

-
- ・ 女性を差別の被害者のように扱わず、男女が対等であることが当然であるという意識をもっと自然にもってあげればよい。(女性、21歳)
 - ・ 女性も最近では出産後も働く機会が増えたと思うが、家事や子育ての負担は昔とあまり変わらないと思う。女よりも男の意識を変える教育が必要。(20歳)
 - ・ 「女性が家事をしなければならない」というような風習はなくすべきだ。(女性、20歳)
 - ・ 日本は、女性の地位は向上してきているけれど、もっと向上した方がよいと思う。男性の意識を中心に啓発した方がよいと思う。(女性、20歳)
 - ・ 女性の人権や地位向上には教育が欠かせない。教育を受けた子ども達が大人になり、女性の人権を当然のことと思うようになれば変わっていくと思う。教育を変えるためには社会が変わる必要がある。社会が変わるためにはやはり一人ひとりの努力が必要なのだと思う。女性の地位が向上することは、「男尊女卑の社会にすることではない」という意識をもたなければ意味がない。(女性、21歳)
 - ・ 自分は男だから女性について判らないことがたくさんあるし、女性は差別を感じているかもしれないから、もっと気配り出来る人になればよいと思う。(男性、20歳)
 - ・ 女性の問題について社会啓発する際に最も必要なものは、その問題を良しとしない根拠と説得であると思う。(男性、20歳)
 - ・ 大事なことは女性も男性も意識改革だと思う。法律等で男女平等になってもすぐに変化が起きないのは、意識面に問題があると思う。私は子どもを産んでも仕事をしていきたいと思っているので、早く育児休暇等の体制が整うことを願います。(女性、19歳)
 - ・ 男女がお互いの声に耳を傾け合い、「レベルを同じにする」のではなく、「補い合う」関係が理想的だと思う。(女性、21歳)

(ロ)女性自身の努力を求める

- ・ 女性も自分が将来何をしたらよいか、多くの人が永久就職の「主婦」で収入も高く、楽なことをしたいと考えている人もいるのではないかと。まず、そこにも注目して活動の幅を広げて行って欲しい。(男性、20歳)
- ・ 女性の人権が向上するのは望ましいが、周りの女性を見ていると、そのことについて何も考えていないような女性も多くいることも問題である。(男性、21歳)
- ・ 女性自身が地位の向上を思わなければ駄目である。(女性、年齢不明)
- ・ 女性自身の意識改革と社会のバックアップが必要である。(女性、19歳)

(ハ)社会制度の拡充・法律の整備

- ・ 男性にとっては当然のことだが、女性が経済的に自立し、高地位にいることは現在では精神的に強くなればやっていけないことだと思う。覚悟しなければならない問題は目にみえている。自立して生きていくには女性なりの問題が多く生じてくるのが判っているから、経済的に男性に守られ頼って生きたいという本能的な思い(女性なら誰しも持つ願望)に拍車がかかるのではないかと。事实现状ではこっちの方が楽。だから女性自身が自立を避ける部分があると思う。女性が自立することが真に生きやすく楽な方法が必要だと思う。育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させるべきである。(女性、19歳)
- ・ 我が国はスウェーデンのように介護負担を整わせるべきである。世の中全体に、雇用を増

やして景気をよくして欲しい。(女性、21歳)

- ・ 今まで、女性だからと言って差別される経験をしたことがないので、ハッキリ言ってよくわからないです。でも、今後、就職をして社会に出れば、そのような経験をする可能性は高いと思います。その時、法律や社会サービスが今よりも充実していれば嬉しいです。(女性、21歳)
- ・ 男と対になってこそ一人前という考え方、従ってこそという考え方を変えていくことが重要。家制度を受け継ぐ現法制度・税制制度等制度面の変革も必要。(男性、29歳)
- ・ 夫婦新姓にすべきである。夫の籍に入ることが嫌で別姓にするが、結局は父親の籍に入っているため。(女性、19歳)
- ・ もっと女性の人権や地位を向上させる法律によって社会を変えて欲しい。(男性、21歳)

(二) 職場における女性への支援制度の確立

- ・ 女性の社会進出や職業継続を困難にしている要因の大きなものに育児問題があると思うので、社会的な育児支援策をより充実させるべきではないかと思う。(女性、19歳)
- ・ いくら男女平等と謳われても、家庭では男が外で女が内という固定観念が未だに消えていないと思う。女性が社会的地位(職場)での向上を目指すなら、やはり結婚している女性なら夫である男性の理解や協力無しには実現出来ないと思う。そのため、夫だけでなく社会サービスシステムをまず整える必要がある。(女性、19歳)
- ・ 結婚や子育てをしながらも、自分の仕事もやっていける制度を整えて欲しい。(女性、21歳)

(ホ) 職場における女性の地位向上

- ・ 社会で男女の格差をつけられるのはおかしいと思います。どのような場合でも女性が意思決定の場(社会のトップ・日常生活)にいるべきだと考えます。そうすることにより、女性の地位を向上させて欲しい。(女性、18歳)
- ・ 企業内での女性の地位というのは、依然として低いと感じられる。もっと、男性と女性に働く機会・働く場を平等に与えるべき。(男性、20歳)
- ・ 女性がリーダー(官僚・社長)になる機会がとても少ない気がする。より一層、女性は社会に出て自分を主張し、男女が平等になるようにするべきである。女性自身の「女だから…」という意識も改善すべき。(女性、20歳)
- ・ 就職の機会を平等にして欲しい。(女性、21歳)
- ・ 女性でなければ感じないこと、できないことをもっと活用して欲しい。「レディースデー」や「女性割引」といった店が出ている分、もっと会社組織の中で認めて欲しい。(女性、21歳)
- ・ 家庭等では子どもの世話・家事を夫婦が平等にこなしていくべきだ。また、女性でも色々な職に就けるような社会にしていくべき。(男性、19歳)

(ヘ) DVへの対応

- ・ 女性の方が得をしていることももちろんあるが、仕事等の面では男性がいまだに優遇されていると思う。DVやセクハラ等の問題は精神的苦痛を伴うため、まずそこから解決していくべき。(女性、18歳)

-
- ・ 女性は体力的に男性よりも劣るので、DV等の暴力の対象になってしまがちだが、それは決して許されることではないと思う。男性の意識を変えなくてはならないと思う。(女性、20歳)

(ト)女性の人権・地位向上を懸念する

- ・ 男女平等といっても、何もかもを男性と女性を同様にすれば良いということではないと思う。男性・女性それぞれがもつ特質を生かしつつ、性別での個人の行動・意思を制限されることのない社会が実現されるとよいと思う。(女性、22歳)
- ・ 女性の人権という考え方が強すぎる。逆セクハラも起きていることもある。女性側も男性側も、もっと客観的な視点から考えるべき。(男性、19歳)
- ・ 女性の人権をもっと向上させるために一人ひとりが努力すべきである。(女性、21歳)

(チ)男女間の対話

- ・ 女性 - 男性間の対話が必要。(男性、24歳)

男女平等の実現は困難である

- ・ 少子化が進んでいるのは職場における制度や配慮の不十分さからではないかと思う。子どもが欲しい女性がいても、仕事から離れて遅れをとったり、実際職場に復帰しづらい状況になってしまうケースもある。例えば、制度が充実したとしても、同僚の意識を変えていかなければ、上手く機能しない。(女性、19歳)
- ・ 10年前と比べると、制度・法律が存在するようになったためとも思われますが、日本では女性の地位は全体的に向上したと考えられる。しかし、性別役割分業の色は濃く残っている。(女性、20歳)
- ・ 学生生活においては女性の地位が向上したと思うが、社会の場合決してそうではない。やはり、子どもを産むのは女性であるため、産前産後で1年半程度の時間のロスがどうしても起こる。(女性、20歳)
- ・ 女性の地位や立場は向上していると思う。しかし、力ではまだまだ女性の方が弱い。また、身体能力的に男性に勝るわけがないのに、そこに付け込んで、今、DVやセクハラが大きな問題になってきていると考えられる。社会の核にいる人物が、昔の風習にとらわれ過ぎていて、女性の地位向上に限界がある気がしてならない。(女性、20歳)
- ・ 男女平等がよいと言いながら、結局は経済的に男性に頼る。「女性」であることに甘んじている人が多い。(女性、20歳)
- ・ 日本では女性の地位がまだまだ低いと思う。(女性、20歳)
- ・ 女性の人権はある一定のところまでは向上するだろうが、男性と全て同じにはならないと思うから。(男性、20歳)
- ・ 職場で女性が寿退社(注：結婚退職)出産退社をするというケースは依然多く見られると思う。この問題を解決するのも容易ではないように、昔から皆に根付いていることだから非常に難しい問題であると思う。(男性、20歳)
- ・ 現在の社会は明らかに男性社会と言えます。職場・学校・あるゆる面で言えると思います。女性が学校の校長先生・教頭先生である場合でも驚かれる時代です。(男性、20歳)

歳)

- ・ 男女平等と思ってはいるものの、これは男・女という意識を消し去るのは非常に困難。(男性、20歳)
- ・ 学生生活を営んでいる上では、あまり男女の社会的地位の格差は感じていないが、就職活動をしている先輩の現状を聞くと、その差を実感せざるを得ない。これには、管理職などに女性が少ないことなどが原因として挙げられるのではないかと考えている。ただ、女性に深夜労働を課し難い(安全面)等のことを考えると完全な平等は不可能なのではないか。(男性、20歳)

無関心

- ・ 正直なところ、自分にとって、職場において女性の地位というのがまだあまり認識できていないので、何も言えない。結婚後は、男女平等の役割分担をすべきだと思う。(男性、21歳)
- ・ 普段の生活の中で男女差別のようなもので深く衝撃を受けたりすることは今までになかった気がする。でも、就職の時に、女性が職に就きにくかったり、結婚した時に亭主関白等の男女の固定したイメージが現れたりするかもしれない。(女性、19歳)
- ・ 今のところまでは自分のやりたいしたい勉強などを出来ているので、あまり女性の地位について感じていることはない。これから社会に出て働くときにはいろいろ感じるかもしれない。(女性、20歳)
- ・ 私の周囲では日頃「女性の人権がない」「地位が低い」と感じることはほとんどない。(女性、22歳)
- ・ 日頃、全くといってよいほど、女性の人権について考えたり意識して生活していない。それだけ、今の私の大学生活は女性だからという差別のない生活であると思う。社会に出たら、新たに発見するかもしれない。(女性、20歳)

現状のままでよい

- ・ 地位を向上させたいと思う人は頑張れば良いし、このまま男性に養ってもらって男性に従っていたい人はそれでいいと思う。(女性、19歳)
- ・ 私自身は、あまり女性が男性と比べて不平等だと思ったことはありません。私は、結婚してから仕事をしたくありません。「家事を押し付けている。」という発想には至りません。(女性、20歳)
- ・ 女性が社会進出することに対しては賛成です。それを拒むものがあるのなら、改善すべきだと思う。しかし、自分の母親は専業主婦で、専業主婦である生活が好きだったので、将来は自分も仕事を辞め家庭に入ると思う。家庭に入れることに(女性の特権)少し逃げ道があると考えているかもしれない。(女性、20歳)
- ・ 女性が家事をすることに、特に問題はないと思う。仕事をしたい女性は、男性と同じように働ける機会を与えて欲しい。(女性、20歳)
- ・ 女性の地位が低いという事実をよく知らないし、本当にとそうなのかも知れない。職業名

の呼び方の問題や家庭での役割は、最近見直されているようで、女性が本当に地位が低い
のならば、それらの動きは意味のあることだと思う。身近なことだと、「映画レディースデ
ー」や「飲食店での女性サービス」が羨ましい。(男性、19歳)

その他

- ・ これからは、女性も強くないといけないと思う。(女性、18歳)
- ・ 私はそのうち男性は必要ない社会になる日があると思う。(女性、20歳)
- ・ 地方によって女性の地位には差があると思う。高知県では家庭等では女性の地位が高いが、
職場では女性の地位が低いままです。(女性、20歳)
- ・ 世界中の人が「人権」というものについて考える機会をもつべきである。特に21世紀は女
性の人権というものがもっと尊重されるべきだと思う。特に日本社会において、女性が安
心して働ける雰囲気を作っていきたい。(女性、20歳)
- ・ 私は基本的に男性が主体で女性が支える(外剛内剛的に)型が理想です。お互いを尊重した
上での役割分担です。ただ、結婚しない女性・未亡人・事情を抱える女性のことを考える
と、女性の地位が下がったり、尊重されないことは大変問題です。人間をもっと尊重すべ
きです。女性・男性に得意分野があるのでその辺りが難しいところです。(女性、21歳)
- ・ 私の周りの環境、就職活動や学校内でも、力がある女性なら、差別があるとしても上に行
ける。しかし、もっと根本性が問われるような緊急事態には、一貫して男女差別がある。
それは日常から見えない力で、男性も虐げられているということになり、男女ともによ
くない社会的影響だと思う。(女性、21歳)
- ・ 自分の彼女以外は女を女性として見ていない。(男性、20歳)
- ・ 確かに女性の地位はまだ完全に男性と平等ではないと思う。ただ、日常生活のサービス面
では「女性のみ入店可の飲食店」「女性のみ割引の娯楽施設・映画館」等、優遇されてい
る面も意外にある。これらについても「男女平等」として色々と考える必要がある。(男性21
歳)
- ・ 女性は怒ると怖い。ヒステリーも怖い。(男性、21歳)

第 3 章 調査のまとめ

本調査は、韓国、台湾、中国からの留学生と、日本人大学生を対象に、女性の人権に関する意識や女性の地位向上に向けた今後の方策についてたずねた調査です。

調査結果からは、アジアの将来をになう大学生の「女性の人権」に対する意識の現状や、その背景の性別役割分業観、日本の社会のあり方に対する評価など、「女性の人権」をとりまくさまざまな現状や問題点が浮かび上がりました。

そこで本章では、調査の全体結果と、各国（地域）別にみた特徴などをまとめることとします。

1 全体結果

(1) 男女の役割は「男女同程度」を理想としていますが、「女らしさ」「男らしさ」はあ ると感じる人が多くなっています

夫婦の役割は同程度にすべき、と考える人が多い

家庭内における父親と母親の決定権については、分野で違いはありますが、父親も母親も「両方同じくらい」、また、夫婦の役割分業についても「夫と妻が同程度にすべき」という人が多いのが特徴です。しかし『働いて収入を得ること』については「夫」、『家事(料理・掃除・洗濯など)』については「妻」という回答が比較的多くなっています。

女性の働き方は《生涯就労》、《中断再就職》が支持されている

女性の望ましい働き方は、「女性は生涯働き続けたほうがよい(就労継続)」と「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい(中断再就職)」とがそれぞれ3～4割で多くなっています。

女性の働き方に対しては男女や各国(地域)の意識差が大きい

母親の働き方については各国(地域)での違いが、また、望ましい女性の働き方についても、各国(地域)、さらに男女でも意識の違いがみられます。

理想の結婚相手は共通して「家庭を大切にする人」

最も理想の結婚相手は、「家庭を大切にする人」です。その回答は、各国(地域)ともほぼ同じような傾向です。

いずれの国(地域)にもある「女らしさ」「男らしさ」の表現

「女らしさ」「男らしさ」という表現は、いずれの国(地域)でも「ある」という回答が多く、その規範は「強い」という回答がほとんどを占めています。

(2) 日本の社会は「男性優遇社会」であり、多くの人はその社会像には反対しています

7割近くの人が、日ごろの生活でいずれかの性が優遇されていると感じている

7割近い人が、日ごろの生活の中で、男女いずれかの性が優遇されている、と感じています。男性が優遇されているのは「家庭生活」や「社会」で、女性が優遇されているのは、「サークル」や「友人・恋人関係」という回答が多くなっています。

8割近くの人が、日本は「男性優遇社会」だと感じている

また、日本の社会像は、「男性優遇」、「どちらかといえば男性優遇」の社会だと感じている人は8割近くにのぼっています。韓国、台湾、中国では「男性優遇」という回答が多く、日本では「どちらかといえば男性優遇」という回答が多いのが特徴です。

日本の社会像への《反対》は《賛成》を上回っている

こうした現在の日本の社会像に対し、半数以上が《反対》であり、その割合は《賛成》を大きく上回っています。

(3) 大学生の「女性の人権」に関する問題への関心は強いものとなっています

男女とも「女性の人権」に強い関心をもっている

女性の人権や女性の地位向上に対する意見への男女差が少ないことや、自由回答に数多くの回答があったことなどからも、「女性の人権」に対しては、女性ばかりでなく男性も日頃から強い関心をもっていることがうかがえます。

DVや「従軍慰安婦」問題の認知度は高い

DVについては7割、「従軍慰安婦」問題については9割が知っているという回答し、大学生の認知度は非常に高くなっています。認知度の男女差は極めて少なくなっています。

知ったきっかけは「テレビや新聞で」や「学校の授業で」

DVや「従軍慰安婦」問題を知ったきっかけについては、DVでは「テレビや新聞をみて」知ったという人が、「従軍慰安婦」問題では「テレビや新聞」や「学校の授業で」知ったという人がそれぞれ多く、マスコミや学校教育が大きな役割を果たしてきたことがわかります。

(4) 日本の女性の地位の向上は、各国(地域)とも共通して、十分ではない、と感じる人が多くなっています

女性の地位が十分向上したのは「学校教育」や「家庭生活」

自国(地域)における女性の地位については、「学校教育」や「家庭生活」で十分向上した、と感じる人が多くなっています。特に中国については、男女とも十分向上したという人が多くなっています。

日本での女性の地位の向上はまだまだ、と感じる人が多い

日本での女性の地位は「女性の地位は向上したが、まだ向上する必要がある」という回答が各国(地域)の回答から共通にみられます。とくに、「職場」や「家庭生活」では向上しなかった、と回答する人が多くなっています。

妨げているのは「男性が主で女性が従という意識」や「家事等の女性の負担」

女性の地位が向上しない理由は、「男性が主で女性が従である意識が変わらないこと」や「家事、子育て・介護などの女性の負担が大きいこと」などが上げられ、男女の役割分業の解消が必要だという意見が多くなっています。

男女の関係が理想の国は「アメリカ」「中国」「スウェーデン」

男女の関係が理想的な国として、多い順に「アメリカ」「中国」「スウェーデン」が挙げられました。韓国、台湾では「アメリカ」、中国では「中国」、日本では「無回答」が多くなっています。

女性の問題は社会全体で取り組むべき、という強い認識

女性の人権や女性の地位が向上していくために必要なこととして、「男女の役割分担の見直し」、「育児・介護に関する制度や社会サービスの充実」、「女性が抱える問題に対する社会の啓発」が必要という回答が多く、国(地域)を問わず、女性の問題は、啓発や教育、社会の制度を通して社会全体で取り組んでいくべき、との意識が強くなっています。

2 出身国（地域）別の傾向

続いて各国（地域）別にみた女性の人権と女性の地位向上に対する意識などを整理すると以下ようになります。

《韓国》

性別役割分業に対する男女の意識差は大きく、また、女性の地位に対する評価は、自国に対しても日本に対しても厳しくなっています。

- ・ 回答者は男性が多く、平均 26.8 歳。日本には「学位取得」「就職に有利」という理由から留学、滞在期間は平均約 3 年 4 ヶ月の予定です。学費は「家族」が負担しているという人が多く、兄弟姉妹は平均 2.39 人、父親が「勤め人（会社員）」「自由業」で、母親が「専業主婦」という家庭が平均像であり、母親は働いたことがない、という人の割合は 4 カ国（地域）中最も高くなっています。両親が共働きの方は 17.2%。経済的には「中の上」か「中の下」くらいだとしています。
- ・ 家庭内では『家具、電化製品などの大きな買い物』は「母親」に決定権があるとしていますが、望ましい夫婦像については『働いて収入を得る』のは「夫」、『子どもの世話』は「妻」と考える人が多くなっています。男女の役割や女性の働き方に対しては、男性は強く性別役割分業を肯定していて、女性の考え方との大きな開きがあります。
- ・ 以上の傾向は日本人大学生回答者とも似ていますが、相談相手を見ると、日本人大学生の 6 割近くが「母親」と回答したのと対照的に、「母親」の割合は低くなっています。
- ・ 女らしさ、男らしさの規範は強いと回答した人が多く、女性は生まれ変わったら「男性になりたい」という人の割合が台湾、中国などと比較して高い傾向があります。
- ・ 日頃の生活では「男性が優遇されている」と感じる人が多く、日本の男性優遇社会には男性の 3 割が賛成、女性の 8 割が反対しています。
- ・ DV は 18 歳頃に「テレビや新聞」「家族や友人から」、「従軍慰安婦」問題については 14 歳頃に「学校の授業で」、「テレビ・新聞」で知った人が多く、「いかなる暴力も許されない」と考える人は 81% に上っています。
- ・ 自国と日本における女性の地位についても、男女での評価の違いが大きく、女性の評価のほうが男性と比較して低くなっています。
- ・ 理想の国はアメリカ（31.0%）、スウェーデン（6.9%）の順です。女性の人権と女性の地位向上に対しては全体と比較して「人権に関する教育」のほか「アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす」の割合が高くなっています。

- ・ 自由回答は、37 件。
- ・ 男女の意識改革、女性自身の自立と努力、男女の役割分担の解消、社会制度の拡充や法律の整備、社会・職場における女性の支援などを求める意見が多く挙げられています。

《台湾》

両親は共働きが多いですが、女性が働くことや、家庭生活における男女の役割には、男女での意識差がみられます。家庭生活、職場での日本の女性の地位に対しては、自国よりも、厳しく評価しています。

- ・ 回答者の男女比は3 : 7で、平均23.5歳。日本には「日本語を学ぶ」目的で留学した人が多く、滞在期間は平均約2年6ヶ月の予定です。学費は「家族」が負担しているという人が多く、兄弟姉妹は平均2.47人。父親は「自営サービス業」、母親も「自営サービス業」が多く、母親がずっと働いている人は半数近く(46.8%)となっています。共働きは51.6%。経済的には「中の上」くらいという人が多くなっています。
- ・ 家庭内では『日常の家庭での決まりごと』は「母親」に決定権があるとしています。望ましい夫婦の役割分担については比較的「夫と妻と同程度」という回答が多くなっています。
- ・ 母親の働き方は「ずっと働いている」が46.8%です。女性が働いて経済的収入を得ることについて、「生涯働き続けたほうがよい」と考えるのは女性で64.9%なのに対し、男性では28.0%にとどまり、男女の意識の差は大きくなっています。
- ・ 相談相手については「兄弟姉妹」と回答した人が多く(37.1%)、中国(5.6%)とは対照的な結果となっています。女性は生まれ変わったら「男性になりたい」という人の割合が韓国に次いで高く、男性は「わからない」とした人が最も多くなっています。
- ・ 日本の社会像は、「男性が優遇されている社会」「どちらかといえば男性が優遇されている社会」という回答が男女とも8割を超えています。男性の3割以上が《賛成》です。
- ・ DVを知っている人は53.2%。男性は17.3歳頃、女性は15.7歳頃に知った人が多く、比較的「家族や友人を見聞きして」という回答が多くなっています。DVに対しては「いかなる暴力でも暴力は許されるべきではない」という回答が6割台ですが、「つい暴力をふるう気持ちもわかる」「被害者にも原因がある」「周りがとやかくいう問題ではない」という容認意識をもつ人が3割近くです。「従軍慰安婦」問題を知ったのは男性16.3歳、女性14.8歳。「学校の授業で」「テレビ・新聞をみて」知った人が多くなっています。
- ・ 自国の女性の地位は、『家庭生活』では男性は40.0%が「十分向上した」としているのに対し、女性では8.1%です。日本に対しては、『家庭生活』と『職場』では「女性の地位は向上しなかったので、向上する必要がある」と評価した人が多くなっています。
- ・ 理想の国はアメリカ(35.5%)、台湾(11.3%)の順です。女性の人権と女性の地位向上に対しては「女性が抱える問題について社会の啓発を進める」「人権に関する教育が充実される」の割合が高くなっています。

- ・ 自由回答は、26件。
- ・ 意識改革、女性自身の努力、教育・啓発の重要性、職場での昇進などを求める意見が多く挙げられています。
- ・ その他、女性の地位向上を期待、評価する意見も多くなっています。

《中国》

子どもの教育方針の決定、相談相手とも「父親」が多いですが、望ましい役割分担は夫婦同程度、男女とも8割が女性は働き続けたほうがよいとしています。女性の地位向上の評価は自国では高く、日本に対しては厳しいものとなっています。

- ・ 回答者の男女比は3：7で、平均25.2歳。日本には「学位取得」の目的で留学した人が多く、滞在期間は韓国と台湾と較べて最も長い約5年間の予定です。学費は「自分のアルバイト・仕事」で賄っている人が多く、他の3カ国（地域）とは異なります。兄弟姉妹は平均1.47人。父親は「勤め人（公務員）」、母親も「勤め人（公務員）」が多く、母親がずっと働いている人は7割以上（75.9%）、共働きは81.5%にのぼっています。経済的には「中の上」くらいという人が多くなっています。
- ・ 家庭内では『子どもの教育方針』は「父親」に決定権があるとしています。望ましい夫婦の役割分担については「夫と妻と同程度」という回答が多くなっています。
- ・ 女性が働いて経済的収入を得ることについて、「生涯働き続けたほうがよい」と考える人は男女とも7～8割と高くなっています。
- ・ 相談相手については「友人知人」のほかには、「父親」（22.2%）が多くなっています。
- ・ 男性は生まれ変わったら「男性」に、と7割以上の人と考えています。自国では女らしさ、男らしさの規範があまり強くない、とする意見は、女性の方で多くなっています。
- ・ 日本では、男性もしくは女性が優遇されていると感じる人が多く、『アルバイトや仕事先』や『友人や恋人との関係で』は女性が優遇されている、と感じる人が多くなっています。
- ・ DVを知っている人は57.4%。男性は14.3歳頃、女性は16.2歳頃に知った人が多く、「雑誌や書籍で」知ったという回答が多くなっています。DVに対しては「いかなる暴力でも暴力は許されるべきではない」という回答が6割台ですが、台湾同様、容認意識をもつ人は3割近くです。「従軍慰安婦」問題を知ったのは男性18.5歳、女性15.4歳。「学校の授業で」知った人が少なく、「テレビ・新聞をみて」知った人が多くなっています。
- ・ 自国の女性の地位については、男女とも、どの領域でも3割以上が「十分向上した」と評価しています。しかし、日本に対しては『法律・社会制度』をのぞき、どの領域も厳しく評価し、女性は、『職場』での女性の地位については、「向上しなかったので、向上する必要がある」と5割以上の人回答しています。
- ・ 理想の国は圧倒的に中国（44.4%）が多く、次いでアメリカ（14.8%）となっています。女性の人権と女性の地位向上に対しては「女性の教育や学習の機会を広げる」の割合が高くなっています。

- ・ 自由回答は、10件。
- ・ 男性の意識改革、女性自身の努力、女性に対する社会的支援などを求める意見が挙げられています。

《日本》

望ましい夫婦の役割分担は夫と妻と同程度。母親の働き方同様、中断再就職指向が強い傾向にあります。DVなど女性の人権問題に関する知識は高いものの、男女平等意識、女性の地位評価については、ともにややあいまいで、理想の国のイメージは弱い傾向があります。

- ・ 回答者の男女比は3：7で、平均20.1歳。学費は「家族」が負担しているという人が多く、兄弟姉妹は平均1.48人。父親は「勤め人(会社員)」、母親は「パートタイム」が多く、出産や結婚でいったん退職した人が合わせて6割、ずっと働いている人は2割です。共働きが66.7%です。経済的には「中の上」くらいという人が多くなっています。
- ・ 望ましい夫婦の役割分担については「夫と妻と同程度」という回答が多いですが、『働いて収入を得ること』は「夫」、『家事』については「妻」という回答が多くなっています。
- ・ 女性が働いて経済的収入を得ることについて、「生涯働き続けたほうがよい(就労継続)」という割合は男女ともに低く、女性の「出産したら仕事をやめ、子育てが終わる頃に仕事につくとよい(中断再就職)」が最も高くなっています。
- ・ 相談相手については「友人・知人」に次いで、「母親(59.5%)」が高くなっています。
- ・ 生まれ変わったら「男性になりたい」という男性の割合は台湾と並んで低く、「女性になりたい」という割合は中国と並んで高くなっています。
- ・ 女らしさ、男らしさの規範が非常に強い、と回答した人が韓国と同様多くなっています。
- ・ 男性もしくは女性が優遇されていると「やや」感じており、日本の社会も「どちらかといえば男性が優遇されている社会」、それに対しては男性で「わからない」、女性で「どちらかといえば反対」という回答が比較的多くなっています。
- ・ DVの認知度は非常に高く93.7%。男性は18.6歳頃、女性は15.7歳頃に知った人が多く、「テレビ・新聞をみて」「学校の授業で」という回答が多くなっています。DVに対しては「いかなる暴力でも暴力は許されるべきではない」という回答が8割弱ですが、「つい暴力をふるう気持ちもわかる」という回答が1割を超えています。「従軍慰安婦」問題を知ったのは男性15.8歳、女性14.7歳。「テレビ・新聞をみて」知った人は比較的少なく、「学校の授業で」が圧倒的に多くなっています。
- ・ 日本の女性の地位が「十分に向上した」という回答は、『学校教育』をのぞき、どの領域でも非常に少なく「向上したが今後も向上する必要がある」が過半数となっています。
- ・ 理想の国の1位はアメリカ(19.8%)ですが、1位の割合は他国よりも低く、また、「無回答」の割合が高く、理想の国のイメージをもてないでいることがわかります。
- ・ 女性の人権と女性の地位向上に対しては「家事や育児・介護など男女の役割分担を見直す」「育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる」などが多いほか、韓国同様、「アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす」が多くなっています。

-
- ・ 自由回答は、93 件。
 - ・ 人権や男女平等に対する意識改革、女性自身の努力、社会制度の拡充・法律の整備、職場における女性の地位向上などを求める意見が多く挙げられています。
 - ・ 出産後の社会復帰の困難さ、就職活動における不平等、昔から根付いている問題など、男女平等社会の実現に向けて容易に解決できない問題が挙げられています。

第4章 これからの課題

本調査の結果をもとに、あらためて、大学生の皆さんの自由意見も引用しながら、調査の結果にあらわれた今後の課題を考察することとします。

(1) 社会的取り組みが重要。教育・メディアの役割大

今回の調査の成果は、回答数に限りがあるものの、将来のアジア各国(地域)のリーダーとなりうる大学生の「女性の人権」意識の現状がかなり明らかになった点にあります。

日ごろから大学生が「女性の人権」に強い意識をもっていること、国(地域)男女を問わず、多くの人々が、女性の問題は社会全体で取り組むべきだ、と考えていること、そして数多く寄せられた自由回答からは、若い世代の意識が、女性問題は男女がともに取り組むもの、という考え方に変わってきたことなどが示唆されています。

具体的には、多くの人々が「男女の役割分担を見直す」ことや「制度や社会サービスを充実させる」ことが最も重要であると指摘しています。また、「女性の教育や学習の機会を広げる」、「人権に関する教育を充実させる」、「女性が抱える問題について、社会の啓発を進める」ことなども今後必要とされると指摘しています。また、DVなどを知ったきっかけは「テレビや新聞をみて」という人が半数以上にのぼっています。

今後は、女性の人権や地位向上のために、教育やメディアの影響力を重視した啓発活動がいっそう大きな役割を果たしていくと見込まれます。

<キーワード(自由回答から)>

- ・ 歴史の問題が大きい。男性中心の歴史は日本・韓国・中国ともに同じ。公開議論が必須である。(韓国)
- ・ 各国の伝統文化に合わせた女性の地位向上策を進めている。(台湾)
- ・ 女性は男性と同様の教育を受け、平等な就職の機会を与えること。育児は、女性が多く従事しているので、社会は育児サービスを増やすこと。(中国)
- ・ メディアでの女性に対する発言も不適切。CMでは「料理=女」の構図。そういったことから変わる必要がある。(日本)

(2) 変わりつつある伝統的性別役割分業

性別役割分担については、男女が半々に担うのが理想、という人は全体の6割にのぼりました。特に、「働いて収入を得ること」や「家事」については、「夫と妻は同程度に」と考えている女性の割合は男性を大きく上回っています。全体で8割の人は女性が働くことを認めており、専業主婦がよいという回答はごくわずかです。家事、子どもの世話、老親の介護においては、「夫婦同程度」が望ましいという回答が平均して全体の7割を占めています。社会で働くことが認められる傾向にある中で、家事労働の役割分担が問題として意識されていることがうかがえます。

また、どの国(地域)でも「女らしさ」「男らしさ」という表現があり、その規範も、国(地

域)で違いはあるものの、根強いと感じている人が多いことがわかりました。こうした各国(地域)の歴史や文化をふまえながら、性別役割分業を見直していく気運が見られます。

このような実態やその見方について、アジア各国(地域)の若者による活発な交流や討論が期待されるところです。

<キーワード(自由回答から)>

- ・ 「女性らしさ」「男性らしさ」だけを主張して、強制することはいけない。互いに人間として尊敬し合いながら、理解し合いながら実現していくことが大切である。(韓国)
- ・ 男女ともに男女の問題を同じ視点で考えているならば、自然に女性の人権・地位は向上する。(台湾)
- ・ 男女ともに「手足がある」「働ける人間」と考えることにより、同様に自立できる。(中国)
- ・ 女性差別または男性差別の問題は、意識の問題と法律や慣習の問題が大きいと思う。女性と男性は身体的に全く違うので、その違いはお互いに理解すべきである。(日本)

(3) 指摘される日本の男性優遇社会

日本の社会は「男性優遇社会」であるという回答者は8割近くであり、そういう社会は望ましくないと多くの方が回答しました。日本の女性の地位についても、各国(地域)共通して不十分であると考える人が多く、女性の地位もまだ向上の余地が大きいと指摘しています。また、調査を通して、日本人は、男女の地位に対する意識があいまいであるとの答えが多くありました。

日本においても、国や自治体、学校などで「男女共同参画」に関する取り組みが進み、言葉や概念はかなり浸透してきましたが、今後さらに学習・啓発活動を続けていくことが重要だと考えられます。

<キーワード(自由回答から)>

- ・ 日本の女性運動についてはよく知らないが、韓国では時々過激なものがあり、生物学的な男女の区別にとらわれすぎている。本当に女性を抑圧しているのは、権力と富を持っている支配者ではないだろうか。もっと、階級問題として女性の人権を考えるべき。(韓国)
- ・ どうして日本のOLは猫かぶりしなければならないのか。(台湾)
- ・ 日本の女性の人権は大変低い。(中国)
- ・ 現在の日本では、女性の地位向上が阻止される要因はたくさんあると思う。一方で、女性自身に向上しようという意欲が欠けている。もっと多くの女性が地位向上のあり方を考えなければ何も変わらないと思う。(日本)

資料編

<調査票 回答結果が記されています>

女性の人権に関する大学生の意識調査

問の指示に沿って、右側の回答欄（網掛け部分）にあてはまる番号や数字を入力してください。
 その他については下線の部分に、具体的に入力してください。

<記入例> 問1 あなたの性別は。（数字を1つ選んでください）

- 1 男性 2 女性

回答欄に数字
を記入してく
ださい

<回答欄>

2

まず、あなたのことについておたずねします。回答いただける範囲で答えてください。
 （あなたの個人情報は厳守します）

問1 あなたの性別は。（数字を1つ選んでください）

N=300

					(%)	
1 男性	38.3	2 女性	61.7	無回答	0.0	

問2 あなたの年齢は。

数字を記入してください

N=300

平均 23.0 歳

問3 あなたの出身国・地域は。（数字を1つ選んでください）

N=300

					(%)	
1 中国	18.0	2 台湾	20.7	無回答	0.0	
3 韓国	19.3	4 日本	42.0			

問4 あなたが通っている大学は。

大学名を書いてください。

_____ 大学

問5 在籍しているのはつぎのうちどれですか。（数字を1つ選んでください）

N=300

				(%)	
1 1年生	20.0	2 2年生	22.7		
3 3年生	24.7	4 4年生	7.7		
5 大学院修士課程	15.7	6 大学院博士課程	2.0		
7 その他	5.3	無回答	2.0		

_____ [具体的内容]

問6 あなたの専攻は。

専攻名を書いてください。

_____ 専攻

<p>問7 留学生におたずねします。 あなたが留学している理由はどれですか。(数字をいくつでも選んでください) n=174</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: right;">(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学位を得るため〔何の学位ですか〕</td> <td style="text-align: right;">42.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>就職に有利だから 29.9</td> <td style="text-align: right;">21.8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本文化を知るため</td> <td style="text-align: right;">10.3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本語を学ぶため 36.8</td> <td style="text-align: right;">2.3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			(%)	1	学位を得るため〔何の学位ですか〕	42.0	2	就職に有利だから 29.9	21.8	3	日本文化を知るため	10.3	4	日本語を学ぶため 36.8	2.3	5	その他			無回答		<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/> <hr/>																		
		(%)																																						
1	学位を得るため〔何の学位ですか〕	42.0																																						
2	就職に有利だから 29.9	21.8																																						
3	日本文化を知るため	10.3																																						
4	日本語を学ぶため 36.8	2.3																																						
5	その他																																							
	無回答																																							
<p>問8 あなたの「学費」はどなたが出していますか。(数字をいくつでも選んでください) N=300</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: right;">(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族 69.3</td> <td style="text-align: right;">6.3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自分の貯金</td> <td style="text-align: right;">12.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自分のアルバイト・仕事 25.0</td> <td style="text-align: right;">7.0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>奨学金(日本政府)</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>奨学金(本国政府) 2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>その他奨学金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			(%)	1	家族 69.3	6.3	2	自分の貯金	12.0	3	自分のアルバイト・仕事 25.0	7.0	4	奨学金(日本政府)	0.3	5	奨学金(本国政府) 2.0		6	その他奨学金			無回答		<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>															
		(%)																																						
1	家族 69.3	6.3																																						
2	自分の貯金	12.0																																						
3	自分のアルバイト・仕事 25.0	7.0																																						
4	奨学金(日本政府)	0.3																																						
5	奨学金(本国政府) 2.0																																							
6	その他奨学金																																							
	無回答																																							
<p>問9 留学生におたずねします。 留学生として日本に来たのはいつですか。 日本に来た年(西暦)月を書いてください。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <input style="width: 40px; height: 25px; margin-right: 5px;" type="text"/> 年 <input style="width: 40px; height: 25px; margin-right: 5px;" type="text"/> 月 </div>																																							
<p>問10 留学生におたずねします。 日本での滞在期間はどのくらいの予定ですか。 何年何ヶ月か書いてください。 n=174</p> <p style="text-align: right;">平均 42.0 ヶ月</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <input style="width: 40px; height: 25px; margin-right: 5px;" type="text"/> 年 <input style="width: 40px; height: 25px; margin-right: 5px;" type="text"/> か月 </div>																																							
<p>問11 あなたには兄弟姉妹が何人いますか。 人数を書いてください。 N=300</p> <p style="text-align: right;">平均 1.9 人</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>																																							
<p>問12 あなたのご両親の現在の職業はどれですか。(数字を1つ選んでください) N=300</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: right;">(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農業 2.7</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>林業</td> <td style="text-align: right;">16.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>漁業 0.0</td> <td style="text-align: right;">7.3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>商工サービス自営業</td> <td style="text-align: right;">33.3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自由業(開業医・弁護士・芸術家など)</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経営管理職 8.7</td> <td style="text-align: right;">3.0</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>勤め人(会社員)</td> <td style="text-align: right;">6.3</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>勤め人(公務員) 19.0</td> <td style="text-align: right;">3.0</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>パートタイム</td> <td style="text-align: right;">3.0</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>その他〔具体的に: 〕</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>働いていない</td> <td style="text-align: right;">3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			(%)	1	農業 2.7	0.3	2	林業	16.0	3	漁業 0.0	7.3	4	商工サービス自営業	33.3	5	自由業(開業医・弁護士・芸術家など)	0.3	6	経営管理職 8.7	3.0	7	勤め人(会社員)	6.3	8	勤め人(公務員) 19.0	3.0	9	パートタイム	3.0	10	その他〔具体的に: 〕		11	働いていない	3.0		無回答		<p>父親</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/> <p>母親</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/>
		(%)																																						
1	農業 2.7	0.3																																						
2	林業	16.0																																						
3	漁業 0.0	7.3																																						
4	商工サービス自営業	33.3																																						
5	自由業(開業医・弁護士・芸術家など)	0.3																																						
6	経営管理職 8.7	3.0																																						
7	勤め人(会社員)	6.3																																						
8	勤め人(公務員) 19.0	3.0																																						
9	パートタイム	3.0																																						
10	その他〔具体的に: 〕																																							
11	働いていない	3.0																																						
	無回答																																							

問 13 あなたのご家庭の経済状況は、あなたの国・地域ではどのくらいにあたり
ますか。(数字を1つ選んでください)

N=300		(%)	
1 上	0.3	2 中の上	48.3
3 中の下	29.7	4 下	4.0
5 わからない	17.3	無回答	0.3

ここから女性の人権についてのあなたの日頃からの考えをおたずねします。

問14 あなたの家庭ではつぎのようなとき、父親と母親のどちらに決定権が
あります(ありました)か。(1つずつ数字を選んでください)

N=300		(%)	
子どもの教育方針を決めるとき			
1 父親	26.0	2 母親	18.0
3 両方同じくらい	48.3	4 わからない	7.0
		無回答	0.7
家具、電化製品などの大きな買い物をするとき			
1 父親	29.3	2 母親	33.3
3 両方同じくらい	33.7	4 わからない	3.3
		無回答	0.3
日常の家庭での決まりごとを決めるとき			
1 父親	15.3	2 母親	36.3
3 両方同じくらい	40.7	4 わからない	7.3
		無回答	0.3

問 15 あなたは、つぎのようなことは、夫婦のどちらがすべきことだと思います
か。(1つずつ数字を選んでください)

N=300		(%)	
働いて収入を得ること			
1 夫	33.0	2 妻	1.0
3 夫と妻と同程度	60.3	4 わからない	5.7
家事(料理・掃除・洗濯など)			
1 夫	1.0	2 妻	27.7
3 夫と妻と同程度	67.3	4 わからない	4.0
子どもの世話			
1 夫	1.3	2 妻	14.3
3 夫と妻と同程度	82.7	4 わからない	1.7
老親の介護			
1 夫	2.0	2 妻	6.3
3 夫と妻と同程度	85.0	4 わからない	6.7
地域でのつきあい			
1 夫	1.7	2 妻	14.0
3 夫と妻と同程度	74.3	4 わからない	10.0

<p>問 16 あなたの母親は、結婚後、経済的収入を得ていますか。 (数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>ずっと働いている</td><td>36.3</td></tr> <tr><td>2</td><td>結婚・出産で一時仕事をやめたが再び仕事についている</td><td>23.0</td></tr> <tr><td>3</td><td>結婚したときに仕事をやめた</td><td>15.7</td></tr> <tr><td>4</td><td>出産したときに仕事をやめた</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>5</td><td>一度も働いたことがない</td><td>9.3</td></tr> <tr><td>6</td><td>定年退職している</td><td>4.3</td></tr> <tr><td>7</td><td>その他〔具体的に： 〕</td><td>5.7</td></tr> </table>	1	ずっと働いている	36.3	2	結婚・出産で一時仕事をやめたが再び仕事についている	23.0	3	結婚したときに仕事をやめた	15.7	4	出産したときに仕事をやめた	5.7	5	一度も働いたことがない	9.3	6	定年退職している	4.3	7	その他〔具体的に： 〕	5.7	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/>									
1	ずっと働いている	36.3																													
2	結婚・出産で一時仕事をやめたが再び仕事についている	23.0																													
3	結婚したときに仕事をやめた	15.7																													
4	出産したときに仕事をやめた	5.7																													
5	一度も働いたことがない	9.3																													
6	定年退職している	4.3																													
7	その他〔具体的に： 〕	5.7																													
<p>問 17 あなた自身は、女性が働いて経済的収入を得ることについてどう思いますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>女性は生涯働き続けたほうがよい</td><td>43.0</td></tr> <tr><td>2</td><td>女性は子どもができれば仕事をやめ、子育てが終わる頃に再び仕事につくとよい</td><td>35.7</td></tr> <tr><td>3</td><td>女性は結婚したら仕事をやめて家事に専念するほうがよい</td><td>3.3</td></tr> <tr><td>4</td><td>女性は出産したら仕事をやめて子育てに専念するほうがよい</td><td>4.7</td></tr> <tr><td>5</td><td>女性は働かないほうがよい</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>6</td><td>その他〔具体的に： 〕</td><td>12.3</td></tr> </table>	1	女性は生涯働き続けたほうがよい	43.0	2	女性は子どもができれば仕事をやめ、子育てが終わる頃に再び仕事につくとよい	35.7	3	女性は結婚したら仕事をやめて家事に専念するほうがよい	3.3	4	女性は出産したら仕事をやめて子育てに専念するほうがよい	4.7	5	女性は働かないほうがよい	1.0	6	その他〔具体的に： 〕	12.3	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/>												
1	女性は生涯働き続けたほうがよい	43.0																													
2	女性は子どもができれば仕事をやめ、子育てが終わる頃に再び仕事につくとよい	35.7																													
3	女性は結婚したら仕事をやめて家事に専念するほうがよい	3.3																													
4	女性は出産したら仕事をやめて子育てに専念するほうがよい	4.7																													
5	女性は働かないほうがよい	1.0																													
6	その他〔具体的に： 〕	12.3																													
<p>問 18 あなたが困ったときに相談するのはどなたですか。(数字をいくつでも選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>母親</td><td>49.3</td><td>2</td><td>父親</td><td>18.7</td></tr> <tr><td>3</td><td>兄弟姉妹</td><td>24.0</td><td>4</td><td>祖父母</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>5</td><td>配偶者・パートナー</td><td>15.7</td><td>6</td><td>親戚(おじ・おばなど)</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>7</td><td>友人・知人</td><td>70.7</td><td>8</td><td>学校の先生</td><td>6.3</td></tr> <tr><td>9</td><td>地域の人</td><td>0.0</td><td>10</td><td>その他〔具体的に： 〕</td><td>2.7</td></tr> </table>	1	母親	49.3	2	父親	18.7	3	兄弟姉妹	24.0	4	祖父母	1.7	5	配偶者・パートナー	15.7	6	親戚(おじ・おばなど)	1.7	7	友人・知人	70.7	8	学校の先生	6.3	9	地域の人	0.0	10	その他〔具体的に： 〕	2.7	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div> <p>〔具体的内容〕</p> <hr/>
1	母親	49.3	2	父親	18.7																										
3	兄弟姉妹	24.0	4	祖父母	1.7																										
5	配偶者・パートナー	15.7	6	親戚(おじ・おばなど)	1.7																										
7	友人・知人	70.7	8	学校の先生	6.3																										
9	地域の人	0.0	10	その他〔具体的に： 〕	2.7																										
<p>問 19 あなたにとって最も理想的な結婚相手はどのような人ですか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>家庭を大切にする人</td><td>62.3</td><td>2</td><td>社交性のある人</td><td>2.7</td></tr> <tr><td>3</td><td>経済力のある人</td><td>6.0</td><td>4</td><td>いのちを大切にする人</td><td>3.3</td></tr> <tr><td>5</td><td>情緒豊かな人</td><td>5.3</td><td>6</td><td>知性が豊かな人</td><td>10.3</td></tr> <tr><td>7</td><td>ビジネスに熱心な人</td><td>1.0</td><td>8</td><td>その他〔具体的に： 〕</td><td>8.7</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>無回答</td><td>0.3</td></tr> </table>	1	家庭を大切にする人	62.3	2	社交性のある人	2.7	3	経済力のある人	6.0	4	いのちを大切にする人	3.3	5	情緒豊かな人	5.3	6	知性が豊かな人	10.3	7	ビジネスに熱心な人	1.0	8	その他〔具体的に： 〕	8.7					無回答	0.3	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div> <p>〔具体的に〕</p> <hr/>
1	家庭を大切にする人	62.3	2	社交性のある人	2.7																										
3	経済力のある人	6.0	4	いのちを大切にする人	3.3																										
5	情緒豊かな人	5.3	6	知性が豊かな人	10.3																										
7	ビジネスに熱心な人	1.0	8	その他〔具体的に： 〕	8.7																										
				無回答	0.3																										
<p>問 20 あなたは、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらに生まれ変わりたいですか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>男性</td><td>43.7</td><td>2</td><td>女性</td><td>36.0</td></tr> <tr><td>3</td><td>わからない</td><td>19.7</td><td></td><td>無回答</td><td>0.7</td></tr> </table>	1	男性	43.7	2	女性	36.0	3	わからない	19.7		無回答	0.7	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div>																		
1	男性	43.7	2	女性	36.0																										
3	わからない	19.7		無回答	0.7																										

<p>問 21 問 20 のお答えについてその理由を聞かせて下さい。</p>	<hr/> <hr/> <hr/>																							
<p>問 22 ところで、あなたの国・地域では「女らしさ」「男らしさ」という表現がありますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table data-bbox="268 470 1125 571"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ある</td> <td>88.7</td> <td>2</td> <td>ない</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>わからない</td> <td>8.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					(%)	1	ある	88.7	2	ない	3.0	3	わからない	8.3				<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>						
				(%)																				
1	ある	88.7	2	ない	3.0																			
3	わからない	8.3																						
<p>問 23 問 22 で「1.ある」と回答した方におたずねします。それはあなたの国・地域の規範としては強いものですか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>n=266</p> <table data-bbox="268 728 1125 840"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常に強い</td> <td>13.9</td> <td>2</td> <td>ある程度強い</td> <td>62.8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>あまり強くない</td> <td>20.3</td> <td>4</td> <td>わからない</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table>					(%)	1	非常に強い	13.9	2	ある程度強い	62.8	3	あまり強くない	20.3	4	わからない	3.0	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>						
				(%)																				
1	非常に強い	13.9	2	ある程度強い	62.8																			
3	あまり強くない	20.3	4	わからない	3.0																			
<p>問 24 あなたはいまの学生生活に満足していますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table data-bbox="268 1030 1125 1176"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>かなり満足している</td> <td>17.3</td> <td>2</td> <td>やや満足している</td> <td>44.7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>どちらともいえない</td> <td>20.7</td> <td>4</td> <td>やや不満である</td> <td>16.0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>かなり不満である</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					(%)	1	かなり満足している	17.3	2	やや満足している	44.7	3	どちらともいえない	20.7	4	やや不満である	16.0	5	かなり不満である	1.3				<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>
				(%)																				
1	かなり満足している	17.3	2	やや満足している	44.7																			
3	どちらともいえない	20.7	4	やや不満である	16.0																			
5	かなり不満である	1.3																						
<p>問 25 あなたは日ごろの生活で、男性もしくは女性が優遇されていると感じることがありますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table data-bbox="268 1332 1125 1467"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>かなり感じる</td> <td>13.3</td> <td>2</td> <td>やや感じる</td> <td>55.7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>どちらともいえない</td> <td>17.3</td> <td>4</td> <td>あまり感じない</td> <td>12.7</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>まったく感じない</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					(%)	1	かなり感じる	13.3	2	やや感じる	55.7	3	どちらともいえない	17.3	4	あまり感じない	12.7	5	まったく感じない	1.0				<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>
				(%)																				
1	かなり感じる	13.3	2	やや感じる	55.7																			
3	どちらともいえない	17.3	4	あまり感じない	12.7																			
5	まったく感じない	1.0																						

問26 問25で1・2.(大いにある・たまにある)と感じた方におたずねします。
 どのようなところで、どのように感じていますか。





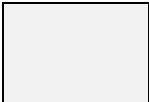

n=207		(%)	
家庭生活で	1 男性が優遇されている	38.6	<input type="text"/>
	2 女性が優遇されている	12.1	
	3 どちらともいえない	47.8	
	無回答	1.4	
大学(授業やゼミ、研究室で)	1 男性が優遇されている	13.0	<input type="text"/>
	2 女性が優遇されている	19.3	
	3 どちらともいえない	66.7	
	無回答	1.0	
アルバイトや仕事先で	1 男性が優遇されている	32.4	<input type="text"/>
	2 女性が優遇されている	25.6	
	3 どちらともいえない	40.6	
	無回答	1.4	
サークルで	1 男性が優遇されている	14.0	<input type="text"/>
	2 女性が優遇されている	31.4	
	3 どちらともいえない	52.2	
	無回答	2.4	
友人や恋人との関係で	1 男性が優遇されている	14.5	<input type="text"/>
	2 女性が優遇されている	37.2	
	3 どちらともいえない	45.4	
	無回答	2.9	

問27 全体として、日本の社会はどのような社会だと思いますか。
 (数字を1つ選んでください)

N=300		(%)	
1 男性が優遇されている社会	35.7	<input type="text"/>	
2 どちらかといえば男性が優遇されている社会	44.0		
3 男女どちらかが優遇されることなくバランスのとれた社会	8.7		
4 どちらかといえば女性が優遇されている社会	0.3		
5 女性が優遇されている社会	2.0		
6 わからない	9.3		

問28 問27でこたえた社会像に、あなたは賛成ですか。それとも反対ですか。
 (数字を1つ選んでください)

N=300		(%)	
1 大いに賛成	5.3	<input type="text"/>	
2 どちらかといえば賛成	15.0		
3 どちらかといえば反対	36.3		
4 まったく反対	24.7		
5 わからない	18.3		
無回答	0.3		

<p>問 29 あなたは、夫や恋人など親密な関係にある男性が女性に暴力を振るう「ドメスティック・バイオレンス」(Domestic Violence) という問題を知っていますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 知っている</td> <td>72.3</td> </tr> <tr> <td>2 聞いたことがある</td> <td>18.3</td> </tr> <tr> <td>3 はじめて聞いた</td> <td>9.3</td> </tr> </tbody> </table>		(%)	1 知っている	72.3	2 聞いたことがある	18.3	3 はじめて聞いた	9.3											
	(%)																		
1 知っている	72.3																		
2 聞いたことがある	18.3																		
3 はじめて聞いた	9.3																		
<p>問 30 問 29 で 1 . 2 . (知っている) と回答した方におたずねします。あなたが何歳の頃知りましたか。</p> <p>n=272</p> <p style="text-align: right;">平均 16.8 歳</p>	<p style="text-align: center;">歳頃</p> 																		
<p>問 31 問 29 で 1 . 2 . (知っている) と回答した方におたずねします。どのようなきっかけで知りましたか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>n=272</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 テレビや新聞をみて</td> <td>58.8</td> </tr> <tr> <td>2 雑誌や書籍で</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>3 インターネットで</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>4 家族や友人を見聞きして</td> <td>10.7</td> </tr> <tr> <td>5 学校の授業で</td> <td>15.1</td> </tr> <tr> <td>6 自分が経験した</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>7 その他〔具体的に：</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.8</td> </tr> </tbody> </table>		(%)	1 テレビや新聞をみて	58.8	2 雑誌や書籍で	8.5	3 インターネットで	1.5	4 家族や友人を見聞きして	10.7	5 学校の授業で	15.1	6 自分が経験した	2.2	7 その他〔具体的に：	1.5	無回答	1.8	 <p>〔具体的に〕</p> <hr/>
	(%)																		
1 テレビや新聞をみて	58.8																		
2 雑誌や書籍で	8.5																		
3 インターネットで	1.5																		
4 家族や友人を見聞きして	10.7																		
5 学校の授業で	15.1																		
6 自分が経験した	2.2																		
7 その他〔具体的に：	1.5																		
無回答	1.8																		
<p>問 32 全員におたずねします。ドメスティック・バイオレンスについて、どのように思いますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 いかなる状況でも暴力は許されるべきではない</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>2 許されるべきでないが、つい暴力を振るう気持ちもわかる</td> <td>12.3</td> </tr> <tr> <td>3 許されるべきでないが、被害者にも原因がある</td> <td>6.3</td> </tr> <tr> <td>4 双方の関係の問題であり、まわりがとやかくいう問題ではない</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>5 わからない</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>6 その他〔具体的に：</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table>		(%)	1 いかなる状況でも暴力は許されるべきではない	74.0	2 許されるべきでないが、つい暴力を振るう気持ちもわかる	12.3	3 許されるべきでないが、被害者にも原因がある	6.3	4 双方の関係の問題であり、まわりがとやかくいう問題ではない	3.3	5 わからない	2.0	6 その他〔具体的に：	1.3	無回答	0.7	 <p>〔具体的に〕</p> <hr/>		
	(%)																		
1 いかなる状況でも暴力は許されるべきではない	74.0																		
2 許されるべきでないが、つい暴力を振るう気持ちもわかる	12.3																		
3 許されるべきでないが、被害者にも原因がある	6.3																		
4 双方の関係の問題であり、まわりがとやかくいう問題ではない	3.3																		
5 わからない	2.0																		
6 その他〔具体的に：	1.3																		
無回答	0.7																		
<p>問 33 あなたは「従軍慰安婦」問題を知っていますか。(数字を1つ選んでください)</p> <p>N=300</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 知っている</td> <td>88.0</td> </tr> <tr> <td>2 聞いたことがある</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>3 はじめて聞いた</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table>		(%)	1 知っている	88.0	2 聞いたことがある	5.7	3 はじめて聞いた	5.7	無回答	0.7									
	(%)																		
1 知っている	88.0																		
2 聞いたことがある	5.7																		
3 はじめて聞いた	5.7																		
無回答	0.7																		
<p>問 34 問 33 で 1 . 2 . (知っている) と回答した方におたずねします。あなたが何歳の頃知りましたか。</p> <p>n=281</p> <p style="text-align: right;">平均 15.1 歳</p>																			

問35 問33で1、2.(知っている)と回答した方におたずねします。

どのようなきっかけで知りましたか。(数字を1つ選んでください)

n=281

	(%)
1 テレビや新聞をみて	43.1
2 雑誌や書籍	8.2
3 インターネットで	0.4
4 家族や友人から	1.4
5 学校の授業で	44.1
6 地域のイベント・講座などで	0.4
7 その他〔具体的に: 無回答	2.1 0.4

〔具体的に〕

問36 留学生の方に、あなたの国・地域のことをおたずねします。

あなたの国・地域では、この5年間で、つぎの4分野における女性の地位は向上したと思いますか。

n=174

家庭生活	(%)
1 女性の地位は十分に向上した	30.5
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	55.7
3 女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある	10.3
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	1.7
無回答	1.7

職場

1 女性の地位は十分に向上した	21.8
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	61.5
3 女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある	13.8
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	1.7
無回答	1.1

学校教育

1 女性の地位は十分に向上した	43.7
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	43.1
3 女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある	6.3
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	5.2
無回答	1.7

法律・社会制度

1 女性の地位は十分に向上した	22.4
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	55.7
3 女性の地位は向上しなかったため、今後は向上する必要がある	17.8
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	2.9
無回答	1.1

問 37 全員におたずねします。日本では、この5年間で、女性の地位は向上した
と思いますか。

N=300

家庭生活	(%)
1 女性の地位は十分に向上した	17.0
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	53.0
3 女性の地位は向上しなかったので、今後は向上する必要がある	25.0
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	2.7
無回答	2.3
職場	
1 女性の地位は十分に向上した	6.3
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	62.3
3 女性の地位は向上しなかったので、今後は向上する必要がある	26.7
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	2.0
無回答	2.7
学校教育	
1 女性の地位は十分に向上した	29.3
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	55.7
3 女性の地位は向上しなかったので、今後は向上する必要がある	9.0
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	3.3
無回答	2.7
法律・社会制度	
1 女性の地位は十分に向上した	15.0
2 女性の地位は向上したが、今後も向上する必要がある	64.7
3 女性の地位は向上しなかったので、今後は向上する必要がある	16.0
4 女性の地位は今後も向上しなくてよい	2.0
無回答	2.3

問 38 女性の地位が向上しない理由があるとしたら、それはどのようなことだ
と思いますか。(数字をいくつでも選んでください)

N=300

	(%)
1 女性に対する教育の機会が十分でないこと	7.3
2 法制度など社会のしくみが女性の自立を阻んでいること	37.7
3 家事、子育て・介護などの女性の負担が大きいこと	51.7
4 男性が主で女性が従という意識が変わらないこと	55.7
5 女性に対する暴力など女性の人権を侵害する問題が多いこと	16.0
6 女性が発言したり意見を言う場が少ないこと	24.0
7 その他〔具体的に： 〕	4.3
8 わからない	3.0
無回答	1.3

〔具体的に〕

問39 あなたにとって、男女の関係がもっとも理想的だと思う国はどこですか。
国名を書いてください。

問 40 問 39 であなたがそう考えたのはなぜですか。その理由を書いてください。

問41 これから女性の人権や女性の地位向上のために、どのようなことが重要になるとお考えですか。(数字をいくつでも選んでください)

	(%)
N=300	
1 女性の教育や学習の機会を広げる	22.3
2 人権に関する教育を充実させる	39.0
3 女性の大臣や管理職、女性リーダーを増やす	38.7
4 各国の伝統文化にあわせた女性の地位向上策をすすめる	26.7
5 家事や育児、介護などの男女の役割分担を見直す	59.3
6 育児・介護の休業制度や社会サービスを充実させる	47.7
7 女性の起業を助けるための支援をする	19.7
8 女性の地位向上に取り組むグループや団体の支援をする	17.3
9 農村での女性の経済的な自立を進める	15.0
10 女性が抱える問題について、社会の啓発を進める	41.0
11 アジアにおける人権の歴史を正しく学ぶ機会を増やす	20.0
12 その他〔具体的に；	4.0
無回答	1.0



〔具体的に〕

問42 女性の人権や女性の地位の向上について、日ごろ考えていることを何でも書いてください。

ご協力ありがとうございました

無断転載を禁じます。

(財)女性のためのアジア平和国民基金(アジア女性基金)

2003年3月発行

この報告書は、アジア女性基金が株式会社生活構造研究所に委託したアンケートによる調査の報告です。